

人文科学分野

科目 哲学

2単位

担当 文学部准教授 荒畑靖宏 / 講師 村井忠康

この講義では、西洋哲学が人間の「知識」と「行為」についてどのような考え方をしてきたかを紹介し、検討する。講義は、毎日前半を認識論、後半を行為論に割り当てる。

【前半 認識論】西洋の伝統的な認識論は、次の三つの前提を基礎にしていると思われる。(1) 認識は人間と世界との模範的な接触であり、世界知が世界に対する人間の関わり全般の基礎にあるべきだ。(2) 人間が知識を獲得する最も直接的かつ実りある仕方は「知覚」である。(3) 認識論の使命は懐疑論の論駁にある。この講義では、まずは依然としてこの前提に立っていると思われる現代の知識の哲学の諸々の立場を概説したうえで、最終的にこれらの前提そのものを批判的に検討したい。

【後半 行為論】現代の行為論の主流である因果説によれば、行為は意図のような心的状態によって引き起こされる。ここには行為と意図がきっぱり分けられるという前提がある。講義では、因果説をその登場の背景から解説したのちに、因果説が前提する行為と意図の分断に疑いを投げかける立場を検討する。

- 〔第1回〕 認識論①：現代の知識の哲学（1）
- 〔第2回〕 行為論①：古典的意志理論と反因果説
- 〔第3回〕 認識論②：現代の知識の哲学（2）
- 〔第4回〕 行為論②：因果説
- 〔第5回〕 認識論③：知覚の哲学と認識論（1）
- 〔第6回〕 行為論③：因果説の直面する問題
- 〔第7回〕 認識論④：知覚の哲学と認識論（2）
- 〔第8回〕 行為論④：反因果説の復権？
- 〔第9回〕 認識論⑤：懐疑論と認識論
- 〔第10回〕 行為論⑤：意図と行為の連続的な捉え方
- 〔第11回〕 全体のまとめとふりかえり
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 論理学

2単位

担当 講師 佐藤有理

この講義は、現代論理学の入門コースです。現代論理学は、しばしば記号論理学とも呼ばれ、形式言語・人工言語を導入した上で、推論 (inference) あるいは論証 (argument) について分析を行います。特に

この講義では、古典論理 (Classical Logic) のうち命題論理 (Propositional Logic) と呼ばれる論理学の中で最も基礎となるシステムにおいて、意味論 (真理表) と証明論 (自然演繹) それぞれの観点から、正しい推論を誤った推論から区別する原理的な方法を学びます。

ただし、現代論理学を学ぶ上で、論理を形式理論としてだけみなす必要はありません。われわれの日常的な場面と結びつけ、具体例を交えながら理解を深めていくことも可能です。講義では、そのためのサポートも行いたいと思っています。

現代論理学を学ぶということは、なにかを暗記する作業ではなく、これまで出会ったことのない未知の問題にも適用できるようなある種の一般的な考え方や手続きを身につけることです。そのためには、わからないところがあれば、どこがわからないのかをはっきりさせ、そのつど疑問点を解消していく必要があります。論理学の授業は、そのような学習のスキルを身につける格好の機会になります。

- 〔第1回〕 インフォーマルな推論の分析
- 〔第2回〕 日本語文の記号化／命題論理の形式言語
- 〔第3回～第5回〕 命題論理の意味論 (真理表)
- 〔第6回～第10回〕 命題論理の証明論 (自然演繹)
- 〔第11回〕 述語論理入門
- 〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義中に問題演習を行うので、ノートを用意することをお勧めします。受講上の前提条件はありません。特別な事前知識は仮定していません。

◆成績評価方法

最終日に実施される非論述式の記述試験 (論理の問題を解くことが求められます) の得点を基に評価します。

科目 倫理学

2単位

担当 講師 圓増 文

この授業では、おもに「幸福とはどのような状態か」、「道徳的であることと幸福であることはいかに関係するのか」、「何をもって平等とみなすのか」、「自由とは何か」、「道徳的であるとはどのようなことか」といった問題をめぐる近現代の倫理学の代表的な学説や議論を紹介していきます。また、現代社会における倫理的な課題を可能な限り取り上げていきます。また時間・受講者数に応じて授業中にディスカッションを行います。

- 〔第1回〕 イントロダクション、幸福をめぐる思想・議論
〔第2回〕 幸福をめぐる思想・議論
〔第3回〕 社会と正義、平等をめぐる思想・議論
〔第4回〕 社会と正義、平等をめぐる思想・議論
〔第5回〕 社会と正義、平等をめぐる思想・議論
〔第6回〕 善悪、道徳をめぐる思想・議論
〔第7回〕 善悪、道徳をめぐる思想・議論
〔第8回〕 善悪、道徳をめぐる思想・議論
〔第9回〕 自由をめぐる思想・議論
〔第10回〕 自由をめぐる思想・議論
〔第11回〕 自由をめぐる思想・議論
〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
・ 柘植尚則編著『入門・倫理学の歴史—24人の思想家』（梓出版社、2016年）
ISBN 978-4-87262-038-2
◆受講上の要望または受講上の前提条件
授業中実施するディスカッションに積極的に参加できること。
◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 芸術（美術）	2 単位
担当 講師 國本学史	

- 【講義概要】
本講義は、通史的に日本美術史を概観する。特に古代から近世に至る時代における日本美術を中心に歴史を辿る。この時代、日本は諸外国の影響を受けつつも、独自の文化・芸術を発展させて行った。歴史的な流れとともに様々な芸術作品を見ることで、日本独特の美意識や文化の深層を探る端緒としたい。
- 【講義方法】
講義では画像を多く用いて、視覚的に分かりやすく解説する。対象は、絵画・彫刻・工芸・建築等、幅広い領域にわたり、多くの作品を歴史の流れに沿って考察する。
- 【到達目標・目的】
美術における表現・デザインを学ぶことで芸術が生成された背景を探り、履修者が知識・教養を会得して、即物的利益や金銭を基準とした価値観から離れた「歴史・文化・芸術」的な価値とは何かという、個々の見識が得られるようにしたい。
- 【講義計画】
〔第1回〕 はじめに、日本美術のあけぼの
〔第2回〕 祭祀と美術
〔第3回〕 仏教伝来と美術
〔第4回〕 国の形成と美術
〔第5回〕 国家事業と美術
〔第6回〕 海外交流と美術
〔第7回〕 密教と美術
〔第8回〕 王朝文学と美術
〔第9回〕 極楽浄土と美術
〔第10回〕 武家社会と美術
〔第11回〕 文化の多様性と美術
〔第12回〕 様々な担い手と美術、まとめ

- ◆テキスト
・プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
・辻惟雄監修『カラー版日本美術史〔増補新装版〕』（美術出版社、2003年）
・『日本美術全集』全24巻＋別巻2巻（講談社、1990～94年）他
全集等の参考文献は購入の必要はないが、図書館等を活用して、各自で参照されたい。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
・高等学校で履修する日本史の基礎知識があると、理解の手助けになる。ただし、知識がなくとも、講義を理解できるように解説する。
・パワーポイントスライド映写時には教室を暗くするため、各自で手元ライト等を準備されたい。
- ◆成績評価方法
・平常点、及び講義の際に課す小テスト（合計3回程を予定）の成績等をもって評価する。当該の小テストは、講義時間内に実施する。
・講義初日に、小テストの日程等を通知予定。

科目 芸術（音楽）	2 単位
担当 講師 藤井孝一	

- 音楽と社会
西洋音楽の歴史は、欧米社会の変化と不可分の関係にあります。読み解かれるべきテキストとしての音楽作品と、コンテキスト、すなわち音楽作品が成立し受容された社会背景の双方を併せて考察すること無しには、作品を十分に理解したとは言えません。この講義では、音楽作品それ自体と、その作品が成立し、演奏され、受容された時代背景を併せて考察することを通して、音楽作品を理解するための幅広い教養を養い、同時に歴史的な視点を身につけることを目標とします。西洋音楽の諸ジャンルやパトロネージュ、作品の受容の変化・変遷を、西欧社会の変化と関連づけて考察します。視聴覚教材を用い、できるだけ多くの作品を（疑似）体験していただきながら授業を進めます。
- 初回により詳細なシラバスを配布しますが、概ね下記のとピックスを予定しています。
- 〔第1回〕 西洋音楽史の時代区分
〔第2回〕 中世・ルネサンス期：教会音楽と世俗音楽
〔第3回〕 バロック期：宮廷文化とオペラ、バレー
〔第4回〕 バロック期～古典派：啓蒙専制君主と音楽家達
〔第5回〕 バロック期～古典派：公開演奏会の成立
〔第6回〕 古典派～ロマン派：オーケストラの拡大
〔第7回〕 古典派～ロマン派：市民社会の成立とピアノ
〔第8回〕 古典派～ロマン派：ナショナリズムと音楽
〔第9回〕 近代：音楽のモダニズム
〔第10回〕 近代：大衆文化と音楽
〔第11回〕 近代：音楽と政治（続き）
〔第12回〕 総括
- ◆テキスト
特に指定しません。レジュメ、資料は、毎回プリントとして配布し、PowerPoint / Keynoteを用い映

- 写します。
- ◆参考文献
・久保田慶一他『はじめての音楽史—古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで〔増補改訂版〕』（音楽之友社、1996年/2009年）
既に何らかの音楽事典や音楽史概説の書籍を所有している学生は、改めて購入の必要はありません。その他、初回に基本的なリファレンスの一覧を配布し、講義中にも適宜指示します。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
受講を制限するものでもなく、成績評価に直接影響するものでもありませんが、講義内容をよりよく理解するためにも、簡単な譜例が理解できる程度の楽典の基礎知識があることが望ましいです。（成績評価には音楽の知識、技能は一切影響しません。）
また、たとえ「耳障り」で「難解」な音楽であっても、アカデミックかつ真摯な態度で作品に接してくれること、大人数であっても積極的にクラスに参加してくれることを期待しています。
- 受講にあたって予習をしておきたいという学生の方は、任意の音楽史の概説書で、バロック時代以降、第二次世界大戦以前に関する各章に目を通しておかれると良いでしょう。また、高校の「世界史」の教科書、参考書などで、近代西洋史について基礎的な文献を一読しておくこともお勧めします。
- 時間の制限上、講義中に鑑賞できる作品の数はどうしても限られてきます。講義の中で言及する作品については、講義の中で鑑賞するか否かにかかわらず、キャンパス内でのみ利用可能な音楽配信サービス(Naxos)のプレイリストを用意する予定です。講義の空き時間などを活用し利用してください。利用に際しては、キャンパス内のITサイトを利用するアカウント（ITCアカウント、有料）が必要となります。このサービスを利用するか否かは試験など成績評価には直接影響しません。あくまで向学心旺盛な学生諸君の予復習への対応が目的です。
- ◆成績評価方法
最終日に授業内試験を行います（持込可）。リスニング問題を含む論述問題3～5題の出題を予定しています。詳細は初回に説明し、授業内でも随時指示します。

科目 歴史（日本史）	2 単位
担当 文学部准教授 上野大輔	

- 近世国家の成立と身分制の構造
日本における近世国家の成立と身分制の構造について講義する。それを通じて、日本近世史の知識を習得すると共に、時代の特質について理解を深めることを目指す。
- 初回に「近世」という時代区分の特質を簡単に押さえた上で、第2～6回で国家体制成立の諸相を検討し、第7～11回では社会を構成する諸身分を順次取り上げる。そして最終回には筆記試験を実施し、本授業の総括を行うというプランである。
- 講義に際しては、日本近世史の事実関係を確認するだけではなく、具体的な先行研究を取り上げて吟味し、

- 以て研究史上の課題も示したい。また各回の内容は、全体プランの一環であると同時に、独自の広がりをするものとしたい。
- 〔第1回〕 「近世」とは何か
〔第2回〕 織豊政権
〔第3回〕 検地と石高制
〔第4回〕 対外関係の推移
〔第5回〕 キリシタン禁制
〔第6回〕 天下人の神格化
〔第7回〕 幕藩領主
〔第8回〕 朝廷
〔第9回〕 村と百姓
〔第10回〕 町と町人
〔第11回〕 寺社
〔第12回〕 総括
- ◆テキスト
・プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
・参考文献は授業中に紹介します。
・ご質問は授業終了後をお願いします。
- ◆成績評価方法
試験で評価する。

科目 歴史（東洋史）	2 単位
担当 文学部教授 岩間一弘 / 講師 五味知子	

- 【授業の概要】
本講義では、生活文化のなかでも特に家族と食の問題を中心に取り上げながら、近世から近現代にかけての中国をはじめとする東アジアの歴史と社会を概観します。
- 【授業の概要】
〔第1回〕 中国古代の家族秩序とジェンダー
〔第2回〕 中国近世の家族秩序
〔第3回〕 中国近世の宗族
〔第4回〕 中国近世のジェンダー
〔第5回〕 中国・朝鮮・日本の家族
〔第6回〕 中国の家族秩序とジェンダーについてのまとめと理解度の確認
〔第7回〕 東アジアの近代戦争と食文化
〔第8回〕 中国料理と近現代日本Ⅰ—日中戦争以前
〔第9回〕 中国料理と近現代日本Ⅱ—日中戦争以後
〔第10回〕 欧米の中国料理
〔第11回〕 台湾の和・洋・中
〔第12回〕 朝鮮・韓国の食文化と国際化

- ◆テキスト
・指定しない。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
授業の進度によって、内容を一部変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ◆成績評価方法
平常点（出席状況、毎回の授業での課題、小テストなど）で評価します。

科目 歴史（西洋史）	2 単位
担当 講師 舟橋倫子	

現在、ヨーロッパ共同体が論争的となっています。それは「ヨーロッパ」が失われてしまう危機なのでしょうか？　そもそも「ヨーロッパ」とは何でしょうか。それは地理的である以上に、多様な共同体の総体という文化的な概念です。このことはヨーロッパにおいて、統合と分裂が相互に結合していることを意味しています。ヨーロッパはその黎明期から今日に至るまで全体として一つの閉じた宇宙であったことはありません。矛盾と分裂を抱えつつ、止まることなく絶えず自らの領域モデルを抜け出して発展し、他者との対話によって新たな姿を目指して変化し続けてきました。この特有のダイナミズムこそがヨーロッパの本質です。この講義では、文化的・地理的概念としての「ヨーロッパ」が生み出され、形成されてゆく過程の全体像を古代から近代までを対象として検討してゆきます。

〔第一日〕 ①地中海世界：他者とはなにか ②ローマ帝国：分裂と統合

〔第二日〕 ③キリスト教の世界：時間・空間概念 ④共同体の形成

〔第三日〕 ⑤ヨーロッパの拡大 ⑥ネットワークの形成

〔第四日〕 ⑦宗教改革：矛盾と分裂 ⑧「新しい」発見

〔第五日〕 ⑨「近代性」の概念 ⑩植民地

〔第六日〕 ⑪ヨーロッパの多様性と統合：総括 ⑫試験

- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布します。
- ◆参考文献
 - ・服部良久／南川高志／山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史「古代・中世」』（ミネルヴァ書房、2006年）
 - ・小山哲／上垣豊／山田史郎／杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史「近現代」』（ミネルヴァ書房、2011年）
 - ・J・ル＝ゴフ著、池田健二・菅沼潤訳『中世とは何か』（藤原書店、2005年）
 - ・J-L. フランドラン・M. モンタナリー編、宮原信・北代美和子監訳『食の歴史』（藤原書店、2006年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - ・高等学校で履修する程度の世界史の知識があることを前提として講義を進めます。
- ◆成績評価方法
 - ・最終日に試験を行います。配布プリントと自筆ノートは持ち込み可とします。

科目 文学 A	2 単位
担当 文学部教授 松田隆美	

旅と文学・書物

旅は文学と密接な関係にある。旅自体が非日常の体験なので、旅行記として記録され続けてきたし、旅の体験を通じてもたらされる主人公の成長は、中世のロマンス以来、フィクションの代表的なテーマである。文学のなかの旅の目的地は現実世界には限られない。

ファンタジーの世界、死後の世界、歴史上の過去や未来など、移動手段を工夫することで、いかなる次元にも旅が可能である。一方で、現実の旅は読書の機会を提供する。持ちちぶさたな移動中は読書のための貴重な時間であり、また、見知らぬ土地を旅行するにはガイドブックの類の書物は欠かせない。書物自体も、複数の所有者のあいだを渡り歩くことで、旅人以上に長期にわたって旅をする。15世紀の半ばにドイツのマインツで印刷された「グーテンベルク聖書」の一冊が、500年以上の旅の結果、三田の慶應義塾図書館に安住の地を見いだすことをいったい誰が想像し得ただろうか。この講義では、ヨーロッパ（主にイギリス）文学と書物と旅の多様な関係を、文学史と書物文化史の視点から検討し、一緒に考えてみたいと思います。旅と物語と書物そのものに興味がある受講者を歓迎します。

- 〔第 1 回〕 イントロダクション
- 〔第 2 回〕 旅とヨーロッパ文学—ジャンルの紹介
- 〔第 3 回〕 紀行文学の歴史—巡礼記から観光旅行へ（1）
- 〔第 4 回〕 紀行文学の歴史—巡礼記から観光旅行へ（2）
- 〔第 5 回〕 物語の「場」としての旅—チャースー『カンタベリー物語』と中世ヨーロッパの旅（1）
- 〔第 6 回〕 物語の「場」としての旅—チャースー『カンタベリー物語』と中世ヨーロッパの旅（2）
- 〔第 7 回〕 ロマン스와 ファンタジーの旅の起源—中世ロマンスと死後世界探訪譚（1）
- 〔第 8 回〕 ロマン스와 ファンタジーの旅の起源—中世ロマンスと死後世界探訪譚（2）
- 〔第 9 回〕 近代ヨーロッパのグランド・ツアーと旅の書物
- 〔第10回〕 旅人のための書物と文学—19世紀イギリスの鉄道旅行と旅する書物
- 〔第11回〕 アンチ・ツーリズムと紀行文学（D.H. ロレンスのイタリア紀行）

- 〔第12回〕 総括
- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布する。
 - ◆参考文献
 - ・松田隆美編『旅の書物／旅する書物』（慶應義塾大学出版会、2015年）
 - ・明星聖子・納富信留編『テキストとは何か—編集文献学入門』（慶應義塾大学出版会、2015年）
 - ・河内恵子、松田隆美、坂本光、原田範行『イギリス文学と旅のナラティヴ—『マンデヴィルの旅』から『ドラキュラ』まで』（慶應義塾大学出版会、2004年）
 - ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - ・特になし。
 - ◆成績評価方法
 - ・最終日の試験による。

科目 文学 B	2 単位
担当 文学部教授 平田栄一郎	

近年ヨーロッパの人文学では従来の悲劇論を刷新す

る考え方が提唱されています。ドイツの哲学者クリストフ・メンケは、破局的な出来事を描くのが悲劇ではなく、それを回避しようとしたり、問題を解決しようとする試みに悲劇の現代的な特徴があると指摘し、この立場から悲劇作品を読み直しました。他方ドイツの演劇学者ハンス＝ティース・レーマンは、人間が主体的に他者や世界と関わることにこそ悲劇の特徴があるとみなして、メンケと同様に悲劇作品に新しい解釈をもたらしました。

どちらの悲劇論も、運命・恐怖・同情・自己犠牲といった伝統的な悲劇観と一線を画しています。本講義ではメンケとレーマンの新しい悲劇論と、それに基づく悲劇作品の解釈を紹介します。またそのような解釈は、現代社会や現代人を反映したものとなっています。新しい悲劇論がどのようにして現代社会と関連するかについても解説します。

〔第 1 回〕 イントロダクション：悲劇（論）の基本 I

社会科学分野

科目 法学（憲法を含む）	2 単位
担当 講師 高田久実	

- 現代社会における日々の生活が、「法」の存在を無視して成り立つものでないことは周知の事実であろう。そのような「法」をめぐる知見を深めるため、法学を学ぶ基盤を形成することが本講義の目的である。法学を理解するうえで基本的かつ重要な論点を考察することにより、法的な知識および思考の獲得を目指す。
- 〔第 1 回〕 開講にあたって・法学に関する基礎文献について
- 〔第 2 回〕 「六法」の利用・法令の構造・難読難解法律用語
- 〔第 3 回〕 法令用語をめぐって・法律格言
- 〔第 4 回〕 法規範および法存在の根拠をめぐる学説
- 〔第 5 回〕 法源（法の存在形式）—成文法と不文法
- 〔第 6 回〕 わが国における成文法
- 〔第 7 回〕 わが国における不文法
- 〔第 8 回〕 法の種類①
- 〔第 9 回〕 法の種類②
- 〔第10回〕 法の効力
- 〔第11回〕 法の解釈と適用
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・霞信彦『法学講義ノート〔第 6 版〕』（慶應義塾大学出版会、2016年）ISBN 978-4-7664-2311-2
- ◆参考文献
 - ・霞信彦編『法学概論』（通信テキスト、2015年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - ・受講者には積極的に六法を引き、法律に親しんでもらいたい。ただし、「六法」については初回講義においてガイダンスをおこなうので、その後の購入をすすめる。

- 〔第 2 回〕 イントロダクション：悲劇（論）の基本 II
- 〔第 3 回〕 『オイディプス王』
- 〔第 4 回〕 『オイディプス王』論
- 〔第 5 回〕 『アンティゴネー』
- 〔第 6 回〕 『アンティゴネー』論
- 〔第 7 回〕 『ハムレット』
- 〔第 8 回〕 『ハムレット』論
- 〔第 9 回〕 『エンドゲーム』
- 〔第10回〕 『エンドゲーム』論
- 〔第11回〕 日本演劇における悲劇
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・指定しない。
- ◆成績評価方法
 - ・出席状況、授業への姿勢、最終日の試験結果を総合的に判断して評価します。

科目 政治学	2 単位
担当 講師 芝田秀幹	

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。また、現実が生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。

〔第 1 回〕 開講オリエンテーション：「居酒屋政治談義」を越えて

〔第 2 回〕 政治

〔第 3 回〕 政治学

〔第 4 回〕 政治権力

〔第 5 回〕 政治体制

〔第 6 回〕 政治過程

〔第 7 回〕 選挙

〔第 8 回〕 政党

〔第 9 回〕 官僚制

〔第10回〕 マスメディア

〔第11回〕 地方自治

〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
 - ・講義の中で随時紹介する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - ・「政治」について議論することと、「政治学」について議論することとは必ずしも同じではない。あくまで、学問としての「政治学」の研究成果を学ぶのだ、という意識で授業に臨んでもらいたい。

- ◆成績評価
最終日の試験による。

科目	経済学	2単位
担当	講師 北條陽子	

本講義は、経済学の基礎知識を学ぶための科目です。経済学には大きく分けてミクロ経済学とマクロ経済学とがあり、それぞれの入門的な内容を解説します。

経済学部を受講生には、今後専門的な内容や応用分野を学んでいくために不可欠となる土台作りを、他学部を受講生には、経済学的な考え方に触れて経済学に興味を持って頂くことを目標としています。

- 〔第1回〕 はじめに・市場について
- 〔第2回〕 需要と供給
- 〔第3回〕 需要の価格弾力性
- 〔第4回〕 消費者行動と生産者行動
- 〔第5回〕 市場メカニズムの効率性と限界
- 〔第6回〕 国民経済計算
- 〔第7回〕 物価の変動
- 〔第8回〕 マクロ経済における需要と供給
- 〔第9回〕 財市場―乗数効果
- 〔第10回〕 貨幣市場
- 〔第11回〕 財政政策と金融政策
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
・プリントを適宜配布する。

- ◆参考文献
・伊藤元重『入門経済学〔第4版〕』（日本評論社、2015年）
・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ篇〔第3版〕』（東洋経済新報社、2013年）
・塩澤修平・北條陽子『基礎から学ぶミクロ経済学』（新世社、2010年）
・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門〔第5版〕』（有斐閣、2016年）

- ◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目	社会学	2単位
担当	文学部准教授 竹村英樹	

〔授業の概要〕

社会学を初めて学ぶ人を対象に、社会学的な考え方や説明のしかたを身に付けることを目的として講義をします。この授業では、現代社会において重要と思われる事象を取り上げて、社会学的な分析を行うことで、社会学的な考え方や説明のしかたを身につけていきます。

- 〔第1回〕 社会学入門〈以前〉：〈問いかける〉ことを学ぶ
- 〔第2回〕 社会学入門：〈社会現象〉を実感する
- 〔第3回〕 現代社会の人間関係：特徴としての親密性
- 〔第4回〕 〈学校から職業への移行〉の社会学
- 〔第5回〕 〈若者の人間関係〉の社会学
- 〔第6回〕 地域社会の社会学

- 〔第7回〕 社会的不平等と社会階層（1）
- 〔第8回〕 社会的不平等と社会階層（2）
- 〔第9回〕 ジェンダーと社会
- 〔第10回〕 リスク社会論
- 〔第11回〕 社会学を学ぶ人のために：これからの学び方
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
・友枝敏雄・山田真茂留編『Do！ ソシオロジー〔改訂版〕』（有斐閣、2013年） ISBN 978-4-641-12496-7

- ◆参考文献
・竹内洋著『社会学の名著30』（筑摩書房（ちくま新書718）、2008年）

- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
大人数の履修者が予想されますので、講義形式を主としますが、対話的要素を加味して授業を行います。教師による指名と履修者の応答、毎授業後のコメントカードの提出などが求められます。
第3回目以降は順番を変えることがあります。

- ◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目	社会心理学	2単位
担当	文学部教授 杉浦淳吉	

集団や社会の中で個人は何を考え、どのように行動するのだろうか。また、個人の行動の結果、集団や社会はどのように変化していくのだろうか。このことについて、日常生活にかかわりの深い事例を取り上げながら、社会心理学的な発想を理解する。講義では実習を適宜行い、それらの結果をもとに社会心理学の知見を考察していく。

- 〔第1回〕 社会心理学の方法と歴史
- 〔第2回〕 対人認知と対人行動
- 〔第3回〕 集団間関係
- 〔第4回〕 社会的ジレンマ
- 〔第5回〕 社会と文化
- 〔第6回〕 対人コミュニケーション
- 〔第7回〕 個人と集団の意思決定
- 〔第8回〕 説得と態度変容
- 〔第9回〕 販売・購買と交渉
- 〔第10回〕 環境問題への意識・行動
- 〔第11回〕 組織とリーダーシップ
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
・安藤香織・杉浦淳吉（編著）『暮らしの中の社会心理学』（ナカニシヤ出版、2012年） ISBN 978-4-7795-0659-8

- ◆参考文献
・遠藤由美（編著）『社会心理学：社会で生きる人のいとなみを探る』（ミネルヴァ書房、2009年）
・亀田達也・村田光二（著）『複雑さに挑む社会心理学：適応エージェントとしての人間〔改訂版〕』（有斐閣、2010年）

- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
他の心理学関係の講義を受講してください。

- ◆成績評価方法
最終日の試験、および講義内での演習のレポートによる。

科目	社会科学概論	2単位
担当	講師 畑本裕介	

この講義は、受講生がこれから専門的な社会科学各分野の理論を習得していく際に前提となる共通了解事項と考えられるものを取り上げます。社会科学ならどの分野にも共通するために確認しておく必要があるものの、専門分野の研究に打ち込んでいるとつい見失ってしまいがちな知識があります。この講義で取り上げるのはそうした知識です。よって、すぐに各分野の研究に応用できるものでもありません。しかし、どれも社会科学の最新の知見ですので、皆さんの知的好奇心を刺激するものだと思います。

- 〔第1回〕 オリエンテーション／社会科学の不確実さについて①
- 〔第2回〕 社会科学の不確実さについて②
- 〔第3回〕 社会科学の方法論論争：KKV論争について
- 〔第4回〕 社会科学の客観性①：ウェーバーの客観性論文
- 〔第5回〕 社会科学の客観性②：ローティとポパー
- 〔第6回〕 グループワーク（例年の時事的テーマ）
- 〔第7回〕 社会科学の対象としての行為①：方法論的個人主義と方法論的集合主義
- 〔第8回〕 社会科学の対象としての行為②：システムとエージェンシ
- 〔第9回〕 功利主義批判と公共哲学の展開①：ロールズ、ノージック
- 〔第10回〕 功利主義批判と公共哲学の展開②：セン
- 〔第11回〕 社会科学の新潮流：グローバリゼーションとフェミニズム
- 〔第12回〕 まとめと知識の確認

- ◆テキスト
プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
特にありません。

- ◆成績評価方法
毎回出席を取り、出席態度と最終日に行うテストの点から総合的に評価を行う（出席状況6割、テスト4割）。

科目	社会科学特論	2単位
担当	講師 梅原秀元	

本講義では、19世紀後半から20世紀前半にかけてのドイツをフィールドとして、科学と社会との関係を考える。まず、第1回目と第2回目の講義でオリエンティールングを行うとともに、対象とする時期のドイツの歴史を概観する。第3回目では、科学と社会について本講義でどのような視角から検討するのかを提示する。さらに、対象とする時期のドイツにおいて、学問研究のための場――大学と大学外研究組織――が

どのように確立していったのかを検討する。第4回目から第10回目の講義では、おもにドイツの医学・衛生学を例に、科学と社会との関係を具体的に検討する。第11回目の講義では、それまでの講義の内容を振り返って、議論を総括し、第12回目に、講義の内容に即した試験を行う。

ドイツにおける科学と社会との相互関係を俯瞰するとともに、具体的な事例（医学・衛生学）を通して科学と社会の相互関係について検討することが、本講義の狙いである。

- 〔第1回・第2回〕 オリエンティールングと講義内容の概観；19世紀～20世紀のドイツ史概観
- 〔第3回〕 科学と社会―有用な知識・役に立つ学問―19世紀～20世紀前半のドイツにおける学問研究の場（大学と大学外研究組織）
- 〔第4回・第5回〕 19世紀後半から20世紀初頭のドイツにおける医学と公衆衛生

- 〔第6回〕 人口と優生学をめぐって
- 〔第7回・第8回〕 第一次世界大戦とドイツの医療・医学
- 〔第9回・第10回〕 治療と絶滅 ナチスドイツと医学
- 〔第11回・第12回〕 総括および試験

- ◆テキスト

- ・とくになし。

- ◆参考文献
下記に挙げる文献は、購入の必要はない。しかし、もし公立図書館などでの閲覧・貸出によって手に取ることができれば、本講義の理解にプラスとなろう。

- 1）本講義が対象とする時期のドイツ史の基本的な外観として、
・矢野久／アンゼルム・ファウスト『ドイツ社会史』（有斐閣コンパクト、2001年）
が有益である。

- 2）19世紀から20世紀のヨーロッパにおける医学・衛生学の展開について、
・Willian Bynum『医学の歴史』（鈴木晃仁・鈴木実佳訳）（丸善出版（サイエンス・パレットシリーズ）、2015年）
がコンパクトかつ的確に示している。

- 3）19～20世紀における科学と社会の関係について
・廣重徹『科学の社会史』（上下巻）（岩波現代文庫、2003年）（絶版中）

- 4）とくにナチス期のドイツの医学・衛生学について
本講義の後半部分の理解の助けとなるが、価格が非常に高いか、絶版になっており、購入は極めて難しい。したがって、慶應義塾の図書館や公立の図書館などでの利用を強くすすめる。

- ・エルンスト・クレー『第三帝国と安楽死：生きるに値しない生命の抹殺』（松下正明監訳）（批評社、1999年）
- ・Ch. プロス／G. アリ編『人間の価値 1918年から1945年までのドイツの医学』（林功三訳）（風行社、1993年）
- ・アレキサンダー・ミッチャーリッヒ／フレート・ミールケ編『人間性なき医学：ナチスと人体実験』（金森誠也・安藤勉訳）（星雲社、2001年）
- ・ベンノ・ミュラー＝ヒル『ホロコーストの科学：ナチの精神科医たち』（南光進一郎監訳）（岩波書店、

- 1993年)
- ・カール＝ビンディング／アルフレート＝ホッペ『「生きるに値しない命」とは誰のことか：ナチス安楽死思想の原典を読む』（森下直貴・佐野誠訳）（窓社、2001年）
 - ・ヒュー G. ギャラファー『ナチスドイツと障害者「安楽死」計画』（長瀬修訳）（現代書館、1996年）
 - ・木畑和子「民族の『健康』を目指して―第三帝国の保健衛生行政」川越修・矢野久編『ナチズムのなかの20世紀』（柏書房、2002年）所収
 - ・木畑和子「第二次世界大戦下における『安楽死』問題」井上茂子他共編著『1939 ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』（同文館、1989年）所収
 - ・川越修『社会国家の生成：20世紀社会とナチズム』

- （岩波書店、2004年）
- 上記の参考文献以外にも、講義において適宜示す。
- ◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
- とくに必要とされる前提条件は無い。ただし、ドイツの19世紀末から20世紀にかけての歴史を題材とするので、これについて多少なりとも知識があるとよい。受講者は、たとえば、高校の世界史の教科書などなので、19～20世紀のヨーロッパ史についてみておくとい。第12回目に行われる試験は、講義内容に即したものになるので、受講する学生はまず講義に耳を傾けてほしい。また、わからない部分があれば、講義の途中で質問してほしい。
- ◆**成績評価方法**
- 最終日に試験を行い、それによって成績評価を行う。

自然科学分野

科目	統計学	2 単位
担当	講師 溝下雅子	

- 『統計学』は、大量のデータの中に存在する法則性を扱う分析手法である。急速に情報化が進展した現代社会においては、多種多様かつ大量なデータを処理し、選別する能力が以前にも増して望まれている。『統計学』において学習する方法論は、自然科学、社会科学、人文科学といった学問分野だけでなく、企業経営や行政などの実務においても広く取り入れられているものである。
- 本講義では、データの収集、分析、結論の導出といったプロセスをたどりながら、『統計学』の役割や主要な概念、基本的な分析手法について学習する予定である。また、履修者が簡単なデータ解析の手法を習得できるよう、幅広い応用例を紹介しながら、講義だけでなく問題演習なども行う。
- 〔第 1 回〕 統計分析の必要性
- 〔第 2 回〕 分布の特性値：平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、変動係数の性質および計算方法
- 〔第 3 回〕 確率
- 〔第 4 回〕 確率変数と確率分布Ⅰ：確率関数と確率密度関数、平均と標準偏差
- 〔第 5 回〕 確率変数と確率分布Ⅱ：二項分布、ポアソン分布
- 〔第 6 回〕 確率変数と確率分布Ⅲ：正規分布、確率変数の標準化、標準正規分布表
- 〔第 7 回〕 標本平均の分布、中心極限定理
- 〔第 8 回〕 母数の推定：母平均の推定（1）
- 〔第 9 回〕 母数の推定：母平均の推定（2）
- 〔第10回〕 仮説検定：仮説検定の考え方、平均値に関する検定
- 〔第11回〕 回帰分析：単純回帰分析、最小二乗法
- 〔第12回〕 総括
- ◆**テキスト**
- ・プリントを適宜配布する。

- ◆**参考文献**
- ・篠崎信雄・竹内秀一『統計解析入門〔第 2 版〕』（サイエンス社、2009年）
 - ・岩田暁一『経済分析のための統計的方法〔第 2 版〕』（東洋経済新報社、1983年）
- ◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
1. 微分積分、確率の初歩的知識を身に付けていること。
 2. 統計学の初学者を対象とするが、短期間で数多くの内容を取り上げるため、統計学（テキスト科目）レポートの既習者が望ましい。
 3. 毎回の講義と期末試験時にはルートの計算ができる電卓を持参すること。ただし試験時は通信機能付の電卓や関数電卓の使用は不可。
- ◆**成績評価方法**
- 出席状況および最終日の試験による。

科目	数学（線形数学）	2 単位
担当	商学部専任講師 丸山芳人	

- 〔授業の概要〕
- 行列の演算、連立 1 次方程式の理論、行列式について解説します。線形数学を学ぶとき、自習では理解するのが難しい概念がいくつか出てきます。その概念の意味付けと大切さを理解できるように講義します。
- 〔授業の計画〕
- ※内容と順序は変更になる場合があります。
- 〔第 1 回〕 行列の和、差、スカラー倍
- 〔第 2 回〕 行列の積
- 〔第 3 回〕 行列の累乗
- 〔第 4 回〕 2 次行列の逆行列
- 〔第 5 回〕 連立 2 元 1 次方程式
- 〔第 6 回〕 前半の総括
- 〔第 7 回〕 行列の基本変形
- 〔第 8 回〕 行列の簡約化
- 〔第 9 回〕 連立 1 次方程式の解法
- 〔第10回〕 行列式
- 〔第11回〕 行列式の性質

- 〔第12回〕 後半の総括
- ◆**テキスト**
- ・石村園子『やさしく学べる線形代数』（共立出版、2000年）※主に第 1 章を学習します。ISBN 978-4-320-01660-6 この他に資料を適宜配布します。
- ◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
- 高校 2 年生の水準までの数学をしっかり学んでいること。
- ◆**成績評価方法**
- 講義内に行う試験による。

科目	心理学（知覚・認知）	2 単位
担当	法学部専任講師 田谷修一郎／文学部助教 寺澤悠理	

- 心理学とはどんな学問なのでしょう。心理学というと、TVや雑誌に登場する性格診断やフロイトの精神分析を思い起こすかもしれません。もちろん、そのような研究も心理学では行われていますが、実はそれらは心理学のほんの一部にすぎません。
- 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。ここでいう行動とは個体と環境の相互作用として捉えられるものです。
- この講義では、心理学が心をどのように理解しようとしてきたか、その方法について説明しながら、個体がいかに環境から情報を得て行動しているのか「知覚」と「認知」の話題を中心に解説します。
- 〔第 1 回〕 光と色、目と脳
- 「見る」とはどういうことだろうか。まずは色の知覚を題材に、見えるという感覚を生み出す目と脳の仕組みについて解説する。
- 〔第 2 回〕 知覚の基本原理
- 順応や残効、錯視（目の錯覚）といった現象のデモンストレーションを通し、見えている世界が単純な外界のコピーではないことを解説する。
- 〔第 3 回〕 まとまりの知覚
- 私たちの知識や構えが世界の見え方に及ぼす影響について解説する。
- 〔第 4 回〕 空間の知覚
- 世界を 3 次元空間として見ることの難しさと、その難しさにもかかわらず世界が安定して見える仕組みについて解説する。
- 〔第 5 回〕 顔の知覚
- 個々人の顔を識別する仕組みについて解説する。
- 〔第 6 回〕 中間まとめ
- 〔第 7 回〕 記憶と知識
- 記憶と知識の仕組みに関する基礎的な理論と研究例を紹介する。
- 〔第 8 回〕 注意と意識
- 注意と意識の仕組みに関する基礎的な理論と研究例を紹介する。
- 〔第 9 回〕 言語と思考
- 第一言語の獲得に焦点を当て、言語と思考の仕組みに関する基礎的な理論と研究例を

- 紹介する。
- 〔第10回〕 推論と意思決定
- 推論と意思決定の仕組みに関する基礎的な理論と研究例を紹介する。
- 〔第11回〕 感情と人格、社会認知
- 感情と人格の関連性を検討し、基礎的な理論と研究例を紹介する。
- また、他者の心の状態の認識に関する話題も扱う。
- 〔第12回〕 統括
- ◆**テキスト**
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆**参考文献**
- ・藤田一郎『脳はなにを見ているのか』（角川学芸出版、2013年）
 - ・森敏昭・井上毅・松井孝雄『グラフィック認知心理学』（サイエンス社、1995年）
 - ・一川誠『錯覚学―知覚の謎を解く』（集英社新書、2012年）
 - ・下條信輔『「意識」とは何だろうか―脳の来歴、知覚の錯誤』（講談社現代新書、1999年）
- ◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
- 心理学を学んだことがないことを前提に講義します。講義の中で、簡単な実験、実習、小レポートを課することがあります。積極的な受講態度を望みます。
- ◆**成績評価方法**
- 評価は出席点 2 割、試験 8 割で行います。

科目	心理学（行動・個性）	2 単位
担当	理工学部教授 高山 緑／商学部准教授 木島伸彦	

- 講義は心理学の多様な分野の中で、行動と個性に関わる分野を 2 名の講師で担当する。行動・個性いずれも実証科学に基づいた観点からの理論と研究について概説する。個性では、実証データに基づくパーソナリティと知能を扱い、ヒトの多様な個性について解説する。行動では、観察可能な活動を対象とする学習を扱い、ヒトの行動システムと多様な学習について解説する。授業計画は以下のとおりである。
- 行動：
- 〔第 1 回〕 学習とは何か
- 〔第 2 回〕 レスポナデント条件付け
- 〔第 3 回〕 オペラント条件付け
- 〔第 4 回〕 学習心理学の応用：臨床
- 〔第 5 回〕 学習心理学の応用：教育
- 〔第 6 回〕 前半のまとめ
- 個性：
- 〔第 7 回〕 パーソナリティとは何か
- 〔第 8 回〕 パーソナリティの測定方法
- 〔第 9 回〕 パーソナリティはいかに形成されるか
- 〔第10回〕 知能とは何か
- 〔第11回〕 生涯を通じた知能の発達過程
- 〔第12回〕 後半のまとめ
- ◆**テキスト**
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆**成績評価方法**
- 出席、講義内で実施する小レポート課題、行動・個

性の試験の成績による総合評価。試験は、行動、個性の最終回のまとめのときにそれぞれ行います。

科目	自然科学概論	2単位
担当	文学部教授 大場 茂	

自然科学のなかでも、今回は化学の基礎的な内容を扱います。周期表を見てわかる通り、この宇宙に存在する元素は高々100種類にしかすぎません。そのうち水素H、炭素C、窒素N、酸素Oなど特定のものが重要な働きをしています。化学物質は単体と化合物とに分類されますが、それらの基本単位は一般には分子です。分子中の原子は電子を媒介として結合しています。元素はその電子配置の違いにより、それぞれ個性をもっており、それが化学結合や反応性に反映します。この講義の到達ゴールは、化学の基本的な考え方（概念）がわかるようになることです。この授業では、ビデオ教材を利用しながら、化学および化学反応、そして環境問題などに対する理解を深めていきます。

- 〔第1回〕 序論、(1) 色
〔第2回〕 (2) 測定、(3) 物質の三態
〔第3回〕 (4) モル、(5) 原子
〔第4回〕 (6) 周期表、(7) 化学結合
〔第5回〕 (8) 有機化学、(9) 分子の指紋
〔第6回〕 (10) 水、(11) 大気
〔第7回〕 (12) 駆動力、(13) 反応速度
〔第8回〕 (14) 触媒、(15) 酸と塩基
〔第9回〕 (16) 地球の化学、(17) 酸化と還元
〔第10回〕 (18) 金属、(19) 高分子
〔第11回〕 (20) 生化学、質問受付
〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
・プリントを適宜配布します。
◆受講上の要望または受講上の前提条件
化学の初学者も対象としますが、高校化学の初歩的な知識（原子の構造、元素記号、原子と分子など）があることを前提として講義を行います。
◆成績評価方法
授業への参加度および最終日の試験

科目	情報処理	2単位
担当	講師 辻 将悟	

この科目では、Microsoft Officeアプリケーションを使って文書処理、表計算、プレゼンテーションを中心に、情報を扱う基本的なスキルを身につけることはもちろんですが、日進月歩で進化する情報処理技術に対応できるように、自ら調べ・考えながら課題を解決していける力を養うことをより大事にしていきます。さらに、著名な講師陣による講演を題材として、ネットリテラシーやソーシャルメディア、知的財産権など、今必要な情報リテラシーについても考えていきます。

〔第1回〕

- ーオリエンテーション
- ーMicrosoft Officeアプリケーションの特徴
- ーMicrosoft Wordを使った文書処理の

- 基本
- 〔第2回〕
- ー第1回の続き
 - ー図や表の作成など
 - ー課題
- 〔第3回〕
- ー情報リテラシー (1)
 - ーネットリテラシー、ソーシャルメディア、知的財産権などについて

- 〔第4回〕
- ー第3回の続き
 - ーレポート課題
- 〔第5回〕
- ーMicrosoft Excelを使った表計算の基本
- 〔第6回〕
- ー第5回の続き
 - ーフィルタ、条件付き書式、関数など
- 〔第7回〕
- ー第6回の続き
 - ーフィルタ、条件付き書式、関数など
 - ー課題

- 〔第8回〕
- ー第7回の続き
 - ーグラフの作成など
 - ー課題
- 〔第9回〕
- ー情報リテラシー (2)
 - ーネットリテラシー、ソーシャルメディア、知的財産権などについて

- 〔第10回〕
- ー第9回の続き
 - ーレポート課題
- 〔第11回〕
- ーMicrosoft PowerPointを使ったプレゼンテーションの基本
- 〔第12回〕
- ー総括

- ◆テキスト
・指定しない。
◆受講上の要望または受講上の前提条件
講義で作成したファイルを保存するため、各自USBメモリを持参、またはオンラインストレージサービスのアカウントを事前に取得しておいてください。
◆成績評価方法
課題の提出・達成状況、及び最終日の試験による。

B 実験スクーリング

――実験スクーリング受講上の注意――

- ① 実験スクーリングを受講する人は、できるだけ事前にテキストを読んでいることが望まれます。
- ② 2007年までに1単位あるいは2単位の実験スクーリングに合格している人は、同一科目の実験スクーリングは受講できません。

科目	物理学実験 A	1単位
	物理学実験 B	1単位
担当	経済学部教授 青木健一郎 / 法学部教授 小林宏充 法学部教授 下村 裕 / 商学部准教授 松浦 壮 医学部教授 古野泰二 / 法学部准教授 杉本憲彦 商学部教授 新田宗土 / 医学部准教授 三井隆久	

実験内容と目的
物理学においては実験によって、自然の構造に関する我々の理解が正しいものであるか否かを検証することが重要です。この科目「物理学実験」の目的は、物理学を履修する諸君が直接実験を経験することによって、実験の重要性和その楽しさを自ら発見する機会を提供することです。

- 本実験では、比較的簡単な実験装置で自然の構造の本質に触れることができるテーマを用意してありますので、これまで実験に馴染みの少なかった人でも十分に実験を行うことができるものと思われます。また実験のテキストを参照しながら2人1組になって実験を行うことになっています。わからない点は互いに議論しながら作業することが可能であり、そのことによってより理解が深まるはずです。期間中に行った実験の中から、各人が興味を惹かれるテーマを拾い出しそれをより深く理解することを目指して、改めて物理学の教科書を手にされることを期待します。
- 〔A-1〕 実験ガイダンス、モンテカルロ実験
モンテカルロ・シミュレーションを行い、数値計算を行う。それを通じ統計的な手法の意味と限界を理解する。
- 〔A-2〕 重力加速度
単振り子の振動の物理的仕組みを理解し、その周期の測定から重力加速度gを求める。
- 〔A-3〕 空気の振動と音速
音の空気の振動としての意味を実感し、それを用いて空気中の音速を決定する。
- 〔A-4〕 電子の電荷の質量の比
電場、磁場中の電子の運動を理解し、その運動のパラメータより電子の電荷と質量の比を求める。
- 〔A-5〕 ブラウン運動と原子の実在
水中で粒子のブラウン運動を観察し、その背後にあるミクロの物理を理解する。それに基づきアボガドロ数を求める。
- 〔A-6〕 光速の直接測定
空気中の光速を直接測定する。
- 〔B-1〕 実験ガイダンス、分子の大きさとアボガドロ

- 定数
- 水面上に脂肪酸の単分子膜を展開し、それより分子の大きさを測定し、アボガドロ定数を求める。
- 〔B-2〕 光と電子
光電効果の実験より光の粒子性を実感し、プランク定数を推定する。
- 〔B-3〕 光の干渉
光の波動性とそれのもたらす干渉と回折現象を実験を通じて理解し、それを用いて光の波長、回折格子の間隔等を測定する。
- 〔B-4〕 量子力学と原子のスペクトル
ナトリウム原子の輝線スペクトルを観察し、量子力学的な原子の構造を理解する。さらに、ナトリウム原子の輝線スペクトルの波長を測定し、その理解を確かめる。
- 〔B-5〕 素電荷の測定ーミリカンの実験
ミリカンの油滴の実験により、油滴の電荷を測定する。それにより電荷が離散的であることを実感し、その最小単位である素電荷を求める。
- 〔B-6〕 音程とドップラー効果
音程と振動数の関係を理解し、音色の物理的意味を理解する。さらに音源を自由落下させ、観測されるその振動数変化からドップラー効果の持つ意味を理解し、音源の速度および加速度を決定する。

- ◆テキスト
・初日にテキスト（無料）を配布。
◆受講上の要望または受講上の前提条件
初日に物理実験全般に関する基本的な事項を説明しますので、全員必ず出席してください。
①実験スクーリングを受講する人は、できるだけ事前にテキスト「物理学」を読んでいることが望まれます。
- ②2007年までに1単位あるいは2単位の実験スクーリングに合格している人は、同一科目の実験スクーリングは受講できません。
- ◆成績評価方法
出席とレポートによる。

科目	化学実験 A	1単位
担当	文学部教授 大場 茂 / 経済学部教授 井奥洪二	

諸君が化学を学習する目的は、専門的な知識や技術の習得ではなく、化学という学問に対して正しい認識をもち、自然科学的な思考を養うためと考えられます。この目的を達成するための補助として、化学実験Aで

は無機・物理化学分野における次のような各種実験を行います。
(内容と順序は変更になる場合があります。)

〔第1回〕 自然放射線と放射能鉱物
〔第2回〕 アルコール発酵
〔第3回〕 ボルタ電池と燃料電池
〔第4回〕 湿式法による金属イオンの分析 (第一属金属イオン)
〔第5回〕 湿式法による金属イオンの分析 (第三属金属イオン)
〔第6回〕 湿式法による金属イオンの分析 (未知試料)

◆テキスト
・化学教室で編集した小冊子『化学実験』(実費・300円程度)を使用します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
この実験をより有意義なものにするのは、教科書を用いての日頃の家庭学習です。各種法則、原理などを脳裏にしっかりとおさめ、実験の目的やその手段が、これらをいかに巧みに利用して結果を求めているかを実地に確かめることが大切です。

◆成績評価方法
出席および当日提出するレポート。

科目	化学実験 B	1 単位
担当	法学部教授 小瀬村誠治 / 法学部准教授 志村 正	

諸君が化学を学習する目的は、専門的な知識や技術の習得ではなく、化学という学問に対して正しい認識をもち、自然科学的な思考を養うためと考えられます。この目的を達成するための補助として、化学実験Bでは有機・高分子化学分野における次のような各種実験を行います。
(内容と順序は変更になる場合があります。)

〔第1回〕 分子模型その1～有機化合物を学ぶ
〔第2回〕 分子模型その2～天然物化合物を学ぶ
〔第3回〕 アセトアニリドの合成～アセチル化反応を学ぶ
〔第4回〕 パラニトロアニリン赤の合成と染色～ジアゾカップリング反応によりアゾ染料を合成し、綿布を染色して、その原理を学ぶ
〔第5回〕 ナイロン66の合成～重合反応を学ぶ
〔第6回〕 化学発光～発光を伴う化学反応を観察し、その原理を学ぶ

◆テキスト
・化学教室で編集した小冊子『化学実験』(実費・300円程度)を使用します。当日教室内でお渡しします。お釣りのないよう教材費をご用意ください。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
この実験をより有意義なものにするのは、教科書を用いての日頃の家庭学習です。各種法則、原理などを脳裏にしっかりとおさめ、実験の目的やその手段が、これらをいかに巧みに利用して結果を求めているかを実地に確かめることが大切です。

◆成績評価方法
出席および当日提出するレポート。

科目	生物学実験 A	1 単位
担当	プログラム①担当者 文学部教授 金子洋之 / 文学部准教授 倉石 立 プログラム②担当者 経済学部教授 福山欣司 / 経済学部准教授 長沖暁子	

実験内容と目的
この授業は生物の世界の多様性や複雑さを実験・観察を通じて理解するとともに、自然科学的思考と研究方法の習得を目的にしています。
内容は光学顕微鏡や実体(解剖)顕微鏡による観察、生理学・生化学実験、野外の動植物の観察、ビデオによる生命現象の理解などを含んでいます。授業担当者により内容は若干異なります。また、実験材料を変更する場合もあります。授業では、各時間の最初にその日の実験内容を説明し、各自が自主的に実験を遂行していくという方法で行います。ビデオやパワーポイントを使用しながら解説する特別講義を行うこともあります。

プログラム①

1. 淡水の微生物 (アオミドロ・藻類)
2. 淡水の微生物 (原生動物など)
3. 野草の観察 (イネ科植物)
4. 細胞質流動と流速測定
5. DNAの抽出実験
6. DNA分子模型の作製

プログラム②

1. 細胞質流動と流速測定
2. DNAの抽出実験
3. DNA分子模型の作製
4. 野草の観察 (イネ科植物)
5. 淡水の微生物 (アオミドロ・藻類)
6. 淡水の微生物 (原生動物など)

◆テキスト
・各担当者が実験の目的や方法を記述したプリントを配布します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
実験器具とレポート用紙は用意されています。観察・スケッチに用いる鉛筆は2H程度の硬めのものを各自で持参すること。
実験は通信テキスト「生物学」の内容と関連するものもあるので、なるべく通信テキスト「生物学」を持参すること。

◆成績評価方法
出席および毎回提出するレポート。

科目	生物学実験 B	1 単位
担当	プログラム①担当者 法学部准教授 小野裕剛 / 法学部専任講師 坪川達也 プログラム②担当者 商学部教授 福澤利彦 / 商学部准教授 新屋みのり	

実験内容と目的
この授業は生物の世界の多様性や複雑さを実験・観察を通じて理解するとともに、自然科学的思考と研究方法の習得を目的にしています。
光学顕微鏡や実体(解剖)顕微鏡による観察、生理学・生化学実験、野外の動植物の観察、ビデオによる

生命現象の理解などを含んでいます。具体的な内容は「生物学実験A」とは異なり、多様な材料とテーマを取り扱います。授業担当者により内容は若干異なります。また、実験材料を変更する場合もあります。授業では、各時間の最初にその日の実験内容を説明し、各自が自主的に実験を遂行していくという方法で行います。ビデオやパワーポイントを使用しながら解説する特別講義を行うこともあります。

プログラム①

1. モチノキと日照条件
2. ヒトデ胚の形づくり
3. ヒドラの解離：細胞種の同定
4. 染色体異常の検査 (模擬実験)
5. 抗体を使った検査
6. 感覚閾値の検証 (重量感覚)

プログラム②

1. 環境と気孔
2. 植物プロトプラストの単離
3. 小核試験
4. モチノキと日照条件
5. ヒトデ胚の形づくり
6. ヒドラの解離：細胞種の同定

◆テキスト
・各担当者が実験の目的や方法を記述したプリントを配布します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
実験器具とレポート用紙は用意されています。観察・スケッチに用いる鉛筆は2H程度の硬めのものを各自で持参すること。
実験は通信テキスト「生物学」の内容と関連するものもあるので、なるべく通信テキスト「生物学」を持参すること。

◆成績評価方法
出席および毎回提出するレポート。

総合教育科目 外国語科目

英語

科目	英語（リーディング）A	1単位
担当	文学部教授 大串尚代	

本講義では、アメリカ文化研究入門を英語で読み進めることで、英語の読解力とともに、アメリカ史および文化についての理解を深めることを目的とする。テキストの他に、関連する映像資料なども使用する予定。授業の進度は受講者の理解度によって調整する。

- 〔第1回〕 イントロダクション
Unit 1：“Separation of Powers”
〔第2回〕 Unit 1：“Separation of Powers”
〔第3回〕 Unit 2：“We the People”
〔第4回〕 Unit 2：“We the People”
〔第5回〕 Unit 3：“Whose Rights?”
〔第6回〕 Unit 3：“Whose Rights?”
〔第7回〕 Unit 4：The West
〔第8回〕 Unit 4：The West
〔第9回〕 Unit 5：The American Hero
〔第10回〕 Unit 5：The American Hero
〔第11回〕 Unit 6：1960-1975：High Ideals and the End of Innocence
〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
・Frank E. Osterhaus, Fumio Miyahara『An Introduction to American Studies』（松柏社、2000年） ISBN 978-4-88198-472-7
◆受講上の要望または受講上の前提条件
基礎的な英文法の知識を習得していること。
◆成績評価方法
平常点、最終日の試験

科目	英語（リーディング）B	1単位
担当	看護医療学部教授 杉本なおみ	

- 英字新聞の記事見出しを題材として取り上げ、直訳・逐語訳ではなく、内容把握を中心とした読解力の向上を目指します。英語の新聞記事見出しには固有のルールが存在しますが、一般英文法に比べ大変規則的かつ単純です。したがってこれらのルールを一旦習得してしまえば、新聞に限らずインターネット上の英語ニュース等も効率よく読み進められるようになります。
〔第1回〕 概要説明・過去
〔第2回〕 未来
〔第3回〕 be動詞（1）
〔第4回〕 be動詞（2）
〔第5回〕 コンマ・セミコロン・コロンの

- 〔第6回〕 冠詞
〔第7回〕 代名詞
〔第8回〕 頭文字語
〔第9回〕 縮約語
〔第10回〕 言い換え語
〔第11回〕 政府・組織の呼称
〔第12回〕 まとめ

- ◆テキスト
・教員が独自に作成したテキストを授業初日に配布します。スクーリング期間開始以前に予習を始める必要はありません。
◆受講上の要望または受講上の前提条件
授業内では逐語訳を行わないのでその点を了解の上受講して下さい。

- 英字新聞の読み方を扱う授業ですが、学習に必要な教材は教科書と辞書のみです。期間中に各自で英字新聞を購読する必要はありません。
授業には毎回英和辞典を持参して下さい。紙の辞書・電子辞書どちらでも構いませんが、小型の携帯版辞書（例：コンサイス英和辞典）などではなく、学習用の辞書（例：英和中辞典）が適しています。
授業中に通信機器の辞書機能を使って学習することは（あまりお勧めしませんが）差し支えありませんが、試験中は通信機能を有する機器を使用することはできませんので、紙の辞書・電子辞書を使用するか、辞書なしで受験して下さい。

- 携帯電話などの通信機器は、授業中呼び出し音・アラームなどの音が出ないように設定して下さい。授業中に携帯電話などの通信機器が鳴った場合には授業参加態度から減点する場合があります。
毎回の授業は、担当教員による講義の後、履修者が板書した解答を教員が添削するという形式で進めます。板書・添削内容に疑問がある場合には、必ず当該授業内に質問して下さい。板書・添削内容を不正確に転記・記憶していたなどの理由で試験の採点結果に対する不服を申し立てても、その訴えだけに基づいて点数を修正することはありません。
◆成績評価方法
最終日の試験および授業参加態度による。

科目	英語（リーディング）C	1単位
担当	環境情報学部准教授 長谷部葉子	

〔基礎学力の充実をはかり、応用力をつけることを目的とする実力養成クラスです。〕

アフリカ諸国の発展が遅れた歴史的現状を、ヨーロッパの植民地政策の影の部分を扱った、Walter

Rodneyの*How Europe underdeveloped AFRICA*を題材に、多少過激にアフリカの諸国の植民地時代の通念を覆す、あまり語られない側面を読み解く。

- 〔第1回〕 イントロダクション
本講義担当者のアフリカでの取り組みを紹介し、それと本文献の関連性を導入として取り上げる。
映像・動画による導入・議論
〔第2回〕 Introduction
本文献を熟読して、レジメを各自作成して持参する。講師が用意する設問に回答したのち、段落の整理をしながら、内容理解を深める。

- 〔第3回〕 I Some Questions on Development
本文献を熟読して、レジメを各自作成して持参する。講師が用意する設問に回答したのち、段落の整理をしながら、内容理解を深める。

- 〔第4回〕 II How Africa Developed before the coming of the Europeans-Up to the fifteenth Century
本文献を熟読して、レジメを各自作成して持参する。講師が用意する設問に回答したのち、段落の整理をしながら、内容理解を深める。

- 〔第5回〕 III Africa’s Contribution to European Capitalist Development-The pre-Colonial Period
本文献を熟読して、レジメを各自作成して持参する。講師が用意する設問に回答したのち、段落の整理をしながら、内容理解を深める。

- 〔第6回〕 I-IIIのまとめと議論
アフリカの諸事情への現状からの理解を深める。
中間発表

- 〔第7回〕 IV Europe and the Roots of African Underdevelopment-To 1885
本文献を熟読して、レジメを各自作成して持参する。講師が用意する設問に回答したのち、段落の整理をしながら、内容理解を深める。

- 〔第8回〕 V Africa’s Contribution to the Capitalist Development of Europe-The Colonial Period 1 p.147-p.183, 13
本文献を熟読して、レジメを各自作成して持参する。講師が用意する設問に回答したのち、段落の整理をしながら、内容理解を深める。

- 〔第9回〕 V Africa’s Contribution to the Capitalist Development of Europe-The Colonial Period 2 p.183, 14-p.203
本文献を熟読して、レジメを各自作成して持参する。講師が用意する設問に回答したのち、段落の整理をしながら、内容理解を

深める。
〔第10回〕 VI Colonialism as a System for Underdeveloping Africa 1 p.205-p.245, 13
本文献を熟読して、レジメを各自作成して持参する。講師が用意する設問に回答したのち、段落の整理をしながら、内容理解を深める。

- 〔第11回〕 VI Colonialism as a System for Underdeveloping Africa 2 p.245, 14-p.281
本文献を熟読して、レジメを各自作成して持参する。講師が用意する設問に回答したのち、段落の整理をしながら、内容理解を深める。

〔第12回〕 総括＋議論
◆テキスト
・Walter Rodney『How Europe underdeveloped AFRICA』（Black Classic Press、2011年） ISBN 978-1-57478-048-2

- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
1. 毎回授業の割り当て個所を事前に読み、内容のレジメを予め作成して2部持参してください。
2. 英文読解であるため、十分に熟読し、内容を理解したうえで、内容について議論ができる状況で授業に臨んでください。
本文献は、アマゾンで購入可能です。

- ◆成績評価方法
1. 出席状況
2. 毎回のレジメ内容
3. 毎回の設問の回答状況
4. 中間発表
5. 最終レポート
上記から総合的に判断して評価します。

科目	英語（リーディング）D	1単位
担当	講師 賀川真理	

本年のスクーリングでは、「アメリカ社会におけるラティーノ」をテーマとする。かつてラティーノは、その多くが政治に無関心であるとみなされてきたが、果たしてそうなのであろうか。2016年の大統領選挙では、移民への対応が争点の一つとなったが、ラティーノは現在の移民社会をコントロールする牽引役として大きな役割を果たしていると言える。

彼らがアメリカ社会とどのように係わり、彼らによってどのような変化がもたらされているのかを知ることは、今後のアメリカ社会を分析する上で、一つの重要な視点となるのではないだろうか。本講義では、国際政治・社会・教育の各方面から、ラティーノが変えるアメリカ社会について、読み解くことを目的とする。

- 〔第1回〕 イントロダクションーラティーノとは
〔第2回〕 ラティーノと国際政治（1）第二次世界大戦下で強制送還された日系ラテンアメリカ人と戦後補償（DVD鑑賞を含む）

- 〔第3回〕 ラティーノと国際政治（2）第二次世界大戦下で強制送還された日系ラテンアメリカ人と戦後補償
- 〔第4回〕 ラティーノと教育（1）Mendez v. Westminster判決
- 〔第5回〕 ラティーノと教育（2）Mendez v. Westminster判決
- 〔第6回〕 中間総括
- 〔第7回〕 U.S. Latino Issues：Open Borders
- 〔第8回〕 U.S. Latino Issues：Affirmative Action
- 〔第9回〕 U.S. Latino Issues：Funding Education and Health Care for Undocumented Immigrants
- 〔第10回〕 ラティーノとDREAM Act
- 〔第11回〕 デイスカッション
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
- ・事前にテキストとして使用するプリント教材を配布予定。
- ◆参考文献
- ・適宜紹介する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- この講義では、事前に配布するプリント教材について、予習を前提に読み進めて行く。そのため、授業開始時までには必ず本文に目を通してきていただきたい。特に授業の最初の30分程度の時間は、履修者の中でそのテーマについて得意とする方に担当章の著者紹介、要旨、キーワードとキーセンテンス、当該論文もしくは章に関連した事項についての発表に充てたいと考えている。

講義初日に担当章を決めるので、各自第1～3希望までを事前に考え、余裕があればプリントもしくはパワーポイントの準備を進めておかれることをお勧めする。もちろん担当以外の章についても、基本的にできるだけ段落ごとの要旨や疑問点などをノートに書き留めておくと、授業の際に大いに役立つと思われる。

- ◆成績評価方法
- 毎回の出席を前提とし、予習および授業への貢献度（50％）と最終日の試験（50％）による。

科目	英語（リーディング）E	1単位
担当	講師 由井口バート	

普通の英字新聞は、ニュース、社説、コラム、批評と広告で構成されていますが、その中のニュース記事に用いられる英語を一般的に新聞英語と呼んでいます。英語のニュース記事は（1）見出し／headline、（2）lead／書き出し、（3）body／本文で構成されています。英語の記事は最も重要な事柄を最初に載せ、行を下げるに従って重要性が減る付随事項を付け足していくスタイル、すなわち逆ピラミッド型で書かれているのが特徴です。この授業では英語記事を読み、意味を訳し、分析する事を目的としています。主な内容としてはheadlineの用法と文法（例えば、好まれる単語、一般化した英語の使用、短縮語の使用、コンマによるandの省略、冠詞や代名詞の所有格の省略、過去・現

在完了を現在形で、未来を不定詞で、be動詞の省略、短い副詞の活用など）、leadとbodyの用法と文法（例えば、発言者や情報源を独立文の後に、時制の不一致、直接話法と間接話法の使用、分詞構文の活用、結果を表す不定詞の活用、文修飾副詞の活用、分離不定詞の活用、品詞の比較的自由な転換、群形容詞の多様）などですが、記事によって扱う項目は異なり、全ての項目を一度に説明する事はありません。英語記事により扱う項目は重複する場合があります。新旧2つの関連性のある記事を読み、比較していきます。授業では新旧の英語記事を読み、簡単に訳し、文法項目を確認し、最後に記事の批評をします。履修者には毎回英語で記事に関しての簡単な意見を述べてもらいます。授業自体は日本語で説明などをしますが、発表は全て英語になります。

- 〔第1回〕 1967：Israel ends six-day war
1973：Arab states attack Israel
1967：イスラエル、6日戦争の矛を収める
1973：アラブ諸国、イスラエルを攻撃
- 〔第2回〕 1984：Apple introduces Macintosh
1999：Google at 10,000 hits a day
1984：アップル、マッキントッシュを発売
1999：グーグル一日1万ヒット
- 〔第3回〕 1929：Mold kills bacteria: potential for new drugs limited
2004：Drug-resistant tuberculosis soaring
1929：カビが細菌を殺す：新薬への応用は疑問符
2004：薬剤耐性結核菌が急増
- 〔第4回〕 1948：New restaurant serves up ‘fast food’
2006：Trans fats banned in Chicago
1948：新型レストランが「ファスト・フード」を始める
2006：シカゴでトランス脂肪禁止
- 〔第5回〕 1903：Airship flies in North Carolina
1927：‘I made it’
1903：飛行船、ノースカロライナを飛ぶ
1927：「ついにやった」
- 〔第6回〕 1953：Secret of life solved
1997：First cloned mammal a sheep
1953：生命も秘密を明らかに
1997：最初のクローン哺乳類は羊
- 〔第7回〕 1929：Wall Street hit by new crash
1997：Imperial Palace grounds in Tokyo worth more than California
1929：ニューヨークの株価さらに暴落
1997：東京の皇居の土地はカリフォルニア州よりも高い
- 〔第8回〕 1915：Continents drifting, according to new theory
1980：New theory claims dinosaurs blasted by asteroid
1915：新しい学説による大陸は漂流している

- 1980：恐竜の絶滅は小惑星の衝突による大爆発との新説
- 〔第9回〕 1982：New disease strikes homosexuals
1991：Rock legend dies of AIDS
1982：新型の病気が同性愛者に襲いかかる
1991：ロックの伝説的人物がAIDSで死亡
- 〔第10回〕 1859：Yankees strike oil
2006：Atmospheric carbon-dioxide reaches new record high
1859：米国人、原油を掘り当てる
2006：大気中の二酸化炭素が記録的濃度に達する
- 〔第11回〕 最終仮題（英文で関連した短いコラムを書く）で扱う記事：
2001：Terror hits U.S.: thousands killed
1989：Germans celebrate fall of Wall
1964：Beatles arrive in U.S.
1859：Your grandma was a chimp
2001：米国を襲ったテロ；死者数千人に
1989：ベルリンの壁崩壊を祝福するドイツ
1964：ビートル、ズアメリカ上陸
1859：あなたのおばあちゃんはチンパンジーだった
- 〔第12回〕 最終課題提出
授業時間内で作成し提出する。

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- プリントは授業が始まる時に配布しますので、事前の予習は出来ません。授業で読みますので必ず辞書(電子辞書、スマホ、コンピューター可)を持参してください。また、課題は進度によって全て終わらせる事が出来ないかもしれませんが、課題を幾つこなすが重要ではなく、与えられた課題を終わらせる事が重要です。授業では積極的に発言をし、意見を言い、英語記事を理解する事を目標とします。
- ◆成績評価方法
- 毎回の出席を前提とし、授業での記事に対する積極的発言や意見、参加度を重視します。最終仮題は評価の30％ほどをしめますので、必ず提出する事が重要です。

科目	英語（リーディング）F	1単位
担当	法学部教授 篠原俊吾	

こちらで用意したプリント、映像教材などを用いて、アメリカの抱える諸問題について考えていきます。加えて、適宜英語の学習方法に関しても触れていく予定です。

- 〔第1回〕 イントロダクション：授業の進め方と英語の学び方についてお話します。
- 〔第2回〕 スピーチと文章構成（1）：アメリカの著名人のスピーチを聞き、文章の構成の仕方

を学びます。

- 〔第3回〕 スピーチと文章構成（2）：アメリカの著名人のスピーチを聞き、文章の構成の仕方を学びます。
- 〔第4回〕 スピーチと文章構成（3）：アメリカの著名人のスピーチを聞き、文章の構成の仕方を学びます。
- 〔第5回〕 安楽死の問題に関する文献を読みます。
- 〔第6回〕 人工妊娠中絶に関する文献を読みます。
- 〔第7回〕 同性婚に関する文献を読みます。
- 〔第8回〕 7回目に引き続き同性婚に関する文献を読みます。
- 〔第9回〕 国民健康保険をめぐる問題について文献を読みます。
- 〔第10回〕 宗教と政治に関する文献を読みます。
- 〔第11回〕 銃規制の問題に関する文献を読みます。
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 特に前提知識は必要ありません。アメリカの社会問題の入門的な内容なので、詳しい方には不向きかもしれません。短時間に多くの文献を読みますので、厳しいこともあるかと思いますが、わからないところは何度でも説明しますので、あきらめずに頑張ってください。
- ◆成績評価方法
- 授業時の貢献度30％、試験70％

科目	英語（リーディング）G	1単位
担当	講師 多々良直弘	

この授業では異文化間コミュニケーションに関するテキストを講読します。日本人とアメリカ人のコミュニケーション上のギャップを通じて、両国の国民性や文化の相違を考察します。

- 〔第1回〕 You and I are Equals
- 〔第2回〕 You and I are Close Friends
- 〔第3回〕 You and I are Relaxed
- 〔第4回〕 You and I are Independent
- 〔第5回〕 People as Individuals
- 〔第6回〕 Being Original
- 〔第7回〕 Questions, Questions!
- 〔第8回〕 Answer to the Point!
- 〔第9回〕 Conversational Ballgames
- 〔第10回〕 Don’t Apologize!
- 〔第11回〕 Nobody Told Me!
- 〔第12回〕 総括と試験

- ◆テキスト
- ・ナンシー 坂本・坂本元洋『Polite Fictions in Collision, Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other (異文化との出会い・誤解・理解)』（金星堂、2004年）ISBN 978-4-7647-3778-5
- ◆成績評価方法
- 授業内における貢献度50％と最終日に行う試験50％により評価します。

科目 英語（リーディング）H	1 単位
担当 講師 中川千帆	
文化におけるグローバリゼーションに関連した様々なトピックの文章を読みながら、中級レベルの語彙、文法、構文の理解・習得を目指します。	
〔第1回〕 イントロダクション Unit 1 The Concept of Beauty 語彙確認	
〔第2回〕 Unit 1（続き）音読・読解・演習問題 Unit 2 Greek Mythology 語彙確認	
〔第3回〕 Unit 2（続き）音読・読解・演習問題 Unit 3 The Bible 語彙確認	
〔第4回〕 Unit 3（続き）音読・読解・演習問題 Unit 4 Renaissance 語彙確認	
〔第5回〕 Unit 4（続き）音読・読解・演習問題 Unit 5 The Structure of Fictional Literature 語彙確認	
〔第6回〕 Unit 5（続き）音読・読解・演習問題 Unit 6 The Theater and Acting 語彙確認	
〔第7回〕 Unit 6（続き）音読・読解・演習問題 Unit 7 The English Language 語彙確認	
〔第8回〕 Unit 7（続き）音読・読解・演習問題 Unit 8 The Rise of Cities 語彙確認	
〔第9回〕 Unit 8（続き）音読・読解・演習問題 Unit 9 Trusting in Recorded History 語彙確認	
〔第10回〕 Unit 9（続き）音読・読解・演習問題	
〔第11回〕 復習・質疑応答	
〔第12回〕 総括	
◆テキスト	
・Christopher Belton、小田島恒志『Transculture 多元文化論エッセイ―響き合う文化たち』（金星堂、2017年）ISBN 978-4-7647-4042-6	
◆受講上の要望または受講上の前提条件	
英和辞典、または英英辞典を必ず持参すること。（電子辞書でも可）。	
◆成績評価方法	
授業内評価20％、最終日の確認テスト80％で評価します。	
科目 英語（リーディング）I	1 単位
担当 講師 沼田香穂里	

英米の映画に描かれている文化を論じたテキストを読みます。各章の話題は英米文化の違い、イギリスの階級社会、ベトナム戦争など、映画をより深く理解するために知ることが必要となるテーマです。授業では、取り上げられたテーマに関する映画の一部を教室で観ながら（階級社会→『マイ・フェア・レディ』、ベトナム戦争『地獄の黙示録』など）、英文の内容を的確につかみ取るだけでなく、それぞれの映画に描かれた問題やその意義について考察します。最終的には、映

画や社会問題に関する知識と共に、英語文献を読むのに必要な読解力を養成したいと思います。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 Unit 1 英米文化の比較

〔第3回〕 Unit 1 続き

〔第4回〕 Unit 2 イギリスの伝統

〔第5回〕 Unit 2 続き 及び Unit 3 階級とアクセント

〔第6回〕 Unit 3 続き

〔第7回〕 Unit 4 連合王国

〔第8回〕 Unit 4 続き

〔第9回〕 Unit 5 荒野の西部

〔第10回〕 Unit 6 ベトナム戦争

〔第11回〕 Unit 8 歴史の変遷

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・J. E. Dougill『Culture through Movies（映画による異文化理解）』（英潮社フェニックス、2000年）ISBN 978-4-268-00330-0

◆参考文献

・参考文献は特にありませんが、授業で観る映画は、それぞれ2時間程度の作品のうちわずか5～10分位になってしまいますので、授業をよりよく理解するためには、テキストに言及されている映画を予め見ておく方がよいと思います。全作品とは言いませんが、少なくとも1章につき1本は見ておいてください。テキストの最後に登場する映画や人物のリストがありますので、そこを参考にしてください。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

テキスト全体を読むことはできませんので、1～6章及び8章を予定しています。練習問題は抜かして、本文のみを読みますので、スクーリング開始前までに辞書を引いて予習しておいてください。また、予習の際には必ず家で一度音読してください。文法については必要に応じて授業でも触れますが、自信の無い学生はもう一度復習しておいてください。授業では日本語訳が中心になりますが、自分なりに取り上げられているテーマについて調べて意見をまとめておくなど、自主性をもって真摯に取り組んでください。

◆成績評価方法

評価は基本的に最終授業で行われる試験の成績によって決めます。その他、出席状況、予習の有無、授業内における積極的な発言など平常の授業態度を加味します。

◆テキスト

・赤楚治之、清水克正他『Twenty-Six Short Essays on English（英語についての26章）』（英宝社、2013年）ISBN 978-4-269-14018-9

◆受講上の要望または受講上の前提条件

英文のテキストを注意深く正確に読み進める心構えが必要なことは勿論ですが、書かれている内容自体についても積極的に興味を持っていただけることを希望します。したがって、教室ではテキストの内容についての発展的な質問や問題提起が出されることを期待しています。そのようなことのためになら、多少授業のペースが遅れてもいっこうに気にしません。

科目 英語（リーディング）J	1 単位
担当 講師 松本純一	

〔第1回〕 イントロダクション
The Study of Language（テキストChapter 1）

〔第2回〕 British English and American English（テキストChapter 2）
English as a World Language（テキストChapter 3）

〔第3回〕 Linguistics, Language, and Culture（テキストChapter 4）
Registers（テキストChapter 5）

〔第4回〕 Language, Culture, and Categorization（テキストChapter 6）
First Language Acquisition（テキストChapter 7）

〔第5回〕 The Study of the Sounds of Language（テキストChapter 8）
Names in English（テキストChapter 9）

〔第6回〕 Language Contact and Borrowing（テキストChapter 10）
Language Variation（テキストChapter 11）

〔第7回〕 Meaning in Words and Sentences（テキストChapter 12）
Japanese English（テキストChapter 13）

〔第8回〕 Word Formation in English（テキストChapter 14）
Spelling and English Pronunciation（テキストChapter 15）

〔第9回〕 The Importance of Language（テキストChapter 16）
Language Learning（テキストChapter 17）

〔第10回〕 Language and Computers（テキストChapter 19）
English and Other Indo-European Languages（テキストChapter 22）

〔第11回〕 Modern Linguistics（テキストChapter 23）
English Onomatopoeia（テキストChapter 24）

〔第12回〕 English through the Ages（テキストChapter 25）
総括

◆テキスト

・赤楚治之、清水克正他『Twenty-Six Short Essays on English（英語についての26章）』（英宝社、2013年）ISBN 978-4-269-14018-9

◆受講上の要望または受講上の前提条件

英文のテキストを注意深く正確に読み進める心構えが必要なことは勿論ですが、書かれている内容自体についても積極的に興味を持っていただけることを希望します。したがって、教室ではテキストの内容についての発展的な質問や問題提起が出されることを期待しています。そのようなことのためになら、多少授業のペースが遅れてもいっこうに気にしません。

◆成績評価方法

出席状態・授業中の演習への参加態度、および最終日に提出していただくレポートによって成績評価をおこないます。

科目 英語（リーディング）K	1 単位
担当 講師 原田祐貴	

TOEIC 450-550点レベルの学習者向けの難易度の英文エッセー（400語前後）を読み、読解ストラテジーの習得を目指します。

〔第1回〕 科目のオリエンテーション
Skimming and scanning (Unit 1)

〔第2回〕 Predicting, inferring, interpreting, and deducing meaning (Unit 2)

〔第3回〕 Visualizing, associating, judging, and summerizing (Unit 3)

〔第4回〕 第1回～3回までの復習 (Review 1)
Understanding purpose and tone (Unit 4)

〔第5回〕 Separating fact from opinion (Unit 5)

〔第6回〕 Understanding references (Unit 6)
第4回～6回までの復習 (Review 2)

〔第7回〕 Highlighting and annotating (Unit 7)

〔第8回〕 Recognizing main ideas (Unit 8)

〔第9回〕 Recognizing supporting ideas (Unit 9)

〔第10回〕 第7回～9回までの復習 (Review 3)
Recognizing text organization — time order and process (Unit 10)

〔第11回〕 Skimming and scanning (Unit 11 & 12)

〔第12回〕 第1回～11回の授業の総括

◆テキスト

・山岡浩一『A Good Read 2: Developing Strategies for Effective Reading, A Japan Edition〔1st edition〕』（松柏社、2017年）ISBN 978-4-88198-720-9

◆受講上の要望または受講上の前提条件

各ユニットのWarm Up, Reading strategy, Strategy in Focusを予習し、授業で学ぶ読解ストラテジーについてあらかじめ理解して来てください。ReadingおよびReview Unit 1-3の英文は、教室で時間を測って、辞書を使わずにストラテジーを使って読むので、事前に単語の意味を調べるなどすると、ストラテジーの訓練になりませんので、予習はしないでください。

授業では、辞書の使い方も学習します。可能であれば、電子辞書をお持ちください。

◆成績評価方法

授業中の取り組みと課題（30％）および最終日の試験（70％）で成績評価をします。

Ⅱ	
スクーリング講義要綱	
科目 英語（リーディング）L	1 単位
担当 文学部教授 井上逸兵	
英語と世界・英語と日本 〔第1回〕 イントロダクション 〔第2回〕 世界の英語状況に関わる文献を読む（1） 〔第3回〕 世界の英語状況に関わる文献を読む（2） 〔第4回〕 世界の英語状況に関わる文献を読む（3） 〔第5回〕 英語とテクノロジーについての文献を読む（1） 〔第6回〕 英語とテクノロジーについての文献を読む（2） 〔第7回〕 英語とテクノロジーについての文献を読む（3） 〔第8回〕 英語と日本についての文献を読む（1） 〔第9回〕 英語と日本についての文献を読む（2） 〔第10回〕 英語と日本についての文献を読む（3） 〔第11回〕 英語のこれからについての文献を読む 〔第12回〕 総括・試験 ◆テキスト ・プリントを適宜配布する。 ◆成績評価方法 出席含む平常点（50％） 最終日の試験（50％） による。	
科目 英語（リーディング）M	1 単位
担当 講師 近藤正子	
この授業の目的は、英語リーディングに必要なスキルを身につけるとともに、ノーベル賞受賞者、社会に貢献した人々などの実際の記事を読みすすめながら、国際問題について考察する力を養うことです。また授業内容に関連した動画を取り入れ、音声と文字から英語に親しめる力を養います。最新の国際問題に頻出する英語の表現を授業に盛り込み、この授業を受講後、自主的に国際問題に触れ、英語力を向上させていけるような指導をします。 〔第1回〕 Introduction 〔第2回〕 Barack Obama（1） 〔第3回〕 Barack Obama（2） 〔第4回〕 Steve Jobs（1） 〔第5回〕 Steve Jobs（2） 〔第6回〕 Midterm Examination 〔第7回〕 Rosa Parks 〔第8回〕 Nelson Mandela 〔第9回〕 Muhammad Yunus 〔第10回〕 Aung San Suu Kyi 〔第11回〕 Malala Yousafzai 〔第12回〕 総括 ◆テキスト ・初日にプリント教材を配布します。 ◆参考文献 ・授業の中で指示します。 ◆受講上の要望または受講上の前提条件 限られた日数なので全出席を原則とします。	

- ◆成績評価方法
- 中間試験（30％）、最終日の試験（30％）、プレゼンテーション（30％）、授業参加度（10％）

科目 英語（リーディング）N	1 単位
担当 講師 金澤洋子	

This course aims to provide opportunities to think and share opinions by reading and discussing current topics mainly on health, environment and ethical issues. The instructor will provide reading materials (from current newspapers and magazines such as Time, the International Herald Tribune, Scientific Americans, New York Times, and a number of Japanese newspapers in English). The participants will also provide a topic, making a presentation in English at the end of the course. Through reading, presentation, discussion and writing, participants will deepen their knowledge of current issues and also enlarge their productive academic vocabulary. The course also encourages the students to think critically and try to persuade other students with different positions. The topics may include surrogate birth, baby hatch, total ban on smoking in public places, gender selection, wage gaps and ethics of organ transplants. Apart from presentations, summary writing or a reaction paper on one of the articles of the week will also be required. English will be used most of the time.

- 〔第1回〕 Introduction & Topic 1
- 〔第2回〕 Topic 2 On medical ethics 1
- 〔第3回〕 Topic 3 On medical ethics 2
- 〔第4回〕 Topic 4 On discrimination
- 〔第5回〕 Topic 5 On business
- 〔第6回〕 Topic 6 On lifestyle
- 〔第7回〕 Topic 7 On technology, science and health

- 〔第8回〕 Topic 8 On cultural issues
- 〔第9回〕 Topic 9 On various news and features

- 〔第10回〕 Students’ presentations
- 〔第11回〕 Students’ presentations
- 〔第12回〕 Review and Summary

- ◆テキスト
- ・指定しない。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件

Participants are encouraged to use English most of the time especially when they report the result of discussion in pairs and groups. Therefore, the students are expected to participate actively and communicate in English with other participants in class.

- ◆成績評価方法
- Evaluation will be based on class contribution (50％), oral presentations (30％) and a final exam (10％). Assignments submitted in class will also be included (10％).

科目 英語（リーディング）O	1 単位
担当 講師 伊藤 壺	

- 授業の概要
- 英国の戯曲家George Bernard Shaw作の諷刺喜劇Pygmalionを原作としたミュージカル作品『マイ・フェア・レディー』(My Fair Lady)の舞台用脚本を読みます。これを読む目的は次の5項目に及びます。
- ①英語の文章は必ず「文脈（背景）」がある中で意味を持つことを学びます。
- ②英語の社会階級による語彙、文法、発音に認められる方言差を、読むことで学びます。
- ③現代英語の文化的な背景として男女の性差が英語表現の中にどのように表されるかを学びます。
- ④非文法的な英語を使うことと、「標準語」を話すことの意義、社会的意味、言語学的な意味を理解します。
- ⑤戯曲の台詞が歌詞として表現されることで、英語のリズムそのままに台詞を覚えることが容易であることを体感します。
- とは言え、これらの目的を受講生一人一人がどの程度まで到達出来るかが、いわゆる成績に反映されることとなりますが、成績以上に、この作品を理解し「楽しむ」ことこそが、授業目的を越えた目標になると考えています。

- 〔第1回〕 イントロダクション、1幕 i 場の精読と理解：イギリスの文化、階級、言語について
- 〔第2回〕 1幕 i 場の続き：英語音声学による方言差（その1）
- 〔第3回〕 1幕 iii 場 pp.32-41 英文を読むことと話すこと、聞くことの関係について
- 〔第4回〕 1幕 iii 場 pp.42-47 Middle Classのイギリス人男性の生き方について
- 〔第5回〕 1幕 v 場 pp.51-57 方言差（その2）、ウェールズ訛りやケルト人のイメージについて
- 〔第6回〕 1幕 v 場pp.57-62, 63-64, 65-66, イライザの方言について
- 〔第7回〕 1幕 v 場 pp.67-75 イライザの成功と心の内
- 〔第8回〕 1幕 vii 場 pp.79-87 英国的ユーモア精神について
- 〔第9回〕 1幕 ix 場 pp.92-94 イライザの最後の試験を前にした場面から何が読み取れるか
- 〔第10回〕 2幕 i 場 p.102-p.108, l.17 この作品は何を問題にしているのかを読み取る
- 〔第11回〕 2幕 iv 場 p.130, l.19-p.134, p.141, l.19-p.144 男性と女性の問題について
- 〔第12回〕 総括
- 英語の文法的な基本事項は、イントロダクションに

て学びます。この授業では、文法を学ぶことよりも「読む」ことの技術や心構え、留意点を自分の中に定着させることに重点を置きます。

- ◆テキスト
- ・Alan Jay Lerner『My Fair Lady』(Ed. with Notes by Choichiro Seino) (英光社、1999年) ISBN 978-4870970090

- ◆参考文献
- ・米倉緯編著『講座『マイ・フェア・レディ』：オーディリーと学ぼう、英語と英国社会』(英潮社、2005年)
 - ・バーナード・ショー著、小田島恒志訳『ピグマリオン』光文社古典新訳文庫（光文社、2013年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- ・可能であれば、受講前に映画版『マイ・フェア・レディー』をDVDを借りるなどして全編観ておくことを奨めます。以前に観たことがある人も、改めて見直すことでこれまで気がつかなかった内容を把握することがあるかも知れません。また、実際に読むテキストは「映画」とは異なる「舞台」上演を目的としています。芝居を観たことがある人と無い人とは理解に差が出てくるかも知れません。芝居というものを御存知ない人も、必ずしもミュージカルでなくてもいいので、事前に舞台上演を観ておくことは奨励します。
 - ・授業目的ならびに目標は上にも書きましたが、受講生一人一人の社会的な見識を授業の展開で活用するべく、受講生が如何に「読み取って」いるかを発言やリアクション・ペーパーに表すことを求めます。
 - ・いわゆる英語の「訳読」の授業ではありませんが、英文の意味を説明するよう求めることは頻繁にあります。「意味の説明」と「翻訳」とは根本的に違うものであることを前提として受講してください（イントロダクションでも説明します）。

- ◆成績評価方法
- 最終日の試験による。

科目 英語（ライティング）1	1 単位
担当 講師 ベトリン、ヴァンセント	

Academic Writing for the Lecture - Discussion Classroom

This intermediate level writing course will use the Lecture-Discussion Genre (classroom) as a basis for introducing and practicing 4 key academic writing skills including:

- ・Note-taking
- ・The Opinion Paragraph
- ・Summary & Response Papers
- ・The Academic Essay

The course will also use small group discussions as a tool for developing academic and professional communication skills for both speaking and writing.

〔第1回〕 *Introduction to the Lecture-Discussion Genre*

〔第2回〕 Unit 1: Psychology – Happiness

〔第3回〕 Unit 2: Linguistics – A Time to

	Learn
〔第4回〕	Unit 3: Public Health – Sleep
〔第5回〕	<i>Writing an Academic Summary & Response Paper</i>
〔第6回〕	Unit 4: Business – Negotiating for Success
〔第7回〕	Unit 5: Art History – Modern Art
〔第8回〕	Unit 6: Technology – Robots
〔第9回〕	Unit 7: Media Studies – Interactive Games
〔第10回〕	Unit 8: Biology – Genetically Modified Food
〔第11回〕	Unit 11: Philosophy – Ethics
〔第12回〕	<i>Review – Course Summary</i>
◆テキスト	
・Helen Solórzano and Laurie Frazier『Contemporary Topics Level 1: 21st Century Skills for Academic Success〔4th Edition〕』(Pearson Longman、2016年) ISBN 9780134400648	
◆参考文献	
None	
◆受講上の要望または受講上の前提条件	
None	
◆成績評価方法	
Attendance/Participation (30%) Homework Quizzes (20%) Writing Assignments (20%) Final Exam (30%)	
科目	英語（ライティング）2
1 単位	
担当	講師 及川一美

BrexitやTrump大統領の選出など世界のニュースは次々と伝えられてきますが、英語のニュースを聞いてその場で理解できたらいいなと思ったことはありませんか? 「CNNニュースは何を言っているのか聞き取れない、でもオリンピックも近いし何とかしたい」と思っている方、この夏CNNニュース漬けになってみませんか。授業では教科書で語彙を確認し、DVDを見て書き取りをします。「ニュースは始め意味がわからなくてもいいんです」と池上彰さんが言っておられましたが、まず単語から、そして独特の言い回しや洒落た表現に触れながら何かを身に着けられたらと思います。

〔第1回〕	Unit 1: 9.11跡地の超高層ビル 開業した展望台から見えたものは
〔第2回〕	Unit 2:東京空襲で戦死したB-29 乗員を弔い、遺族を探した日本人
〔第3回〕	Unit 3: 年間27万人! 米国に留学する中国人が急増 Unit 4: アガサ・クリスティー生誕125周年 いまだ明かされぬ謎
〔第4回〕	Unit 5: 地球温暖化の恩恵!? 海水減少で商業利用進む北極海航路
〔第5回〕	Unit 6: 夢破れ、ドイツから故国へUターンする難民が急増

	Unit 7: テロ後の市民の支えに ヘミングウェイの名作がバリで大人気
〔第6回〕	Unit 8: 「民泊」でおもてなし、東京五輪に向け急増
〔第7回〕	Unit 9: ロンドン中心街の地下鉄 混雑のため入場制限が日常茶飯事
〔第8回〕	Unit 10: スモッグに掃除機! 中国人活動家、集めた塵でレンガを作る
〔第9回〕	Unit 11: 来日で悪ふざけ シュワちゃんの息子に教えたい日本のマナー
〔第10回〕	Unit 12: FBが衛星打ち上げへ「全世界のネット接続」覇権争いが激化
〔第11回〕	Review
〔第12回〕	Review & Exam

◆テキスト	
・関西大学CNN英語研究会『CNN：ビデオで見る世界のニュース (18)』(朝日出版社、2017年) ISBN 978-4-255-15602-6	
◆受講上の要望または受講上の前提条件	
演習中心の授業になりますので全出席が原則前提となります。暑い夏に入る前に教科書のDefinitionとExampleを解き本文の単語を調べてください。また授業で最近のニュースやTED talksなどを応用のディクテーションした時には、辞書で単語を調べて読み直し疑問点を明らかにしてきてください。授業の他にも二か国語ニュースの視聴・e-learningの課題など紹介いたしますので自分にあったものに積極的に取り組み、質問がありましたら授業の前後に聞いてください。	
◆成績評価方法	
Participation 40%、Final Examination 60% Participationとは毎回の授業でのDictation提出やDiscussionへの参加度です。試験は教科書の語彙や表現を問う筆記試験ですが40点以上が必要です。	

科目	英語（ライティング）3
1 単位	
担当	講師 スキーツ, コリン

In this week-long intensive course, students will be introduced to a variety of writing genres. The course is designed for students to write 5 formal pieces of writing based on in-class discussions with other students. Topics covered include cultural identity, dilemmas, Internet surveys, volunteering, and body language. A typical class will move from fairly structured activities such as gap-fills and vocabulary questions, which are meant to raise awareness of what students already know about the topic. As the class progresses students will engage in survey or interview tasks, recording answers that will be used as content for the writing exercises. Assessment will be based on in-class interaction with other students, notetaking, and the writing assignments.

〔第1回〕	Introduction/ course overview/ level
-------	--------------------------------------

	check + answers.
〔第2回〕	Portfolio writing task - imagined life history/ portfolio writing assignment - write a single paragraph of partner’s imagined life history.
〔第3回〕	Cultural identity / vocabulary and general questions/ cultural identity portfolio writing assignment explanation/ cultural judgement activity.
〔第4回〕	Portfolio writing task - interesting details about culture/ portfolio writing assignment - write a single paragraph based on the answers provided by three other students.
〔第5回〕	Dilemmas/ raising awareness and gap-fills/ overview of the writing assignment
〔第6回〕	Portfolio writing task - Interviewing a follow student’s past, present, future dilemmas/ portfolio writing assignment - write a single, longer paragraph based on the answers of another student.
〔第7回〕	Volunteering/ vocabulary associated with volunteering/ general questions to raise previous knowledge of volunteering/ Interviewing classmates regarding previous volunteering experiences.
〔第8回〕	Portfolio writing task: 4-paragraph compare-contrast essay regarding two student’s past volunteering experiences.
〔第9回〕	Internet survey results/ students choose one from 16 different survey summary/ duplicate the same survey with classmates/ record results.
〔第10回〕	Overview of results writing/ portfolio writing assignment - write a five- paragraph writing assignment based on initial Internet survey results and the responses from classmates.
〔第11回〕	Review of classes 1-10/ common writing language errors among Japanese university students.
〔第12回〕	Final examination + wrap up.
◆テキスト	
・プリントを適宜配布する。	
◆受講上の要望または受講上の前提条件	
Students should come to class with a positive attitude and a desire to interact with others. Students should also be able to use a dictionary. Having access to a mobile phone and/or a computer would be advantageous.	

◆成績評価方法	
20% Interaction with other students	
40% Writing portfolio	
30% Final exam	

科目	英語（ライティング）4	1 単位
担当	経済学部教授 ノッター，デビッド M.	

In the class we will cover the basics of paragraph writing. We will also learn how to paraphrase, a skill that is very useful in academic writing. In addition to that, we will practice writing summaries. The class will be conducted in both English and Japanese.

〔第1回〕	The basics of paragraph writing, part 1
〔第2回〕	The basics of paragraph writing, part 2
〔第3回〕	The basics of paragraph writing, part 3
〔第4回〕	Learning how to paraphrase, part 1
〔第5回〕	Learning how to paraphrase, part 2
〔第6回〕	Learning how to paraphrase, part 3
〔第7回〕	Summary writing, part 1
〔第8回〕	Summary writing, part 2
〔第9回〕	Summary writing, part 3
〔第10回〕	Combining skills: incorporating paraphrasing and summaries into our paragraphs, part 1
〔第11回〕	Combining skills: incorporating paraphrasing and summaries into our paragraphs, part 2
〔第12回〕	Combining skills: incorporating paraphrasing and summaries into our paragraphs, part 3

◆テキスト	
There is no text for this class, but the necessary materials will be distributed to students in class.	
◆成績評価方法	
Evaluation will be based on attendance, participation, paragraphs, and a final examination.	

科目	英語（ライティング）5	1 単位
担当	法学部専任講師 大野真澄	

本講義ではアカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの書き方を習得することを目標とします。受講生は、アカデミック・ライティングの基礎知識を学び、様々なジャンルやトピックに関して英語でパラグラフを書く練習を行います。効果的なパラグラフの書き方を習得するために、文章ジャンルの特徴を分析し理解しながら、自身の考えや情報を論理的に述べる方法を学びます。また、アカデミック・ライティングでは、ライティングの過程に着目することが大切です。

具体的には、構想、アウトライン、下書き、ピア・レビュー、書き直しなどの一連の段階を経て思考力を鍛え、ライティング能力を伸ばしていきます。

- 〔第1回〕 Introduction to the Course, Self-Introduction
- 〔第2回〕 Academic Paragraphs, Writing Process（1）
- 〔第3回〕 Academic Paragraphs, Writing Process（2）
- 〔第4回〕 Summarizing and Paraphrasing（1）
- 〔第5回〕 Summarizing and Paraphrasing（2）
- 〔第6回〕 Cause & Effect Paragraphs（1）
- 〔第7回〕 Cause & Effect Paragraphs（2）
- 〔第8回〕 Comparison / Contrast Paragraphs（1）
- 〔第9回〕 Comparison / Contrast Paragraphs（2）
- 〔第10回〕 Opinion Paragraphs（1）
- 〔第11回〕 Opinion Paragraphs（2）
- 〔第12回〕 Review & Wrap-up

- ◆テキスト
 - ・プリントを配布します。
- ◆参考文献
 - ・Alice Oshima & Ann Hogue『Longman Academic Writing Series. Level 3〔4th Edition〕』（Pearson Education、2014年）ISBN 978-0-13-291566-3
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 英和辞典を必ず持参してください。
- ◆成績評価方法
 - 出席と参加態度（30%）、授業中に行うライティング課題（70%）をもとに評価します。

科目	英語（ライティング）6	1単位
担当	講師 ヤング、ジェローム	

Writing Family History. Learning to write well is a difficult, life-long pursuit. This class aims to give students knowledge of the mechanics of the English essay. Student essays with focus on writing family history, on writing biographies. Even though some people are not interested in history per se, most people are interested in the history of their own families and ask many questions about their ancestors: Who were my grandparents, my great-grandparents, my great-great-grandparents. What did they do? How did they live? In this class students will select a family member about whom they know little but would like to know more. The goal is to research and write a 1000 word essay about his or her life.

- 〔第1回〕 Introduction.
- 〔第2回〕 Writing Biographies
- 〔第3回〕 The English Essay
- 〔第4回〕 Ancestor Data

- 〔第5回〕 Analyzing Photographs
- 〔第6回〕 Types of English Paragraphs
- 〔第7回〕 Describing Appearance
- 〔第8回〕 Ancestor’s Personality
- 〔第9回〕 Important Places
- 〔第10回〕 Significant Events
- 〔第11回〕 Essay Review
- 〔第12回〕 Final Speeches

- ◆テキスト
 - ・指定しない。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - Instructor’s Expectations: Regular on-time attendance, preparation of daily homework assignments, and active participation in class (using English at all times).
 - When students have questions, they can ask me before, during, or after class, or via email (hayamajay@yahoo.com).
- ◆成績評価方法
 - There will be continuous evaluation of a student’s performance and progress in this class. Final grades will be based on attendance, active class participation, timely completion of all homework assignments, one writing project, and a final speech.

科目	英語（ライティング）7	1単位
担当	講師 ハインズ、マーティン K.	

On this course, students will examine the three major styles of writing. Studying a major language skill in isolation is almost impossible. As such, in each lesson, time will also be devoted to improving speaking and listening skills. By the conclusion of the course, students will be able to express themselves in a number of written genres.

- 〔第1回〕 Introduction
 - Writing: Narrative 1
 - Speaking & Reading Skills
- 〔第2回〕 Writing: Narrative 2
 - Vocabulary Extension & Listening Skills
- 〔第3回〕 Writing: Narrative 3
 - Speaking & Reading Skills
- 〔第4回〕 Writing: Narrative 4
 - Vocabulary Extension & Listening Skills
- 〔第5回〕 Writing: Descriptive 1
 - Speaking & Reading Skills
- 〔第6回〕 Writing: Descriptive 2
 - Vocabulary Extension & Listening Skills
- 〔第7回〕 Writing: Descriptive 3
 - Speaking & Reading Skills
- 〔第8回〕 Writing: Descriptive 4
 - Vocabulary Extension & Listening

- Skills
- 〔第9回〕 Writing: Expository 1
 - Speaking & Reading Skills
- 〔第10回〕 Writing: Expository 2
 - Vocabulary Extension & Listening Skills
- 〔第11回〕 Writing: Expository 3
 - Speaking & Reading Skills
- 〔第12回〕 Writing: Expository 4
 - Vocabulary Extension & Listening Skills
 - Course Review

- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布する。
 - ・There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - Students must be aware that a large percentage of their final grade is allocated to attendance and participation.
 - The lecturer is available before and after class to answer any questions.
- ◆成績評価方法
 - Final grade will be based on a combination of:
 - Attendance
 - Classroom Participation
 - Writing assignments

科目	英語（ライティング）8	1単位
担当	講師 升田光子	

- 完全なる演習です。
- パラグラフライティングのルール習得に始まり、アカデミックエッセイを自在に書き上げることを目的とする。
- 〔第1回・第2回〕 Unit 1 & 2
- 〔第3回・第4回〕 Unit 3 & 4
- 〔第5回・第6回〕 Unit 5 & 6
- 〔第7回・第8回〕 Unit 7 & 8
- 〔第9回・第10回〕 Unit 9 & 10
- 〔第11回・第12回〕 総括 {テスト（教室で行ったアクティビティーの中から出題）}

- ◆テキスト
 - ・Cynthia A. Boardman and Jia Frydenberg『Writing to Communicate: Level 2』（Pearson、2008年）ISBN 978-0132351164
- ◆参考文献
 - ・特にありません。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 使い慣れた、あるいは使える辞書を必ず、1冊以上持参すること。
- ◆成績評価方法
 - 毎回の提出物、小テスト、宿題などを総合的に評価する。

科目	英語（ライティング）9	1単位
担当	講師 トーマス、ダックス	

〔基礎学力の充実をはかり、応用力をつけることを目的とする実力養成クラスです。〕

This advanced level writing course consists of two main parts: Creative Writing and Analytical Writing.

In the first part students will develop their creative language skills through study of the various elements of, and structures used in, written English narratives. Topics covered will include: establishing settings, building characters, creating conflict, organizing the story, and using dialogue, tense and descriptive language appropriately.

In the second part of the course students will develop their analytical language skills through the writing of two different types of English essay. We’ll look at formulating strong thesis statements, effective brainstorming, organising and outlining, and transitioning from outline to essay. In all cases the student’s goal is to construct a well-formulated, persuasive essay, complete with citations and references.

Students will be required to work cooperatively with other students in class as well as complete homework independently outside of class.

- 〔第1回〕 Course introduction; review of writing basics; useful writing tools
 - 〔第2回〕 Creative Writing 1 – Using descriptive language
 - 〔第3回〕 Creative Writing 2 – Elements of Narrative
 - 〔第4回〕 Creative Writing 3 – Group story-building activity
 - 〔第5回〕 Creative Writing 4 – Peer editing and correction
 - 〔第6回〕 Paraphrasing and Summarising
 - 〔第7回〕 Writing citations and references
 - 〔第8回〕 Analytical Writing 1 – Compare and contrast essay
 - 〔第9回〕 Analytical Writing 2 – Compare and contrast essay / Argumentative essay
 - 〔第10回〕 Analytical Writing 3 – Argumentative essay
 - 〔第11回〕 Analytical Writing 4 – Argumentative essay / Peer editing and correction
 - 〔第12回〕 Peer editing / Course summary
- ◆テキスト
 - ・All materials for this course will be provided by the instructor.

- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
1. This class is held in a computer room. Assignments will be completed using MS Word and submitted by email attachment. A very basic level of computer competence is expected.
 2. Students are required to have their own email account that can be accessed in the computer room by means of the Internet. Some typical examples of web-based services are Gmail, Hotmail, Yahoo, and Excite, but others may also work. Phone-based texting systems such as Docomo Mail or Ezweb will not be sufficient.
 3. This is an advanced level class and students will be expected to use English in class to communicate with their partners.
- ◆成績評価方法
- Evaluation will be based on writing assignments, class participation (including attendance), and a final exam.

科目	英語（ライティング）10	1 単位
担当	講師 日高正司	

- このクラスではパラグラフ・ライティング（PW）の基礎を学びます。PWスタイルを使い、まとまりある英文を作成する能力を身につけることがねらいです。テキストの練習問題やモデル文を使って英語の表現や論理展開を学びます。
- 〔第1回〕 イントロダクション：パラグラフ・ライティングとは何か
- 〔第2回〕 1）出来事を語る 2）手順を説明する
- 〔第3回〕 感情や人物、場所を描写する
- 〔第4回〕 人物や物事を定義する
- 〔第5回〕 人物や物事を比較・対照する
- 〔第6回〕 原因と結果を書く
- 〔第7回〕 問題を指摘して解決する
- 〔第8回〕 自分の意見を述べる
- 〔第9回〕 反対意見を述べる
- 〔第10回〕 データを説明・分析する
- 〔第11回〕 英文メール・レターを作成する
- 〔第12回〕 授業のまとめ

- ◆テキスト
- ・仲谷都、吉原学、Ruth Fallon『Smart Writing はじめてのパラグラフ・ライティング』（成美堂、2017年）ISBN 978-4-7919-6032-3
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 授業外課題があります。
- ◆成績評価方法
- 授業課題（50％）と最終試験（50％）の総合評価とする。

科目	英語（ライティング）11	1 単位
担当	講師 笹川 渉	

- この授業では、パラグラフ・ライティング（paragraph writing）を行うための基礎から始め、自分の主張を英文で分かりやすく伝える方法を学びます。第5回までは、英語を書く上での基本的な約束事と、パラグラフの構造を学びながら、英文のパラグラフの構造を正確に理解し、適切なトピック・センテンス（topic sentence）を書く練習をします。第6回からは、「時間的順序」、「因果関係」、「比較」などを表現するパラグラフやエッセイを読むことで、適切なパラグラフの書き方を学習します。課題は担当者が添削をした上で返却します。文法事項も基礎から復習しながら進めます。今後英語を活用できるようになるために存分に学習してください。
- 〔第1回〕 イントロダクション、パラグラフの構成（1）
- 〔第2回〕 パラグラフの構成（2）
- 〔第3回〕 パラグラフの構成（3）
- 〔第4回〕 パラグラフの構成（4）
- 〔第5回〕 これまでのまとめ；文法事項の復習（1）
- 〔第6回〕 引用の仕方；時間的順序（1）
- 〔第7回〕 時間的順序（2）；文法事項の復習（2）
- 〔第8回〕 因果関係
- 〔第9回〕 比較（1）
- 〔第10回〕 比較（2）
- 〔第11回〕 英作文上達のためのコツ
- 〔第12回〕 試験および総括

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布します。
- ◆参考文献
- ・『新編英和活用大辞典』（研究社、1995年）
 - ・Oxford Collocations Dictionary for English Students, Oxford UP、2009年
 - ・Oxford Learners Thesaurus: A Dictionary of Synonyms, Oxford UP、2008年
 - ・迫桂・徳永聡子、『ACADEMIC WRITING I』（通信テキスト、2012年）
 - ・その他、授業時に適宜指示します。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 授業時には英和辞典（英英辞典でも可）と和英辞典を必ず持参してください（電子辞書可）。
- ◆成績評価方法
- 小テストと各回求める課題と最終日の試験で評価します。なお、パラグラフ・ライティングの課題は、返却後修正を求める場合もありますので、修正稿まで含めて評価します。

科目	英語（ライティング）12	1 単位
担当	講師 沢村 静	

このクラスでは、基本的な英作文からパラグラフライティングの基本構造を理解した正しい文章を書けることを目指します。自己紹介から説明書、物語文など各テーマについて筋道立てて自己表現するための技術

- を学びましょう。文章の理論構成、展開法を理解するとともに、その基礎となる文法事項を復習し、語彙を強化していきます。
- 〔第1回〕 Chapter 1：Introduction
定義の仕方
自己紹介
- 〔第2回〕 Chapter 2：トピック文の書き方
- 〔第3回〕 Chapter 3：時系列的なサポート文の書き方
- 〔第4回〕 Chapter 4：手順や手続きを説明するサポート文の書き方
- 〔第5回〕 Chapter 5：例示・列挙のサポート文の書き方
- 〔第6回〕 Chapter 6：原因と結果のサポート文の書き方
- 〔第7回〕 Chapter 7：比較・対照のサポート文の書き方
- 〔第8回〕 Chapter 8：分類のサポート文の書き方
- 〔第9回〕 Chapter 9：前置詞の概念とイメージについて
- 〔第10回〕 Chapter10：形容詞の種類、関係副詞について
- 〔第11回〕 Chapter11：分詞・分詞構文について
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
- ・井上逸兵、飯島あす香『Writing Seeker 文法からパラグラフライティングへ』（金星堂、2015年）ISBN 978-4-7647-1146-4
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 毎回辞書を必ず持参してください。予習、復習を前提で授業を進めます。アクティビティやディスカッションを多く取り入れますので、他学生と積極的に関わりながら授業に参加することを期待します。また、各課ごとの課題提出は必須です。
- ◆成績評価方法
- 最終日の試験による。

科目	英語（ライティング）13	1 単位
担当	文学部准教授 井口 篤	

- この講義では英語で書く練習を集中的に行います。反復練習によって、受講者の皆さんの英語で書くことに対する心理的な抵抗を減らすことが目的です。より具体的には、講義の終わりまでに5段落からなる英作文（five-paragraph essay）が書けるようになることを目指しましょう。
- また、純粋に「書く」ことだけを練習するのではなく、英文を「発音してみる」「音読してみる」ことや、受講者のレベルによっては「短いスピーチ」や「ディベートもしくは議論」も取り入れてみたいと思います。書く力と話す力は連動して上達するものだからです。
- 授業の進め方としては、まず早口言葉や英詩の朗読などの簡単なウォームアップで始め、続いて各時間で学ぶ内容の簡単な説明を講師が行い、そして練習問題によって理解を確認する、という流れにする予定です。必要に応じて、難解な語彙や発音などの確認もします。何回かに一回、あまり長くない英文のまとまりを暗記

- する課題も課します。
- 英作文の教科書としては、講師が適宜プリント教材を配布します。また、英語で短いエッセイを書くための興味深いトピックを提供してくれる読解教材や視聴覚教材も使用します。
- 〔第1回〕 Introduction
Warm-Up
Explanation
Exercises
Vocabulary
Pronunciation
- 〔第2回〕 Warm-Up
Explanation
Exercises
Vocabulary
Pronunciation
- 〔第3回〕 Warm-Up
Explanation
Exercises
Vocabulary
Pronunciation
- 〔第4回〕 Warm-Up
Explanation
Exercises
Vocabulary
Pronunciation
- 〔第5回〕 Warm-Up
Explanation
Exercises
Vocabulary
Pronunciation
- 〔第6回〕 Warm-Up
Explanation
Exercises
Vocabulary
Pronunciation
- 〔第7回〕 Warm-Up
Explanation
Exercises
Vocabulary
Pronunciation
- 〔第8回〕 Warm-Up
Explanation
Exercises
Vocabulary
Pronunciation
- 〔第9回〕 Warm-Up
Explanation
Exercises
Vocabulary
Pronunciation
- 〔第10回〕 Warm-Up
Explanation
Exercises
Vocabulary
Pronunciation
- 〔第11回〕 Warm-Up
Explanation

Exercises Vocabulary Pronunciation 〔第12回〕 Course Review and exam
◆テキスト ・プリントを適宜配布する。
◆受講上の要望または受講上の前提条件 基本的な英文法を一通り理解しており、辞書を引けば英文がなんとか読めるくらいのレベルを想定して授業を進めます。 毎回必ず予習をしてから授業にのぞんでください。 また、英和辞書・和英辞書・英英辞書をご持参ください。一冊しか持参する余裕がないならば、英英を持ってきてください。例えば、 Longman Dictionary of Contemporary English Oxford Advanced Learner's Dictionary Cambridge Advanced Learner's Dictionary Collins Cobulid Advanced Learner's Dictionary Merriam-Webster's Advanced Learner's English Dictionary など、どれでも構いません。
◆成績評価方法 出席状況、授業参加度、最終日の試験によって評価します。

科目 英語（ライティング）14	1 単位
担当 法学部教授 佐藤元状	

英語でアカデミックな文章を書くための基本的なスキルをわずか1週間で学習します。前半はパラグラフ（＝段落）の書き方、後半はエッセイ（＝複数の段落からなる文章のまとまり）の書き方の訓練をします。英語である一定の長さの論理的な構成のリサーチ・ペーパー（＝自分で決定したテーマについて独自のリサーチをして、自己の見解を導き出したもの）を書けるようになるには、継続的な努力と勉学への真摯な態度が不可欠です。ライティングの宿題の量は少ないとは決して言えませんが、がんばってついてきてください。こちらも全力で指導にあたります。参加者のみなさんの1週間後の英語のライティング能力の飛躍的な向上を保証します。
〔第1回〕 イントロダクション
〔第2回～第6回〕 パラグラフの書き方の訓練
〔第7回～第10回〕 エッセイの書き方の訓練
〔第11回・第12回〕 ワークショップ
その他 課題・レポート（定期的な宿題およびリサーチ・ペーパー）
◆テキスト ・Alice Oshima / Ann Hogue『Longman Academic Writing Series Level 4 Student Book（5E）〔第5版〕』（Pearson Japan、2013年）ISBN 978-0132915694
◆参考文献 ・授業中に指示します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件 やる気のある学生を歓迎します。授業には、英英辞典の入った電子辞書を持参してください。
◆成績評価方法 成績は、出席、平常点、提出物、リサーチ・ペーパーから総合的に判断します。配分の目安は、1）出席、平常点、提出物を合わせて30％、2）学期末リサーチ・ペーパー70％です。

科目 英語（ライティング）15	1 単位
担当 講師 出原健一	

〔第1回〕	日本語と英語の構造的差異、Unit 1 初めに簡単に日本語と英語の構造的差異について講義する。その後、テキストUnit 1「提案・勧誘の表現」を用いてライティングの実践を行う。
〔第2回〕	Unit 2, 3 Unit 2「挨拶の表現」、Unit 3「お礼・お詫びの表現」を用いてライティングの実践を行う。
〔第3回〕	Unit 4, 5 Unit 4「お祝い・褒め表現」、Unit 5「賛成・反対・同意・不同意の表現」を用いてライティングの実践を行う。
〔第4回〕	Unit 6, 7 Unit 6「相づち・応答・つなぎの表現」、Unit 7「希望・意図・考え・計画の表現」を用いてライティングの実践を行う。
〔第5回〕	Unit 8, 9 Unit 8「興味・関心の表現」、Unit 9「許可・命令・禁止の表現」を用いてライティングの実践を行う。
〔第6回〕	Unit 10, 11 Unit 10「忠告・助言・注意・激励の表現」、Unit 11「判断・選択・評価・決断の表現」を用いてライティングの実践を行う。
〔第7回〕	Unit 12, 13 Unit 12「感情表現（1）喜び・悲しみ」、Unit 13「感情表現（2）驚き・怒り・不満」を用いてライティングの実践を行う。
〔第8回〕	Unit 14, 15 Unit 14「学校生活に関する表現」、Unit 15「交通・旅行に関する表現」を用いてライティングの実践を行う。
〔第9回〕	Unit 16, 17 Unit 16「買い物に関する表現」、Unit 17「電話の表現」を用いてライティングの実践を行う。
〔第10回〕	Unit 18, 19 Unit 18「紹介・招待の表現」、Unit 19「健康・病気に関する表現」を用いてライティングの実践を行う。
〔第11回〕	Unit 20 Unit 20「天候・気候・季節に関する表現」を用いてライティングの実践を行う。
〔第12回〕	総括

これまでの復習を行ったうえで、習熟度の確認を行う。
◆テキスト ・木塚晴夫編著『英作文のコア表現180〔新版〕』（音羽書房鶴見書店、2008年）ISBN 978-4-7553-0347-0
◆受講上の要望または受講上の前提条件 各回で扱うテキストの箇所に関しては、問題を解き、十分予習をした上で、授業に臨むこと。予習をしていない場合、出席とはみなさない。
◆成績評価方法 最終日の試験による。ただし、授業を2回欠席（予習不十分による欠席認定も含む）した場合、試験の受験資格をはく奪する。

科目 英語（ライティング）16	1 単位
担当 講師 ハスケル, デル R.	

WRITING PERSONALLY This intermediate level course is designed to develop English writing using communicative activities, including writing about yourself and other people, interviewing, writing brief notes, draft writing, peer editing and revising. English will be used for all activities. Students will complete one major writing project - a personal profile based on a recorded interview with an interesting person. The personal profile project will involve writing interview questions, interviewing, writing brief notes about personal information, describing appearance and character, writing quotations, and expressing your opinions.
COURSE OUTLINE

ドイツ語

科目 ドイツ語（初級前期）I—A	1 単位
担当 文学部教授 斎藤太郎 / 理工学部専任講師 桑田 文	

初級前期は、ABC、発音の仕方から始めて、ドイツ語文法の基本ルールを学習し、ドイツ語を読み、書き、聞き、話すことのしっかりとした基礎をつくる。教科書の約半分、形容詞のところまで学習する。
〔第1回〕 アルファベート、第1課：発音
〔第2回〕 第2課：動詞の現在人称変化
〔第3回〕 第3課：冠詞と名詞（単数）
〔第4回〕 第4課：冠詞類
〔第5回〕 第5課：前置詞
〔第6回〕 第6課：名詞の複数形
〔第7回〕 第7課：動詞の人称変化（特殊）、命令形
〔第8回〕 第8課（1）：話法の助動詞
〔第9回〕 第8課（2）：未来形

〔第1回〕 Introduction, partner interviewing
〔第2回〕 Draft writing, peer editing, rewriting
〔第3回〕 Sentence combination, sentence completion
〔第4回〕 Personal profile guide, interview question writing, interview DVD
〔第5回〕 Partner profile correction, interview question check
〔第6回〕 Description – appearance & character, interview DVD
〔第7回〕 Interview notes check, draft writing
〔第8回〕 Quotations – direct & indirect, interview DVD
〔第9回〕 Draft editing, rewriting
〔第10回〕 Problem solving – content & structure
〔第11回〕 Personal profile collection, review
〔第12回〕 Writer's problems & solutions
◆テキスト ・All material will be provided by the course instructor.
◆受講上の要望または受講上の前提条件 Students will need to use a computer for personal profile writing.
*Students in this course must be able to read, write, understand, and speak English at an intermediate or advanced level of proficiency.
*Elementary level students will find this course too difficult.
◆成績評価方法 Assessment will be based on daily attendance, active participation (listening, speaking, reading, and writing) in English, homework assignments, and one personal profile writing project.

〔第10回〕 第9課：定形後置

〔第11回〕 第10課：zu不定句

〔第12回〕 まとめと試験

◆テキスト

・大谷弘道・井戸田総一郎・岩下真好・大畑純一・識名章喜編『新編初歩ドイツ語』（慶應義塾大学出版会1995年）

ISBN 978-4-7664-0260-5

◆受講上の要望または受講上の前提条件

この段階は、今後のドイツ語のあらゆる学習の基礎となるものなので、きちんと身につけてほしい。

◆成績評価方法

スクーリング最終日の試験によって評価する。

科目	ドイツ語（初級前期）Ⅰ―B	1 単位
担当	商学部専任講師 西尾宇広／講師 秋田静男	

ドイツ語（初級前期）Ⅰ―Aと同じ。

科目	ドイツ語（初級後期）Ⅱ―A	1 単位
担当	文学部教授 斎藤太郎／理工学部専任講師 桑田 文	

初級後期は、初級前期に引き続いてドイツ語の文法の基礎を学ぶ。教科書の後半、形容詞以後を学習する。

- 〔第1回〕 初級前期の総ざらい
〔第2回〕 第11課：形容詞の変化
〔第3回〕 第12課：分離動詞
〔第4回〕 第13課：再帰動詞
〔第5回〕 第14課：動詞の3要形と過去
〔第6回〕 第15課：現在完了
〔第7回〕 第16課：受動形
〔第8回〕 第17課：関係代名詞
〔第9回〕 第18課：接続法の形態
〔第10回〕 第19課：接続法の用法（1）―間接話法
〔第11回〕 第20課：接続法の用法（2）―非現実話法
〔第12回〕 まとめと試験

テキスト、注意事項等は、ドイツ語（初級前期）Ⅰ―A、Bと同じ。

科目	ドイツ語（初級後期）Ⅱ―B	1 単位
担当	商学部専任講師 西尾 宇広／講師 秋田静男	

ドイツ語（初級後期）Ⅱ―Aと同じ。

科目	ドイツ語（中級）Ⅲ―A	1 単位
担当	講師 グラスミュック、マルクス	

初級文法を一通り学んだ学生を対象に、簡単な文章の音読、読解を通して、復習および定着、応用を図ります。また、簡単な会話も積極的に取り入れ、自己発信できる能力も身に付け、バランスの取れたドイツ語力を目指します。

以下シラバスの内容は、プリントを配布した上での確認事項とします。

- 〔第1回〕 イントロダクション
〔第2回〕 発音・基礎文法の復習
〔第3回〕 Kennenlernen 人と知り合う
〔第4回〕 Freizeit 自由時間
〔第5回〕 Tagesablauf 一日の行動
〔第6回〕 Essen und Trinken 食事
〔第7回〕 Wohnen 住まい
〔第8回〕 Einkaufen 買い物
〔第9回〕 Familie 家族
〔第10回〕 Reisen 旅行
〔第11回〕 Beruf und Arbeit 職業と仕事
〔第12回〕 まとめと試験

◆テキスト
・プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

本スクーリング初級後期を終えた学生、或いは既に初級文法を学習したことのある学生対象。授業では、能動的に参加してください。積極的に参加し、自己発信をしていくことで、自分の得意分野、苦手分野を認識し、更なる学習に役立てるためです。

◆成績評価方法

出欠および授業参加態度、宿題提出、試験などにより総合的に評価します。

科目	ドイツ語（中級）Ⅲ―B	1 単位
担当	経済学部教授 境 一三	

この授業は、初級ドイツ語を終わった皆さんに、ドイツ語を読むことに慣れていただくためのものです。内容的には、ドイツ社会の現状理解を目的としますが、文法・語彙・語法などの説明も丁寧に行う予定です。内容理解は、教員が口頭で質問しながら行います。十分な予習と復習が前提となります。

- 〔第1回〕 導入：「読む」とはどのようなことか？
〔第2回〕 ドイツ人とスポーツ1
〔第3回〕 ドイツ人とスポーツ2
〔第4回〕 ドイツ人と音楽1
〔第5回〕 ドイツ人と音楽2
〔第6回〕 ドイツの教育1
〔第7回〕 ドイツの教育2
〔第8回〕 ドイツ人の休暇1
〔第9回〕 ドイツ人の休暇2
〔第10回〕 ドイツ人と政治1
〔第11回〕 ドイツ人と政治2
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

辞書とこれまでに使った文法（教科）書を毎回必ずお持ちください。

十分な予習と復習が前提となります。また、授業中には積極的な質問と発言を求めます。

◆成績評価方法

最終日に試験を行います。

科目	ドイツ語（上級）Ⅳ―A	1 単位
担当	経済学部教授 七字眞明	

このクラスでは、ドイツ語の語彙を増やし、読解力を身につける練習に取り組みます。テキストを読みながら、ドイツ語の基本的な文法事項の復習も行います。

テキストには『時事ドイツ語 2017年度版』(Andrea Raab／石井寿子著・朝日出版社・2017)を使用します。

- 〔第1回〕 第3課のテキスト「Kritische Neuauausgabe von Hitlers Mein Kampf ist Bestseller」のうち、15ページ1行目から13行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。

- 〔第2回〕 第3課のテキスト「Kritische Neuauaus-

gabe von Hitlers Mein Kampf ist Bestseller」のうち、15ページ13行目から17ページ31行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。

- 〔第3回〕 第3課のテキスト「Kritische Neuauausgabe von Hitlers Mein Kampf ist Bestseller」のうち、17ページ31行目から47行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。

- 〔第4回〕 第3課のテキスト「Kritische Neuauausgabe von Hitlers Mein Kampf ist Bestseller」の内容に関連した練習問題として、18ページの問題Ⅰから19ページの問題Ⅳに取り組みます。

- 〔第5回〕 第8課のテキスト「Die Briten wollen die EU verlassen」のうち、49ページ1行目から12行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。

- 〔第6回〕 第8課のテキスト「Die Briten wollen die EU verlassen」のうち、49ページ12行目から50ページ30行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。

- 〔第7回〕 第8課のテキスト「Die Briten wollen die EU verlassen」のうち、50ページ30行目から51ページ48行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。

- 〔第8回〕 第8課のテキスト「Die Briten wollen die EU verlassen」の内容に関連した練習問題として、52ページの問題Ⅰから53ページの問題Ⅲに取り組みます。

- 〔第9回〕 第5課のテキスト「Abgasskandal bei VW: Konzernchef Winterkorn tritt zurück」のうち、27ページ1行目から12行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。

- 〔第10回〕 第5課のテキスト「Abgasskandal bei VW: Konzernchef Winterkorn tritt zurück」のうち、27ページ13行目から28ページ28行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。

- 〔第11回〕 第5課のテキスト「Abgasskandal bei VW: Konzernchef Winterkorn tritt zurück」のうち、28ページ28行目から29ページ43行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。

- 〔第12回〕 まとめと試験と総括を行います。

◆テキスト

・Andrea Raab／石井寿子『時事ドイツ語 2017年度版』（朝日出版社、2017年） ISBN 978-4-255-25404-3

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業では、皆さんにテキストの翻訳を担当し練習問題に挑戦していただこうと考えています。授業開始までに必ず予習（独和辞書を用いてひととおりテキストの日本語訳を準備する）をして授業に臨んでください。また、ドイツ語の文法を忘れてしまった方は、以前使

用した文法の教科書も持参してください。

◆成績評価方法

最終授業日に行う試験（50％）と平常点（50％）の総合評価とします。

科目	ドイツ語（上級）Ⅳ―B	1 単位
担当	経済学部教授 鈴木直樹	

このクラスではドイツ語圏の地誌情報や文化に関する文章を読み、同時に文法の復習をします。必要に応じて発音や聞き取りの練習も行います。授業は毎回、指定された範囲の予習がなされていることを前提に進みます。とりわけ、指定された文章の和訳と文法問題については、毎回細かく確認しますので、十分に準備をしてください。ただし、以下の予定は履修者のドイツ語理解度に応じて、多少の変更をすることがあります

- 〔第1回〕 1課のLesetext 1, 2を読み、文法練習問題3, 4, 5を解きます。余裕があれば聞き取りに挑戦します。

- 〔第2回〕 2課のLesetext 1を読み、接続法の復習をします。Aufgabe zum Textも扱います。文法練習問題は1を解き、余裕があれば聞き取りに挑戦します。

- 〔第3回〕 2課のLesetext 2を読み、不定関係代名詞と関係副詞の復習をします。Fragen zum Textも扱います。文法練習問題は2, 3を解き、余裕があれば聞き取りに挑戦します。

- 〔第4回〕 3課のLesetext 1を読み、話法の助動詞と完了形の復習をします。Fragen zum Textも扱います。文法練習問題は1, 2を解きます。

- 〔第5回〕 3課のLesetext 2を読み、従属接続詞の復習をします。文法練習問題は3, 4を解き、余裕があれば聞き取りに挑戦します。

- 〔第6回〕 4課のLesetext 1を読み、完了形の復習をします。そのために37ページの絵葉書を完成させておいてください。文法練習問題は1, 2を解き、分詞と仮主語のesについて学びます。

- 〔第7回〕 4課のLesetext 2を読み、理由の表現、独立分詞構文、絶対比較級などの復習をします。Aufgabe zum Textも扱います。文法練習問題は3, 4を解きます。

- 〔第8回〕 5課のLesetext 1を読み、過去分詞、現在分詞、分詞構文の復習をします。文法練習問題は2, 3を解き、受動態の構造を確認します。

- 〔第9回〕 5課の文法練習問題4を解き、冠飾句の確認をします。そのうえでLesetext 2を読みます。余裕があれば説明文や聞き取りに挑戦します。

- 〔第10回〕 6課のLesetext 1を読み、定関係代名詞の復習をします。文法練習問題は1, 2, 3を解きます。

- 〔第11回〕 6課のLesetext 2を読み、不定詞句の復

習をします。文法練習問題は4，5，6を解き、余裕があれば聞き取りに挑戦します。
〔第12回〕 まとめの試験と総括を行います。
◆テキスト
・U. Schmidt, M. Duppel-Takayamaほか

『Kennzeichen. de Faust und Mephisto』（三修社、2016年）
ISBN 978-4-384-13095-9
◆成績評価方法
出席および最終日の試験による。

フランス語

科目	フランス語（初級前期）Ⅰ―A フランス語（初級前期）Ⅰ―B	1単位
担当	講師 小嶋竜寿／講師 五味田 泰	

フランス語の初級文法の授業です。「綴りと発音」から始めて「目的語人称代名詞の位置」までを学習します。教科書は0課から10課までを学習します。毎回教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で授業を進めていきます。
〔第1回〕 Leçon 0 綴りと発音
〔第2回〕 Leçon 1 「名詞の性と数」・「冠詞」・「提示表現」
〔第3回〕 Leçon 2 「主語人称代名詞」・「動詞êtreとavoirの直接法現在形」・「疑問文に対する答え方」
〔第4回〕 Leçon 3 「-er型規則動詞と-ir型規則動詞の直説法現在形」・「形容詞」
〔第5回〕 Leçon 4 「指示形容詞」・「所有形容詞」・「強勢人称代名詞」
〔第6回〕 Leçon 5 「否定文・否定のde」・「疑問文」・「否定疑問文に対する答え方」
〔第7回〕 Leçon 6 「不規則動詞allerとvenirの直接法現在形」・「近接未来と近接過去」・「前置詞àとdeと定冠詞の縮約」・「強調構文」
〔第8回〕 Leçon 7 「疑問形容詞」・「疑問副詞」・「疑問代名詞（1）一性・数変化しないもの」
〔第9回〕 Leçon 8 「命令法」・「非人称構文」・「疑問代名詞（2）一性・数変化するもの」
〔第10回〕 Leçon 9 「比較級」・「最上級」・「特殊な優等比較級・優等最上級」
〔第11回〕 Leçon 10 「人称代名詞」・「目的語人称代名詞の位置」
〔第12回〕 総括・最終試験

◆テキスト
・石上亜紀子他『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法（CD付）』（朝日出版社、2007年）ISBN 978-4-255-35184-1
◆受講上の要望または受講上の前提条件
フランス語を初めて学ぶ学生を対象とします。1回の授業で教科書の1課を学習するという比較的速いペースで進みますので、授業前の予習と授業後の復習は不可欠です。予習に関しては、授業前に授業で学ぶ課の文法説明を一読して理解するよう努めるようにしてください。復習に関しては、教科書の練習問題はもちろん、付録の文法問題も必ず解き、授業で学習した課の内容を確実にマスターするよう心がけてください。

なお、教科書にはCDも付いていますので、フランス語の発音の学習に大いに役立ててください。
一般に、語学の学習にとって反復練習は欠かせません。動詞の活用を含めた文法事項は、何度も音読して暗記し、また忘れたら覚え直すという作業を繰り返し、できるだけ多くの文法練習の問題を解くようにしてください。この作業を繰り返すうちに確実にフランス語の実力がつくようになるでしょう。

◆成績評価方法
平常点および最終試験による。

科目	フランス語（初級前期）Ⅰ―C	1単位
担当	講師 クレメール 小椋, アレクサンドラ J. 講師 森 千夏	

フランス語（初級前期）Ⅰ―A、Bと同じ。

科目	フランス語（初級後期）Ⅱ―A	1単位
担当	講師 クレメール 小椋, アレクサンドラ J. 講師 森 千夏	

フランス語初級前期にひきつづき、「過去分詞」から「接続法」までを学習します。教科書は11課から20課までを学習します。1回の授業で教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で進めていきます。なお初回の授業は前期に学習した文法の復習に充てます。

〔第1回〕 Leçon 6からLeçon 10までの文法事項の復習
〔第2回〕 Leçon 11 「過去分詞」・「直説法複合過去」
〔第3回〕 Leçon 12 「代名動詞」
〔第4回〕 Leçon 13 「中性代名詞 en, y, le」
〔第5回〕 Leçon 14 「関係代名詞」
〔第6回〕 Leçon 15 「受動態」・「指示代名詞」・「所有代名詞」

〔第7回〕 Leçon 16 「直説法半過去形」・「直説法大過去形」

〔第8回〕 Leçon 17 「直説法単純未来形」・「直説法前未来形」

〔第9回〕 Leçon 18 「現在分詞」・「ジェロンディフ」
〔第10回〕 Leçon 19 「条件法現在形・過去形」
〔第11回〕 Leçon 20 「接続法現在形・過去形」
〔第12回〕 総括・最終試験

◆テキスト
・石上亜紀子他『アトリエ・フランセー見開きフラン

ス語文法（CD付）』（朝日出版社、2007年）ISBN 978-4-255-35184-1
◆受講上の要望または受講上の前提条件
フランス語初級前期を終えた学生、またはそれと同程度の知識を持つ学生を対象とします。この科目の受講希望者は、第1回目の授業の前までに『アトリエ・フランセ』の特に6課から10課までを自主学習しておいてください。第1回目の授業ではこれらの課の簡単な復習をします。
テキスト、注意事項などはフランス語（初級前期）Ⅰ―A、B、Cと同じです。
◆成績評価方法
平常点および最終試験による。

科目	フランス語（中級）Ⅲ―A	1単位
担当	商学部准教授 コミネッティ, フィリップ	

この授業では、基本文法の知識を実践的に応用することを目指します。また自立学習に必要な不可欠方法論を紹介し、それに基づいた演習をします。会話及びテキスト講読の練習もします。

〔第1回〕 レベルチェック
〔第2回〕 「通じる」発音を目指すために
〔第3回〕 冠詞の問題
〔第4回〕 時制の問題
〔第5回〕 時制の問題
〔第6回〕 会話で力を試そう（受講者にテーマを選んでもらう）

〔第7回〕 会話で力を試そう（受講者にテーマを選んでもらう）

〔第8回〕 語彙を効率よく修得するために
〔第9回〕 辞書の使い方
〔第10回〕 文章を読んでみよう
〔第11回〕 文章を読んでみよう
〔第12回〕 総括

◆テキスト
・プリントを適宜配布する。
◆受講上の要望または受講上の前提条件
初級文法を既に習ったことは前提です。また、スクーリング開始前、文字の読み方をきちんと復習すること。
◆成績評価方法
授業への取り組み、予習、授業時の小テスト。

科目	フランス語（中級）Ⅲ―B	1単位
担当	講師 真部清孝	

初級文法を復習しつつ、簡単なフランス語を読んでいます。原典講読の手ほどきをするクラスです。

〔第1回〕 講読：テキスト第1課
「La liberté d'expression」
〔第2回〕 講読：テキスト第2課
「Le droit du sol」
〔第3回〕 文法事項の確認：直説法現在・複合過去
〔第4回〕 講読：テキスト第3課
「Etre français et juif」
〔第5回〕 講読：テキスト第4課

「L'abolition de la peine de mort en France」
〔第6回〕 文法事項の確認：直説法半過去・大過去・単純未来
〔第7回〕 講読：テキスト第5課
「Les économistes français」
〔第8回〕 講読：テキスト第6課「Les drones」
〔第9回〕 文法事項の確認：条件法・接続法
〔第10回〕 講読：テキスト第7課
「Le gaspillage alimentaire」
〔第11回〕 講読：テキスト第8課
「Le repos dominical」
〔第12回〕 試験と総括

◆テキスト
・加藤晴久／ミシェル・サガズ『時事フランス語2017年度版』（朝日出版社、2017年）ISBN 978-4-255-35279-4

◆参考文献
・なし
◆受講上の要望または受講上の前提条件
フランス語の初級文法を理解していること。
◆成績評価方法
最終日に行う試験及び平常点で総合的に評価します。

科目	フランス語（上級）Ⅳ―A	1単位
担当	講師 原山重信	

マラルメの詩を読む
担当者の専門研究対象である19世紀後半の詩人、マラルメの韻文詩をいくつかピックアップして講読します。

フランス詩の基本構造を提示した後、比較的読み易い初期詩篇の中からセレクトした幾つかを読んだ後、難解な後期詩篇にもチャレンジしてみます。

今回は、ドビュッシーとラベルが曲を付けた、それぞれ同じ題名の楽曲に採用されたものを中心に選んでみました。

詩は、分量は少ないですが、フランスのエッセンスが凝縮されています。これをどのような手続きで読み解いていくかを学びたいと思います。

〔第1回〕 フランス詩の基本構造
あらわれ

〔第2回〕 あらわれ（続き）
海の微風

〔第3回〕 海の微風（続き）
徒な願い

〔第4回〕 徒な願い（続き）
マラルメ嬢の扇

〔第5回〕 マラルメ嬢の扇（続き）
躍り出た、膨らみと 上昇から……

〔第6回〕 躍り出た、膨らみと 上昇から……（続き）
〔第7回〕 浄らかなその爪は 縞瑪瑙を 高々と掲げ、……

〔第8回〕 浄らかなその爪は 縞瑪瑙を 高々と掲げ、……（続き）

〔第9回〕 処女にして、生氣あふれ、美しい 今日という日……

〔第10回〕 処女にして、生气あふれ、美しい 今日という日……（続き）

〔第11回〕 総括

〔第12回〕 総括およびまとめ

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・渡辺守章訳『マラルメ詩集』（岩波書店、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

初級文法を最後まで終えていることが前提です。（できたら、文語文法も学んでいるほうがよいが、これがない場合は、これを記したテキストまたは参考書を持参すること。）

仏和辞典を引いてくることは必須ですが、できたらPetit Robertなどの仏仏辞典を引いてくるほうがよい勉強になります。この授業では、上級レベルの人がさらなる上を目指すために、仏仏辞典を使うのを抵抗なくできるように導いていきます（カシオの電子辞書に入っているものも使用可能）。

◆成績評価方法

授業内活動の状況と、最終試験の結果をみて、総合的に判断します。

科目	フランス語（上級）Ⅳ－B	1単位
担当	講師 稲垣正久	

原典講読；フランス語の文章を読み解く技術の向上

と、フランスという国についての理解を深めることを目的として、下記のテキストを講読します。

〔第1回〕 第1章；Des hommes sans nom aux Gallo-Romains

〔第2回〕 第2章；Comment la Gaule devint la France

〔第3回〕 第3章；Les Premeres dynasties

〔第4回〕 第4章；Le Moyen Age

〔第5回〕 第5章；Trois Capetiens

〔第6回〕 第6章；La Renaissance

〔第7回〕 第7章；La Reforme et les Guerres de Religion

〔第8回〕 第8章；La Monarchie absolue（1）

〔第9回〕 第9章；La Monarchie absolue（2）

〔第10回〕 第10章；Le XVIIIe siecle

〔第11回〕 第11章；1789：des Etats Generaux a la Monarchie constitutionnelle

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・Jean Mathiex『フランス史入門』（白水社、1983年） ISBN 978-4-560-01087-7

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語の初級文法を習得し、さらなる語学力の向上を望み、フランスの歴史に興味のある学生の受講を希望します。

◆成績評価方法

試験の結果に平常点を加えて総合的に評価します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

初回授業前に必ずテキストを購入しておいて下さい。また、テキストにはCDがついています。宿題でリスニング問題を課すことがあるかもしれませんので、ご自宅等でCDを聴ける環境であることが望ましいです。

◆成績評価方法

毎回授業の最初に行う小テスト及び最終日の試験により総合的に判断します。出題形式等の詳細は講義中に説明します。

科目	中国語（初級）B	1単位
担当	文学部准教授 浅野雅樹	

近年すさまじい経済発展を遂げている中国で使われる中国語は国際的ニーズが極めて高く、マスターすれば有用性が高い言語の一つである。

本講は初学者を対象に、会話・読解など総合的な初歩的中国語の技能や能力を身に付けることを目的とした授業を行なう。中国語には、日本語にはない音や声調と称される音節が担う高低、長短などの音調があり、発音が特に難しい言語である。そこで本講では、まず発音練習及びピンイン（中国語のローマ字発音表記）の学習に重点をおく。基礎的な発音を一通りマスターした後は、初級の教材を用いてテキストの会話文・文

法・語彙の解説を行い、受講者の言葉に対する知識を高め、簡単な日常会話能力を高めることを目標に授業を進める。

〔第1回〕 イントロダクション、中国語とは、発音編

〔第2回〕 発音編

〔第3回〕 第一課（人称代名詞など）、第二課（指示代名詞など）

〔第4回〕 第三課（動詞述語文など）

〔第5回〕 第四課（数字、日付・時刻など）

〔第6回〕 第五課（数量表現など）

〔第7回〕 第六課（選択疑問文など）

〔第8回〕 第七課（完了の助詞など）

〔第9回〕 第八課（様態補語など）

〔第10回〕 第九課（連動式など）

〔第11回〕 第十課（使役など）

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・山下輝彦、『入門中国語の小窓』（同学社、2011年） ISBN 978-4-8102-0771-2

◆参考文献

- ・授業中、適宜、紹介いたします。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

初習者、既習者を問わず受講を認めますが、授業のレベルは初習者向けであることをご承知ください。授業の予定と内容は、必要に応じて変更する場合があります。

◆成績評価方法

- ・出席状況と授業態度
- ・小テストや課題
- ・最終日の試験による

科目	スペイン語（初級）	1単位
担当	商学部准教授 松田健児	

スペイン語を初めて学ぶ学生のためのクラスです。まず、スペイン語のアルファベットや発音に慣れたのち、基礎的な日常会話表現を織り交ぜつつ、スペイン語の初級文法を学んでいきます。

〔第1回〕 アルファベットと発音、挨拶表現、固有名詞、数字など

〔第2回〕 名詞、動詞 ser、数字など

〔第3回〕 冠詞、形容詞、動詞tener、数字

〔第4回〕 同志estar、haber、指示形容詞、指示代名詞、序数

〔第5回〕 直說法現在・規則活用、不規則活用

〔第6回〕 直說法現在・語幹母音変化動詞

〔第7回〕 語幹母音変化動詞、再帰動詞

〔第8回〕 直接目的人称代名詞

〔第9回〕 間接目的人称代名詞、比較表限、最上級

〔第10回〕 動詞gustar、比較（副詞、数量）

〔第11回〕 doler、tener que不定詞、hay que不定詞

〔第12回〕 試験、総括

◆テキスト

- ・スペイン語教材研究会編『Entre amigos 1－2^a edición（総合スペイン語コース初級 改訂版）』（朝日出版社、2013年）

ISBN 978-4-255-55055-8

◆受講上の要望または受講上の前提条件

初習言語ですので、予習復習は必須です。必ずおこなったうえで授業に参加してください。ひょっとすると、主語に応じて動詞の形が変わるという点がはじめのうちは少しストレスに感じるかもしれませんが、繰り返し声に出して覚えていくと、スペイン語の響きに慣れ、その音が心地よく感じられるようになると思います。

◆成績評価方法

出席点・授業参画・試験の3点で評価を出します。

科目	ロシア語（初級）	1単位
担当	講師 中澤朋子	

この授業は、ロシア語を初めて学ぶ方を対象にした入門のクラスです。ロシア語の文字から始めて、最終的には比較的やさしいロシア語の文をすらすらと読めるようにすること、さらに可能ならば、会話でよく使われる簡単なフレーズを発話できるようにすることを目指します。受講生のみなさんの理解度をそのつどふまえながらゆっくりと進めていきますので、根気強く且つ意欲的に授業に臨んでください。概して「難解な言語」と評されることの多いロシア語ですが、丁寧に向き合えば、全12回の授業を終える頃にはロシアやロシア語そのものに愛着さえ覚えるようになっていることでしょう。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 文字と発音

〔第3回〕 平叙文、疑問文

〔第4回〕 動詞の現在人称変化（1）

〔第5回〕 所有代名詞、前置詞

〔第6回〕 動詞の現在人称変化（2）

〔第7回〕 所有の表現、動詞の過去形

〔第8回〕 運動の動詞

〔第9回〕 合成未来、動詞の体

〔第10回〕 形容詞短語尾形

〔第11回〕 2人称命令法、比較級

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・桑野隆『初級ロシア語20課《CD付》』（白水社、2012年） ISBN 978-4-560-08614-8

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。ロシアやロシア語に少しでも興味のある受講生のみなさんの積極的な参加をお待ちしています。

◆成績評価方法

平常点および最終試験によって評価します。

科目	朝鮮語（初級）	1単位
担当	講師 崔 鶴山	

韓国・朝鮮語の文字（ハングル）と発音を学び、基本的な単語と文型を練習します。これにより、「～は～です」「～を～（し）ます」程度の短文が書けるよ

うに、また、口頭で言えるように練習します。語順や漢字語など日本語との共通点は学習上の大きなメリットです。全12回の授業では、日本語の語順で単語を並べて短文が作れるところまで進みます。

- 〔第1回〕 文字と発音
- 〔第2回〕 文字と発音
- 〔第3回〕 文字と発音
- 〔第4回〕 文字と発音、「～は（名詞）です／ですか」
- 〔第5回〕 文字と発音、「～あります／ありません」
- 〔第6回〕 動詞・形容詞、中間テスト
- 〔第7回〕 動詞・形容詞
- 〔第8回〕 動詞・形容詞
- 〔第9回〕 否定文
- 〔第10回〕 数詞
- 〔第11回〕 試験
- 〔第12回〕 まとめ、自由会話発表（予定）

◆テキスト

- ・木内明『ゼロからしっかり学べる韓国語〔文法〕トレーニング』（高橋書店、2008年）ISBN 978-4-471-11270-7

◆参考文献

- ・授業開始後に紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

文字から学ぶ入門の授業です。既習者の割合が多い場合でも初心者理解度に合わせて授業を進めますので、その点、ご了解ください。

◆成績評価方法

平常点と試験で評価します。出席重視。

総合教育科目 保健体育科目

科目 保健衛生

1 単位

保健管理センター教授 河邊博史 / 同教授 徳村光昭
担当 同教授 森 正明 / 同准教授 横山裕一
同准教授 和井内由充子

本講義は慶應義塾大学保健管理センターの医師が各自の専門分野で近年話題になっている疾患を概説し、健康な生活のヒントを提供することを目的とする。第1回「虚血性心疾患」、第2回「高血圧・糖尿病」、第3回「飲酒と健康」、第4回「子どもの肥満とやせ」、第5回「感染症」の講義を行う。

〔第1回〕 虚血性心疾患は生活習慣病の最終的直接死因のひとつであり、突然死の原因としても重要である。その病態、予防、緊急時の処置について。

（担当 和井内由充子 准教授）

〔第2回〕 最近のライフスタイルの変化が高血圧や糖尿病を増加させている。これら生活習慣病の正しい理解とその予防・治療について。

（担当 河邊博史 教授）

〔第3回〕 飲酒と健康には密接な関係がある。飲酒が身体に与える急性と慢性の影響およびその個人差を示し、適正飲酒、即ち健康的な飲酒とは何かを解説する。

（担当 横山裕一 准教授）

〔第4回〕 現代の子どもたちには、肥満が多い一方で、やせも増加している。肥満につながる子どもの生活習慣、思春期やせ症（神経性やせ症）について、新しい研究データを提示し解説する。

（担当 徳村光昭 教授）

〔第5回〕 インフルエンザ、結核、食中毒など、日頃、健康な人でも注意が必要な感染症の予防や治療について。

（担当 森正明 教授）

〔第6回〕 総括

◆テキスト

- ・慶應義塾大学保健管理センター編『保健衛生』（通信テキスト、2014年）

◆参考文献

毎回の講義で各担当者が資料を配布する。

◆成績評価方法

出席状況と最終日の試験による。試験は資料などの持ち込みは不可で行う。

体育スクーリング

各種目の実施場所、更衣室等、体育スクーリング実施に関する詳細は、7月中旬に送付される「体育スクーリング実施要綱」に発表します。

なお、スクーリング期間中は、天候等により実施場所・更衣室が変更になることがありますので、毎日必ず体育スクーリング用掲示板（記念館入口前、または並木道途中郵便ポスト前）を見てください。

スポーツクラス

科目	ゴルフ	2単位
担当	講師 勝又正浩	

定員ー20名
実施場所ー体育会ゴルフ部練習場
準備するものー動きやすい服装、運動靴（ゴルフスパイク不可）、練習用クラブ数本、ゴルフグローブ、タオル、飲み物

若年層から高齢者層まで幅広く楽しむ事が出来るゴルフを、クラブの握り方から指導します。

スポーツとしてのゴルフを学ぶことにより、健康増進、体力アップに繋げて行きたいと考えています。

又、ゴルフの歴史、ルール、ゴルフ業界の現在、過去、未来に関しての講義も行います。

初級者にはクラブの握り方から、コースラウンドに必要な技術の基礎を指導し、講義終了後の練習方法に関しても指導します。

中・上級者には、個人別の課題を抽出し、より一層のレベルアップを図れるように具体的に指導します。

〔第1回〕 講義内容：ゴルフを行うに当たっての注意事項の説明。ゴルフの歴史と、

日本のゴルフについて。

実技内容：ゴルフの基礎(スタンス、グリップ、アドレス)

〔第2回〕 講義内容：ゴルフルールについて
実技内容：ゴルフにおける準備体操

〔第3回〕 講義内容：プロゴルフに関して
実技内容：個別指導

〔第4回〕 講義内容：ゴルフ四方山話
実技内容：個別指導

〔第5回〕 講義内容：ゴルフクラブの選び方
実技内容：個別指導

〔第6回〕 講義内容：総括
実技内容：パッティング指導

- ◆テキスト
 - ・指定しない。
- ◆参考文献
 - ・特にありません
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - ・特にありません。
- ◆成績評価方法
 - 出席 60%、態度 20%、理解 20%の配点で評価

スポーツセミナー

科目	バスケットボール	2単位
担当	体育研究所教授 加藤大仁	

定員ー25名
実施場所ー日吉記念館
準備するものー運動着、体育館シューズ（土足厳禁）、タオル等

この授業では、バスケットボールを通じて基礎体力の向上を図るとともに、基本的な技術・戦術の理解・習得を目標とする。初級者から経験者まで、あらゆるレベルの学生の履修を認めるが、主として体育の授業以外ではバスケットボールに取り組んだことのない学生を念頭においた内容となっている。

具体的にはパス、ドリブル等いかにボールを扱うか

ということから始めて、徐々にグレードアップさせながら授業を進めていく。詳細については履修者の状況をみて決めたいが、毎回 a) 基本練習、b) ゲーム（3対3、5対5等）、の2項目は必ず取り入れていく予定である。

〔第1回〕 講義内容：ガイダンス、バスケットボールについて（総論）
実技内容：パス、ドリブル、シュートの基本練習
アウトサイド／インサイドでの基本的な動きの練習
ゲーム（3対3～5対5）

〔第2回〕 講義内容：ファンダメンタルの重要性
実技内容：パス、ドリブル、シュートの基本練習

アウトサイド／インサイドでの基本的な動きの練習
ゲーム（3対3～5対5）

〔第3回〕 講義内容：コンビネーション・プレイについて
実技内容：パス、ドリブル、シュートの基本練習
アウトサイド／インサイドでの基本的な動きの練習
コンビネーション・プレイ
ゲーム（5対5）

〔第4回〕 講義内容：オフェンスの基本戦術について
実技内容：パス、ドリブル、シュートの基本練習
アウトサイド／インサイドでの基本的な動きの練習
コンビネーション・プレイ
ゲーム（5対5）

〔第5回〕 講義内容：ディフェンスの基本戦術について
実技内容：コンビネーション・プレイ
リーグ戦

〔第6回〕 講義内容：バスケットボールの歴史と発展、総括
実技内容：コンビネーション・プレイ
リーグ戦

- ◆テキスト
 - ・なし
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - ・男女共修。ボールは男子用（7号サイズ）と女子用（6号サイズ）を併用する。
 - ・経験者の履修も認めるが、初心者に配慮してプレイすること。
 - ・遅刻、早退は認めない。
- ◆成績評価方法
 - 出席（60%）、態度（20%）、理解（20%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。各項目の具体的な内容については初回授業時に説明するが、運動意欲やコミュニケーション能力を重視した配点とする予定である。

科目	卓球	2単位
担当	講師 木林弥生	

定員ー25名程度
実施場所ースポーツ棟 地下1階 卓球場
準備するものー運動のできる服装、室内シューズ（靴裏が黒いものは禁止です）は必ずご準備ください。そのほか、季節柄必要に応じてタオル、水分補給のための飲料等があるとよいかと思います。

卓球を通して体を動かすことを楽しみ、スポーツの知識を深めることを目標にしています。演習は卓球をはじめてする方でも理解し、実践できるようなプログラムを組んでおります。講義は卓球についても行いますが、体を動かすことの大切さや健康についてなどもテーマに取り上げます。卓球は年齢や性別を問わずに

生涯を通して行えるスポーツです。またボールを打ちあう仲間がいないとできないスポーツです。経験者の方はもちろん、はじめて卓球をする方も卓球を楽しみながら学友を増やしてください。

〔第1回〕 講義内容：卓球について1
演習内容：フォアハンドとバックハンドを理解し、実践する

〔第2回〕 講義内容：スポーツと健康について1
演習内容：昨日の復習、ボールを連続で打ち合うことに挑戦する

〔第3回〕 講義内容：スポーツと健康について2
演習内容：昨日の復習、サーブ・レシーブを理解し、実践する、シングルス試合を理解し、実践する

〔第4回〕 講義内容：卓球について2
演習内容：ダブルス試合を理解し、実践する

〔第5回〕 講義内容：スポーツを楽しむ
演習内容：ボールの回転を理解し、実践する、シングルス試合で自分の戦術を試す

〔第6回〕 講義内容：総括
演習内容：紅白戦（シングルス・ダブルスの試合をチーム対抗で行います）

- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 卓球台は7台あります。履修人数が多い場合は複数人で1台を使いながら授業を行います。
 - ラケットは貸し出し用がありますのでお使いいただけますが、ご自身のラケットをお持ちの方は是非ご持参ください。シューズの貸し出しはありません。
 - 初日は運動できる服装に着替えた上で、実施場所に来てください。
 - この授業は経験者から未経験者まで幅広いレベルの方を対象にしています。経験者の方は未経験者の方へのご配慮をお願いいたします。
 - 各回の内容は授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
- ◆成績評価方法
 - 出席（60%）、態度（20%）、理解（20%）の項目を点数化し、その合計点で評価をします。

科目	フィットネストレーニング	2単位
担当	体育研究所准教授 山内 賢	

定員ー25名
実施場所ー協生館B1 トレーニングルーム
準備するものー運動着、室内用トレーニングシューズ、タオル、熱中症予防のための飲料（キャップが付いたボトル、水筒に限る）、筆記用具、継続の精神

この授業は、健康づくりを目標としたトレーニングの理論と実践です。トレーニング理論をもとにした『運動習慣』のきっかけづくりを目的とした実践型の講座は、『運動の必要性』への動機づけ『身体づくり』の

方法を学ぶ姿勢そのものです。人間の体力を維持・向上させるには、自体重の負荷やトレーニング専用マシンにより、筋力、パワー、柔軟性、持久力、バランス力など効率よく鍛える『行動』と合わせて、体組成（体内筋肉量、脂肪量、体内栄養状態等）を精密な体成分分析装置で計測する『観察』も必要と考えられます。そして、『行動と観察』を上手に『評価』して、次の目標や目的を明確にして『計画』を立てることも重要な要素です。当然、6日間の授業では、明確な効果を期待することができないかもしれません。しかし、授業内容を習慣化することにより、自己の健康関連体力は自然と無理なく改善されていくはずです。授業担当者は、「この授業を通じて、個々のペースで管理するボディビルディングとコンディショニングの方法や、将来の健康につなげる体力づくりに役立つ身体知を学んでもらいたい」と考え、「健康について」を受講生とともに授業の中で創造していきます。

〔第1回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ①（トレーニングに必要な安全性について）
演習内容：トレーニング機器の使い方

〔第2回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ②（トレーニングマシンによる自分の『筋力バランス』と体組成測定器による『筋肉バランス』の測定評価）
演習内容：最大筋力の決定とトレーニング負荷に慣れる

〔第3回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ③（筋肉の役割とトレーニングの原則）
演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践

〔第4回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ④（筋力&栄養のバランス）
演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践+Gボールトレーニング

〔第5回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ⑤（運動消費エネルギーと運動負荷）
演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践+コアトレーニング（スラックライン体験）

〔第6回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ⑥（コンディショニングの意義と必要性を理解する）
演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践のまとめ+コーディネーショントレーニング+総括

◆テキスト
・プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
積極的に出席してほしい。授業中の実技では、毎回トレーニング日記の記入作業があります。日記は、レポートに対応するものであるので、丁寧に記録していただきます。また、日記が受講者の「トレーニング習慣への動機づけ」、「体力の観察の意味」、「健康を意識する資料」等の自己評価に役立つことに、担当教員は

期待しているので、最終日に返却します。

◆成績評価方法
・出席60％（欠席や遅刻、服装の不備は減点します。最低 2／3 の出席がないと成績評価はしない。）
・態度20％（トレーニングを積極的に行うことが主な評価の視点です。講義中の居眠りや通信機器の使用は減点の対象とします。）
・理解20％（体力を観察する日記を正確に記入することはもちろんのこと、体力の観察・評価方法である運動処方への理解を求めます。）
・以上の3項目を点数化して、その合計点で評価します。60点以上で単位認定となります。

科目	ピラティス（健康身体作り）	2単位
担当	体育研究所准教授 板垣悦子	

定員—20名程度
実施場所—日吉 協生館 地下1階 エクササイズスタジオ
準備するもの—運動が出来る服装。タオル・水分補給のための飲料。シューズはピラティス演習時には必要ありませんが、簡易体力測定時は必要。

ピラティスは、身体コンディショニングとして活用されているエクササイズです。生活習慣によっておこる身体のゆがみを、筋肉を刺激することで改善していきます。

講義はピラティスによる身体健康法を中心に他ヘルスプロモーションについて行い、演習は十分ストレッチ運動を行った後に、ピラティス独自の呼吸法を取り入れながら、特に体幹部を中心に身体全体の筋肉をバランス良く鍛えていきます。

〔第1回〕 講義内容：ピラティスについて
演習内容：姿勢チェック・身体組成計測・簡易体力測定・呼吸法・腹部の使い方

〔第2回〕 講義内容：ピラティスと健康
演習内容：ピラティス基礎動作①

〔第3回〕 講義内容：自分の健康について考える
演習内容：ピラティス基礎動作②

〔第4回〕 講義内容：ヘルスプロモーションについて①
演習内容：ピラティス基礎動作③

〔第5回〕 講義内容：ヘルスプロモーション②
演習内容：ピラティス基礎動作④

〔第6回〕 講義内容：総括
演習内容：姿勢チェック・身体組成計測・簡易体力測定・ピラティス基礎動作まとめ

◆テキスト
・プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・ジョセフ・H・ピラティス著、日本ピラティス協会訳『リターン・トゥー・ライフ・スルー・コントロールジー』（現代書林、2010年）
・アマンダ・テレサ、マリーナ・ディグビー、新関真人著『ピラティスマスタリー』（スキージャーナル、

2006年）
◆受講上の要望または受講上の前提条件
・特になし。

◆成績評価方法
出席 60％・理解 20％・態度 20％をそれぞれ点数化し、総合的に評価する。

科目	テニス	2単位
担当	体育研究所教授 村松 憲	

定員—20名
実施場所—インドアテニスコートおよび教室
準備するもの—テニスシューズ（ハードコート用もしくはオールコート用）、テニスラケット、動きやすい服装、飲み物、タオル ※テニスラケットをお持ちでない方には貸し出します

「テニスを楽しむことについて深く学ぶ」ということを最大の目標にします。1日の授業は講義と演習から構成され、講義は主として教室で、演習はインドアハードコート2面で行います。インドアですので直射日光を浴びることなくテニスを行うことができます（ただしインドアコートに空調施設はありません）。講義では、楽しむこと・身体の効率的な使い方・ダブルスの戦術などについて学びます。演習では講義で学んだことをテニスを通じて実践していきます。初心者の方に配慮し、国際テニス連盟が推奨する‘Play and Stay’コンセプトを取り入れ、少し柔らかくて軽いボールを主として使用します。このボールであればボールの勢いが弱まりゆっくりとしたラリーが続きますので、初心者の方もゲーム形式を楽しみやすくなるだけでなく、戦術面を学ぶ機会も多くなります。本授業では講義においても演習においても、グループワークやペアワークを多く行い、他の参加者との交流・意見交換を積極的に行います。

各回の内容は以下の予定ですが、受講者の方のテニス技術水準等を考慮して、変更することもあります。

〔第1回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（その1）・‘Play and Stay’について
演習内容：ラケットやボールについての理解と実践

〔第2回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（その2）・技術の変遷について
演習内容：昨日の復習・フォアハンドおよびバックハンドグラウンドストローク、サービスについての理解と実践

〔第3回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（その3）・身体の効率的な使い方について・ダブルスの試合について
演習内容：昨日の復習・ラリー（打ち合い）についての理解と実践・ダブルスの試合についての理解と実践

〔第4回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（その4）・ボールのスピードと回

転について・ダブルスの試合について
演習内容：昨日の復習・ダブルスの試合についての理解と実践

〔第5回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（復習）・ダブルスの試合について
演習内容：ダブルスの試合についての理解と実践

〔第6回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（復習）・ダブルスの試合について
演習内容：ダブルスの試合についての理解と実践

◆テキスト
・無し

◆参考文献
・無し

◆受講上の要望または受講上の前提条件
・使用するテニスコートはインドアハードコートです。怪我防止のためテニスシューズは「ハードコート用」または「オールコート用」をご用意下さい。「オムニコート専用」や「クレーコート専用」ですと止まりすぎて怪我の原因になることがありますのでご注意ください。

・初日は運動できる服装に着替えた上で、教室に集合してください。

・服装は運動がしやすいものであれば、テニスウェアである必要はありません

・インドアテニスコートとはいえ空調設備がありませんので、かなり暑くなります。各自で飲み物をご用意いただき、積極的に水分補給をしてください。

◆成績評価方法
出席が60％、参加姿勢が20％、理解が20％です。

文学部専門教育科目

第1類に属する科目

科目	哲学（専門）	2単位
担当	講師 石田知子／講師 北村直彰	

- この講義では、さまざまなものごとの価値について考える。
- 石田のパートでは、進化倫理学・道徳心理学の観点から、道徳的な価値について考察する。とりわけ、道徳の生得性とその限界について学ぶ。
- 北村のパートでは、「分析実存主義 analytic existentialism」と呼ばれる哲学的潮流の観点から、幸福 (well-being) について考察する。とりわけ、〈人はいつか死ぬ〉ということが私たちの幸福に対してもちうる（負の）価値について論じる。
- 〔第1回〕 イントロダクション（石田・北村）
- 〔第2回〕 道徳の生得性（1）（石田）
- 進化論の観点から我々の道徳の起源を探る。まずは進化論の骨子を紹介した後、血縁選択について説明する。血縁者に対する道徳の生物学的基盤とその限界について学ぶ。
- 〔第3回〕 エピクロスの議論（北村）
- 死は私たちにとって悪いものであるという考えを否定した古代ギリシアの哲学者エピクロスの議論をとりあげ、どのような論証としてそれを再構成できるかについて考える。
- 〔第4回〕 道徳の生得性（2）（石田）
- 非血縁者に対する道徳がどのように進化しうることについて学ぶ。
- 〔第5回〕 剥奪の害と死（北村）
- エピクロスの議論に対してどのような応答が可能であるかを考える。とくに、死の害悪を「剥奪」という概念に基づいて説明しようとする考え方と、その問題点について考察する。
- 〔第6回〕 道徳的判断（1）（石田）
- 我々が普段下している道徳的判断の本性について考察する。とりわけ、我々の道徳的直観のありかたと、それが合理的でないように見えるケースについて学ぶ。
- 〔第7回〕 ルクレティウスの議論（北村）
- エピクロスの影響を受けつつ彼とは異なる仕方です死の悪さを否定したルクレティウスの思想をとりあげ、どのような論証としてそれを再構成できるかについて考える。
- 〔第8回〕 道徳的判断（2）（石田）
- 我々の道徳判断の多くは理性ではなく直観によって下されているという考えについ

て学ぶ。その考えの妥当性と、批判について考察する。

- 〔第9回〕 誕生前の無と死後の無（北村）
- ルクレティウスの思想に対してどのような応答が可能であるかを考える。とくに、トマス・ネーゲルによる応答とデレク・パーフィットによる応答をとりあげながら、〈かつて存在しなかった〉ということと〈いつか存在しなくなる〉ということの（非）対称性について考察する。
- 〔第10回〕 道徳の相対性・進歩（石田）
- 我々の道徳が進歩していることを示す事例を紹介した後、道徳がいかに進歩しうるのかについて考察する。
- 〔第11回〕 死の倫理学と形而上学（北村）
- 死をめぐる倫理学的探究と、存在と時間をめぐる形而上学的探究との関係について考察し、それに基づいてこれまでの議論を捉えなおす。
- 〔第12回〕 試験・総括（石田・北村）
- ◆テキスト
- ・指定しない。
- ◆参考文献
- ・『エピクロス——教説と手紙』、出隆・岩崎允胤（訳）（岩波書店、1959年）
- ・ルクレーティウス『物の本質について』、樋口勝彦（訳）（岩波書店、1961年）
- ・トマス・ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』、永井均（訳）（勁草書房、1989年）
- ・デレク・パーフィット『理由と人格——非人格性の倫理へ』、森村進（訳）（勁草書房、1998年）
- ・鈴木生郎・秋葉剛史・谷川卓・倉田剛『ワードマップ 現代形而上学——分析哲学が問う、人・因果・存在の謎』（新曜社、2014年）
- ◆成績評価方法
- 最終日の試験による。ただし、出席点も加味する。

科目	哲学史	2単位
担当	講師 小山田圭一／講師 西川耕平	

なぜ「ある」のであって「ない」のではないのか。なぜ世界はこのようであって別様ではないのか。世界の原理はいかなるものか。西洋哲学はその始まり以来このような問題に取り組んできました。まったくもって途方もないように思われるこうした形而上学的な探求も、じつは私たちの生の「よさ」とかかわるものです。この講義では、小山田が古代から中世まで、西川が近世から現代までを担当し、それぞれが幾人かの哲

学者の議論を紹介しながら、その連関について検討していきます。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 イデア・分有・善—プラトンにおける世界の成立根拠—
- 〔第3回〕 不動の動者と世界—アリストテレスによるプラトンへの解答—
- 〔第4回〕 新プラトン主義—最も単純なものから出づる世界—
- 〔第5回〕 神・世界・人間Ⅰ—アンセルムスにおける考察—
- 〔第6回〕 神・世界・人間Ⅱ—トマス・アクィナスにおける考察—
- 〔第7回〕 神、必然と偶然、悪の問題—スピノザとライプニッツの思索—
- 〔第8回〕 魂の不死、自由、神の存在—カントにおける形而上学批判と実践理性の要請—
- 〔第9回〕 生成の自足—一生を肯定するベルクソン、ニーチェ—
- 〔第10回〕 存在と存在者—ハイデガーによる存在の問い—
- 〔第11回〕 存在の一義性と内在—ドゥルーズによるプラトニズムの転倒—

- 〔第12回〕 総括
- ◆テキスト
- ・指定しません。プリントを適宜配布します。
- ◆参考文献
- ・神崎繁・熊野純彦・鈴木泉編『西洋哲学史Ⅰ～Ⅳ』（講談社、2011～2012年）
- ・他にも講義で適宜紹介します。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 哲学史に関する予備知識は特に必要ありません。問題やその背景はこちらで説明します。皆さんはご自身でしっかりと考えてください。
- ◆成績評価方法
- 授業最終日に行なう論述試験によります。

科目	倫理学（専門）	2単位
担当	講師 村上暁子	

- 〔授業の概要〕
- 私たちは日常的に、善い、悪い、正しい、不正である、といった倫理的判断を下し、各人の自由や平等の権利、社会における正義や責任といった観念を用いて、不当だと考える事柄を正すよう訴えています。しかし、なぜある行為が善い、正しいと言えるのか、自由や正義、責任という言葉が何を意味するのかは、必ずしも明確ではありません。倫理学はこうした観念について厳密に思考する学問です。この授業では、正しい行為の基準や善さをめぐる倫理学の代表的な議論を紹介したうえで、特に自由と正義、責任について応用的観点から具体的に議論します。
- 〔第1回〕 倫理学への導入
- 〔第2回〕 正しい行為の基準：帰結（功利主義）
- 〔第3回〕 正しい行為の基準：動機（義務論）
- 〔第4回〕 道徳と法:人格の尊厳と権利（義務論）
- 〔第5回〕 善い人の定義：徳ある生き方（徳倫理学）

- 〔第6回〕 自由の意味
- 〔第7回〕 平等な自由への権利と公正な社会制度（リベラリズム）
- 〔第8回〕 他者危害原則に例外を認めない国家（リベタリアニズム）
- 〔第9回〕 共同体への連帯の責務（コミュニタリアニズム）
- 〔第10回〕 責任の及ぶ範囲
- 〔第11回〕 正義に適った配分（世代間倫理・世代内倫理）
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
- ・小松光彦・樽井正義・谷寿美編『倫理学案内』（慶應義塾大学出版会、2006年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 倫理学に関する予備知識は必要ありませんが、情報量が多いためしっかり復習する必要があります。また、毎回講義の後に短いレポートを書き、少人数でディスカッションを行うため、主体的に授業に参加することが求められます。
- ◆成績評価方法
- 授業最終日に行う論述試験の結果を最も重視しますが、授業内で書くリアクションペーパーの内容も加味します。

科目	西洋美術史	2単位
担当	講師 細野喜代	

- 本講義では、イタリア・バロック美術史を扱うこととし、特にカラヴァッジョの作品を中心に取り上げます。カラヴァッジョの劇的な生涯と名品を通して、芸術作品の魅力を知るとともに、作品が制作された歴史的、文化的・社会的背景を分析することによって、作品が有していた固有の政治的、宗教的意味内容を解読します。
- 〔第1回〕 バロック美術と対抗宗教改革
- 〔第2回〕 カラヴァッジョの生涯と作品
- 〔第3回〕 DVD鑑賞『カラヴァッジョ～天才画家の光と影～』
- 〔第4回〕 《果物かごを持つ少年》
- 〔第5回〕 《いかさま師》
- 〔第6回〕 コンタレリ礼拝堂
- 〔第7回〕 《ロレートの聖母》
- 〔第8回〕 《パラフレニエーリの聖母》
- 〔第9回〕 《慈悲の七つの行い》
- 〔第10回〕 《洗礼者聖ヨハネの斬首》
- 〔第11回〕 《ラザロの蘇生》
- 〔第12回〕 総括、試験
- ◆テキスト
- プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
- ・ジェームズ・ホール著『西洋美術解説辞典 絵画・彫刻における主題と象徴〔新装版〕』（河出書房新社、2004年）

- ◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
美術館を訪れて、実際に作品を鑑賞して下さい。
- ◆**成績評価方法**
最終日の試験による。

科目	社会学（専門）	2単位
担当	文学部教授 岡原正幸／講師 澤田唯人	

「生と感情の社会学」をアートベース・リサーチという手法で受講者と一緒に作り出します。
たとえば社会学の基本の1つである社会調査、否応なく人と関わるこの学的な営みを、どこに位置づけ、その営みの中で自らをどこに位置づけていくのか、対象を客観化する知が、ただそれだけ評価されるような時代は過ぎ去り、いまや、知の生産と消費を担ってきた大学アカデミズムも現代社会に立ち位置を失いつつある。学問の死を謳うのはたやすい、しかしだからこそ、社会学という営みを再び肯定的に捉える視角が必要ではないのか。生の社会学とは、生を社会的に説明する営みに還元されるようなものではなく、生きられる社会学であり、生きることを生きようとする、そんな試みだと考えてほしい。

生の多様性をめぐる議論があるとして、それを、いかに自分が生きるのかという問いに、どのように結びつけることができるのだろうか。この授業で参加者と一緒に僕たちが考えてみたいのは、これである。具体的にどうするのかといえば、僕らが教卓に座って講義することはまずない。全員が全員に向けて講義をする。受講者は他の受講者にとってのゲストスピーカーになり得るということである。生を生きるという資格においてひとりひとりの参加者がゲスト講師たりえるのである。チームに分かれてライフストーリーを互いに聞き、中からいくつかの生を他の受講者に伝える試みとなろう。

この伝える試みとして、アートを利用した社会学実践を行う。アートベース・リサーチと呼ばれ、多種多様なアートワークが利用されるが、ここでは身体的な演劇的な手法を用いる（パフォーマンス・エスノグラフィ）。さらに、詩や文学、映像や音楽なども利用する。自分が話を聞いて、その人の経験をなぞるという実験的で重要な試みとなる。

なお、夏期スクーリングと今年度週末スクーリングで開講する「社会学（専門）」の内容は同じです。またどちらも受講者の数も抽選で50名以下に絞ります。両方の授業を履修することはできません。

〔第1回〕 授業全体の構想について、チーム編成
〔第2回〕 生活史、自分史のシェア
〔第3回〕 ライフストーリーとは、アートベース・リサーチとは
〔第4回～第10回〕 チーム活動
〔第11回～第12回〕 プレゼンテーション
授業に関する情報は下記のホームページで
http://lebenssoziologie.jimdo.com

- ◆**テキスト**
・岡原正幸・小倉康嗣他『感情を生きる』（慶應義塾大学出版会、2014年）
ISBN 978-4-7664-2123-1

- ・岡原正幸『感情資本主義に生まれて』（慶應義塾大学出版会、2013年）
ISBN 978-4-7664-2042-5
- ・高山真『〈被爆者〉になる』（せりか書房、2016年）
ISBN 978-4-7967-0353-6

- ◆**参考文献**
・小倉康嗣『高齢化社会と日本人の生き方一岐路に立つ現代中年のライフストーリー』（慶應義塾大学出版会、2006年）
- ・岡原正幸他『生の技法〔第3版〕一家と施設を出て暮らす障害者の社会学』（生活書院、2013年）
- ・岡原正幸『ホモ・アフェクトス』（世界思想社、1998年）

- ◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
自分の生について語ることが求められるでしょう。また他者の生について傾聴し、一緒に考えることも求められるでしょう。事前に、自分史や家族史、自分が生きてきた中での特定の記憶や体験について、3000～5000字程度でまとめておいてください。書式や用紙は自由です。この課題は授業初回に持参してください。それを土台に皆さんのスピーチを作成してもらいます。また言うまでもありませんが、受講者間でのやりとり、授業内でのやりとりが個人的なものに関わる以上、当事者の了承なくして外部に公開することは避けてください。

夏期スクーリングと今年度週末スクーリングの内容は同じです。またどちらも受講者の数も抽選で50名以下に絞ります。両方の授業を履修することはできません。

- ◆**成績評価方法**
試験は行いません。おもに出席によって評価します。チーム活動への影響が大きくなるような欠席回数は成績に大きく響きます。

科目	社会心理学特殊	2単位
担当	講師 呉 正培	

この授業は、「ステレオタイプと異文化コミュニケーション」をテーマにする。まずステレオタイプの定義、社会心理学での捉え方、機能、ステレオタイプ化の問題点、ステレオタイプの形成・維持・変容のメカニズムについて検討する。次に、日韓の相手国民イメージに関する研究データをもとに日本人と韓国人の対人コミュニケーションにおいてどのようなステレオタイプ化が生じうるかを浮き彫りにする。最後に、ステレオタイプと異文化コミュニケーションとの関連性に注目し、真の異文化理解とはどのような状態を指すのか、どのような態度、能力、努力が求められるのかについて考えていく。授業は、教員と受講者間のやり取り、受講者間のグループワーク（意見交換）、教員による解説の3つで進めていく。

〔第1回〕 授業のガイダンス、イントロダクション(ステレオタイプ)

〔第2回〕 イントロダクション（異文化理解）

〔第3回〕 ステレオタイプの定義とステレオタイプ化の問題点

〔第4回〕 ステレオタイプの形成と維持

- 〔第5回〕 ステレオタイプの変容とステレオタイプ化の抑制
- 〔第6回〕 ステレオタイプと外国人イメージ
- 〔第7回〕 韓国人の日本人イメージの実態と形成メカニズム
- 〔第8回〕 日本人の韓国人イメージの実態と形成メカニズム
- 〔第9回〕 日韓の接触場面で生じうるステレオタイプ化
- 〔第10回〕 異文化エクササイズ
- 〔第11回〕 異文化理解に求められる能力・態度・努力
- 〔第12回〕 総括

- ◆**テキスト**
・プリントを適宜配布する。
- ◆**参考文献**
・上瀬由美子『ステレオタイプの社会心理学』（サイエンス社、2002年）
- ◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
毎回グループを少し変えながら他の受講者と意見交換を行うため、ディスカッションに積極的に参加できる方の受講が望ましい。
- ◆**成績評価方法**
出席20％、授業での取り組み（発言、参加度）20％、最終日の試験60％。

科目	心理学特殊	2単位
担当	文学部准教授 川畑秀明	

本講義は「感性心理学」に関する講義です。特に、知覚心理学や認知神経科学を背景として「感性」にまつわる心理学や神経科学の話題について取り上げます。顔や身体に感じる「魅力」や人の「好み」といった知覚や行動における感性の問題や、美術作品やデザインにおける形や色や構成（構造・構図）といった「表現」や「創造」にまつわる問題、さらには、美しさや醜さなどの「審美性」や「価値」などに関する問題について、それらの背後にある心理学や脳神経科学的な基盤について解説します。また、進化的な視点や、社会文化的事例、さらには性にまつわる問題についても取り上げ、多面的に学習できるようにします。さらに、芸術作品が、脳や心理学的基盤としてどのように生み出されるのかや、脳神経障害や精神障害、さらにはアスペルガー障害やサヴァン症候群の事例も交え、人(ヒト)の感性について総合的に紹介します。

〔第1回〕 感性とは何か（哲学・心理学・生物学をめぐって）

〔第2回〕 感性に関する知覚と行動の基礎

〔第3回〕 感性に関する脳の機能と構造の基礎

〔第4回〕 感性と心の進化：動物の感性、古代の美術、進化論における感性の問題

〔第5回〕 脳は美をどう感じるか

〔第6回〕 魅力と好み

〔第7回〕 美術表現と知覚の諸相

〔第8回〕 美術とデザインの知覚／認知のルール

〔第9回〕 感性と天才？：脳機能障害・自閉症

〔第10回〕 感性のダークサイド：臨床的事例

- 〔第11回〕 感性における熟達と学習
- 〔第12回〕 総括
- ◆**テキスト**
・川畑秀明『脳は美をどう感じるか』（筑摩書房（ちくま新書）、2012年）
ISBN 978-4-480-06686-2
 - ◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
総合教育科目の心理学をとっていることが望ましい。
 - ◆**成績評価方法**
最終日の試験による。

科目	文化人類学	2単位
担当	講師 宮下克也	

授業は、大きく2つのセクション〈一般的理論〉〈観光と文化〉から構成されております。前半は、文化人類学の基本的な理論・学説の紹介。後半は地域活性化の一方策として注目されている観光について、人類学的なアプローチでその現象を分析することを目指します。キーワード：「身体化」「無意識」「意識化」「相対化」「他者のまなざし」「分類」

〔第1回〕 文化と文化相対主義：文化人類学の成り立ちと基本理念を学ぶ。

〔第2回〕 身体に刻まれる文化：文化が後天的なものの、そして無意識なものであることを事例で検討する。

〔第3回〕 分類の思考①ジェンダー論「男／女であるのか」「男／女になるのか」

〔第4回〕 分類の思考②通過儀礼

〔第5回〕 文化と経済：互酬性の諸相

〔第6回〕 開発と文化

〔第7回〕 他者表象：民族誌と文化表象

〔第8回〕 観光と人類学①沖縄の社会史

〔第9回〕 観光と人類学②他者のまなざし。観光に必要なものは？

〔第10回〕 観光と人類学③無意識から意識へ／南国オキナワイメージの創出から〈琉球化〉へ

〔第11回〕 観光と文化④伝統文化とは何か？ これまでの授業をふまえ現代における〈伝統〉文化のあり方を考える。

- 〔第12回〕 総括
- ◆**テキスト**
・プリントを適宜配布する。
 - ◆**参考文献**
・綾部恒雄／桑山敬己編『よくわかる文化人類学〔第2版〕』（ミネルヴァ書房、2010年）
 - ◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
私たちは自分の育った社会の文化的価値観を自然と身につけ、それを通して異文化を捉えてしまいます。本講義では、文化の多様性を見聞し、そして最終的に自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討することを目指します。グローバリゼーションが進行し「異文化理解」の必要性が唱えられている現代社会だからこそ、「異文化を知り、自文化を相対化する」学問である文化人類学をぜひ学んで欲しいと考えます。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目	教育学特殊	2単位
担当	文学部教授 山本正身	

日本近現代教育史を、主に学校教育政策の変遷に着目しながら概説する。講義の前半では主に日本近代教育の進展を学校段階や教授方法・道徳思想などの項目別に概観し、後半部では教育の戦後史を通史的に講述する。一般に日本の教育政策は、戦前と戦後とは大きな方針転換があったように受けとめられているが、歴史の足跡を丹念に辿ってみると、両者の間には、断絶よりもむしろ連続の関係において結ばれている側面が少なくないことに気づかされる。それゆえ受講者には、今日教育政策動向が依然として「国家による国民形成」を目指した「近代教育」の延長線上に位置づけられうることの意味と問題を、歴史の関心から精査する姿勢を養っていただきたい。

- 〔第1回〕 イントロダクションー教育学と教育史認識ー
- 〔第2回〕 近代初等教育の歩み
- 〔第3回〕 近代中等教育の歩み
- 〔第4回〕 近代高等教育の歩み
- 〔第5回〕 近代教授理論・方法史
- 〔第6回〕 近代道徳教育の思想史
- 〔第7回〕 戦後新教育の発足
- 〔第8回〕 経験主義批判と教育方針の転換
- 〔第9回〕 高度経済成長と教育の現代化
- 〔第10回〕 教育の自由化と「ゆとり教育」
- 〔第11回〕 近年の教育改革動向
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト
・山本正身『教育史』（通信テキスト、2014年）

◆参考文献
・木村元『学校の戦後史』（岩波書店、2015年）
・村井実『近代日本の教育と政治』（東洋館出版社、2000年）
・江島頭一『日本道徳教育の歴史ー近代から現代まで』（ミネルヴァ書房、2016年）
・佐藤秀夫『教育の文化史』全四巻（阿吽社、2004年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件
塾生として良識ある聴講態度を期待します。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目	図書館・情報学	2単位
担当	文学部教授 池谷のぞみ	

図書や新聞、雑誌、インターネットといった「情報メディア」、そして種々の図書館をはじめとする「情報システム」は知識と情報を時空を超えて流通させようとするしくみとして捉えることができます。これら様々なしくみを探求する学問領域が図書館・情報学です。講義では特に、さまざまな環境で勉学に取り組むみなさんが、多様な形で知識や情報にアクセスできる環境が現在どのようにデザインされているのか、情報メディアごとの特徴を踏まえながら示していきます。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 情報メディアと書誌情報

〔第3回〕 情報検索の基礎

〔第4回〕 OPACの情報検索

〔第5回〕 慶應義塾大学メディアセンター

〔第6回〕 多様な館種の図書館

〔第7回〕 図書・叢書の特徴と情報源

〔第8回〕 新聞の特徴と情報源

〔第9回〕 雑誌の特徴と情報源

〔第10回〕 人物・事物の情報源

〔第11回〕 情報と知識のアクセスへの新たな形

〔第12回〕 総括

◆テキスト
・プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・池谷のぞみ・安形麻理・須賀千絵編『図書館は市民と本・情報をむすぶ』（勁草書房、2015年）
・長澤雅男・石黒祐子『レファレンスブックス：選びかた・使いかた〔三訂版〕』（日本図書館協会、2016年）
・根本彰編『図書館情報学基礎（シリーズ図書館情報学1）』（東京大学出版会、2013年）
・根本彰・岸田和明編『情報資源の組織化と提供（シリーズ図書館情報学2）』（東京大学出版会、2013年）
・根本彰編『情報資源の社会制度と経営（シリーズ図書館情報学3）』（東京大学出版会、2013年）

◆成績評価方法
出席と試験

- 〔第1回〕 前近代の東アジア国際関係、幕藩制国家のありようと特質、近年の「鎖国」の見直しに関する議論
- 〔第2回〕 近世前期における政治・社会の変化、対馬藩と朝鮮王朝との通交を中心とした江戸時代の日朝関係（交隣関係）
- 〔第3回〕 近世中・後期における国際・国内情勢の変化に伴う幕藩制国家・社会の変容、日朝関

- 係の変質と朝鮮進出論の主張
- 〔第4回〕 幕末政治の概要、ボサドニック号事件・対馬移封論・対馬藩による朝鮮進出論提唱など幕末日朝関係をめぐる動き
- 〔第5回〕 慶喜政権期の政治と社会、丙寅洋擾と朝鮮への幕府使節派遣計画、「1867年ショック」ともいえる日朝関係の変化、幕府の倒壊
- 〔第6回〕 明治新政府の樹立、新政府樹立通告に伴う日朝国交の停滞、その前後に現れた木戸孝允らの征韓論
- 〔第7回〕 明治新政府による近代化政策、外務省による日朝国交接收、日朝関係の西洋近代的外交への変化
- 〔第8回〕 岩倉遣外使節団の派遣、西郷隆盛の「征韓論」とその評価をめぐる議論、明治六年の政変と政府の分裂
- 〔第9回〕 大久保政権による対外政策、江華島事件の前後の経緯、日朝修好条規
- 〔第10回〕 日本の近代化と対外意識、壬午・甲申事変、福澤諭吉の「脱亜論」、日清戦争
- 〔第11回〕 日本の国民国家化、日露戦争、3次にわたる日韓協約締結の経緯、韓国「併合」に至る道、現代に及ぼす問題点
- 〔第12回〕 授業の総括

◆テキスト
・プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・関周一編『日朝関係史』（吉川弘文館、2017年近刊）

◆成績評価方法
授業途中におけるシート記入と最終日の試験による。

科目	東洋史概説	2単位
担当	文学部教授 長谷部史彦／講師 勝沼 聡	

〈近世・近代アラブ社会史の諸問題〉
近世（16～18世紀）と近代（19世紀～20世紀前半）のエジプトを中心としたアラブ地域（アラビア語圏）について、社会史の重要テーマを複数取り上げて、少し掘り下げたかたちで論じます。アラブ史に関する専門用語や基礎的事項について丁寧な解説を加え、できるだけわかりやすい講義を心掛けたいと思います。近世（第1回～第5回）を長谷部史彦、近代（第6回～第10回）を勝沼聡が担当します。

〔第1回〕 序：アラブ・イスラーム文明の特徴

〔第2回〕 近世オスマン帝国のアラブ地域

〔第3回〕 ウラマー（学者）とスーフィー聖者の世界

〔第4回〕 アラブ都市とワクフ（寄進）

〔第5回〕 女性・マイノリティー・障害者

〔第6回〕 近代のアラブ地域

〔第7回〕 経済的従属化の影響

〔第8回〕 宗派対立の背景

〔第9回〕 近代的知識人の出現

〔第10回〕 アラブ諸国の成立とナショナリズム

〔第11回〕 総括

〔第12回〕 アラブ史関連のスライドの上映

◆テキスト
・長谷部史彦『オスマン帝国治下のアラブ社会』（世

界史リブレット、山川出版社、2017年近刊）
ISBN 978-4-634-34950-6

◆参考文献
・アルバート・ホーラーニー（湯川武監訳）『アラブの人々の歴史』（第三書館、2003年）
・ユージン・ローガン（白須英子訳）『アラブ500年史（上）・（下）』（白水社、2013年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件
中東やアラブ地域の歴史についてもっと知りたいと思っていることが、受講上の前提条件です。

◆成績評価方法
出席状況と最終日の試験によって評価します。

科目	西洋史概説	2単位
担当	文学部教授 神崎忠昭	

現代の私たちの生活はさまざまに西欧文明の影響を受けています。たとえば日常生活でよく触れることがある国民、適正金利、説明責任などの概念は西欧に由来し、特に中世にその起源を有します。何気なく使っていますが、必ずしもその意味を理解していないのです。本講義では古典古代末期から近世初頭までにかけて、特に中世盛期から中世後期を中心にして、ヨーロッパの歴史を概観し、その政治や社会、文化や宗教のあり方を考えることを目的とします。

〔第1回〕 [序論] ローマの遺産

〔第2回〕 神聖ローマ帝国

〔第3回〕 教皇

〔第4回〕 修道士

〔第5回〕 都市

〔第6回〕 新しい宗教生活

〔第7回〕 中世後期の教会

〔第8回〕 国民国家

〔第9回〕 衣食住と人の一生

〔第10回〕 宗教改革

〔第11回〕 近代へ

〔第12回〕 総括

◆テキスト
・指定しない。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
総合教育科目「歴史（西洋史）」を履修していることが好ましい。

◆成績評価方法
最終日に試験を行い、それによって評価します。出欠は取りません。

科目	考古学	2単位
担当	講師 石神裕之	

「考古学は、補助学といった貧相なものではなく、歴史学の源泉ともいうべきものである。『考古学とは何か』（近藤義郎・木村祀子訳、岩波新書、1969年）の中で、考古学者V. G. チャイルド（1892～1957）はこう述べています。一般に考古学のイメージとは、古くて、珍しい遺物を発掘することが目的であるように思われがちです。しかし、そうした宝探的な考古

第2類に属する科目

科目	日本史概説	2単位
担当	講師 木村直也	

江戸時代～明治時代の日本と朝鮮との関係を軸にして当該期の政治・社会について解説しつつ、近世・近代の日本の国家のありようと対外関係の特質について考察していく。

学のイメージとは異なり、現実の考古学は地域に密着した地道な歴史探求の学問であるといえます。本講義では、縄文や弥生といった先史考古学はもとより、中近世や近現代といった歴史考古学的事例を含めて、モノ（物質文化）を扱う学問としての考古学の具体的方法とその歴史学的な意義についてお話していきたいと思います。

- 〔第1回〕 考古学とは何か
- 〔第2回〕 考古学の発達と多様化
- 〔第3回〕 考古学の方法① 型式と時間
- 〔第4回〕 考古学の方法② 考古的文化とは
- 〔第5回〕 考古学の調査方法① 発掘調査
- 〔第6回〕 考古学の調査方法② 整理調査と遺物の分析

- 〔第7回〕 考古学と関連分野① 自然科学(保存科学)
- 〔第8回〕 考古学と関連分野② 自然科学(年代測定)

- 〔第9回〕 考古学と関連分野③ 形質人類学
- 〔第10回〕 考古学と関連分野④ 民族（俗）学・文化人類学

- 〔第11回〕 考古学と現代社会―文化財の保護と活用―
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
 - ・鈴木公雄『考古学入門』（東京大学出版会、1988年）（市販書採用科目「考古学」指定テキスト）
 - ・鈴木公雄『考古学はどんな学問か』（東京大学出版会、2005年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 特になし
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験による。

第3類に属する科目

科目 国語学	2単位
担当 文学部教授 屋名池誠	

授業の概要
われわれは「日本語使いの日本語知らず」で、使いこなしており多大な興味をもっているにもかかわらず、日本語についてはほとんど何も知らないといってよい状況です。日本語を客観的に研究する学問が国語学(日本語学)です。
しかし、日本語スクーリングの時間は限られているので、国語学(日本語学)の全分野をあつかうとごく表面的な概説しかできません。そこで今期は、敬語と音声・音韻という二つの重要分野に焦点をしばり、深く精密な理解をめざします。
高校までに学んできた「学校文法」は現在の学問水準から見ると問題点が多いのですが、特に話しことば・書きことばを問わず實際生活で問題になるのは敬語の問題です。これを新しい研究成果をもとに学び直します。

それでも文法はまがりなりにも勉強する機会があるのに対し、音声・音韻は言語研究の基礎となる分野ですが、高校までには学ぶ機会がありません。といって、音声・音韻は実際に発音を聞いてみたり発音したりが重要で自学自習は難しいので、スクーリングのような対面授業は音声・音韻について学ぶ絶好の機会といえます。

授業は受講生との協同によって成り立つものですから、以下の予定は受講生諸君の理解度を見ながら随時変更してゆくことに留意してください。

- 〔第1回〕 母語を学ぶ意義、言語の諸機能
- 〔第2回〕 言語コミュニケーションの基本構造、なぜ音声を媒体とするか

- 〔第3回〕 音声学の基本前提、音声器官
- 〔第4回〕 音声記号、母音と子音
- 〔第5回〕 母音の分類、子音の分類
- 〔第6回〕 子音の分類（続き）、音節・モーラ

- 〔第7回〕 日本語の音声
- 〔第8回〕 音韻論初歩・日本語のアクセント
- 〔第9回〕 敬語（待遇表現）とは、敬語の分類、内容敬語

- 〔第10回〕 現場敬語
- 〔第11回〕 第三の敬語
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
 - ・斎藤純男『日本語音声学入門』（三省堂、1997年）
 - ・『朝倉日本語講座 3 音声・音韻』（朝倉書店、2003年）
 - ・『講座日本語と日本語教育 2 日本語の音声・音韻』（明治書院、1989年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 基礎知識は特に必要としないが、積み重ねを必要とする授業なので、毎回必ず出席のこと。
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験による。

科目 国文学史	2単位
担当 文学部教授 小川剛生	

鎌倉時代に始まり戦国時代にいたる中世和歌史を講義する。中世和歌の特色はいくつかあるが、新たな統治者となった武家が和歌を好んだことの影響を見逃すことはできない。作歌層の拡大、地方歌壇の形成は、それ自体が中世文化の特色である。作品は一見個性に乏しいものの、和歌というレトリックの器に盛り込まれた思想は、中世文学のさまざまな問題を照らし出す。こうした視点に立ち中央・地方の権力とともに展開した中世和歌の様相を探りたい。具体的には各時代・地域を代表する歌人を取り上げ、その事蹟と作品を考察する。

- 〔第1回〕 イントロダクションー古典和歌について

- 〔第2回〕 武士とは何か―武家政権の国政上の位置
- 〔第3回〕 源実朝
- 〔第4回〕 勅撰和歌集と歌道家
- 〔第5回〕 宗尊親王
- 〔第6回〕 宇都宮歌壇
- 〔第7回〕 足利尊氏
- 〔第8回〕 薬師寺元可
- 〔第9回〕 宗良親王
- 〔第10回〕 太田道灌
- 〔第11回〕 今川氏真
- 〔第12回〕 講義のまとめ・総括

- ◆テキスト
 - ・小川剛生『武士はなぜ歌を詠むか―鎌倉将軍から戦国大名まで―』角川選書（KADOKAWA、2016年）（市販書採用科目「国語国文学古典研究Ⅴ」指定テキスト）ISBN 978-4-04-703589-8
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 中世文学・和歌文学のほかに、広く中世史・中世文化に強い関心と一定の知識のある学生の履修が望ましい。
- ◆成績評価方法
 - 出席状況と最終日の試験による。

科目 国文学古典研究	2単位
担当 文学部教授 田坂憲二	

源氏物語と平安時代文学全般について学ぶものである。源氏物語を作品の流れに随いながら通読しつつ、同時代の文学作品について言及する。

- 〔第1回〕 桐壺巻と『更級日記』
- 〔第2回〕 帚木巻と『落窪物語』
- 〔第3回〕 若紫巻と『紫式部日記』
- 〔第4回〕 紅葉賀巻・花宴巻と後代への影響
- 〔第5回〕 葵巻と『蜻蛉日記』
- 〔第6回〕 賢木巻と『枕草子』
- 〔第7回〕 須磨巻と『栄花物語』
- 〔第8回〕 絵合巻と『竹取物語』
- 〔第9回〕 薄雲巻と『今昔物語集』
- 〔第10回〕 少女巻と『伊勢物語』
- 〔第11回〕 真木柱巻と『大鏡』
- 〔第12回〕 藤裏葉巻と『夜の寝覚め』・まとめ

- ◆テキスト
 - ・田坂憲二『新・国文学古典研究Ⅲ―源氏物語と平安時代文学―』（通信テキスト、2017年）
- ◆参考文献
 - ・清水好子他『新潮日本古典集成 源氏物語』新潮社
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - テキストに事前に眼を通しておくことが望ましい。特に、関連のある源氏物語の原文を、新潮日本古典集成『源氏物語』などで通読しておくとう理解が深まる。
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験による。

科目 書道	2単位
担当 講師 星野 明	

日本書道史における「三筆」と「三蹟」について考察する。「三筆」と「三蹟」をみていくと、当時の時代背景がそれぞれに及ぼしていった影響の大きさに気づく。日本と中国との関係から日本の書道も大きな変遷を遂げていくことになるが、その辺りも考察しながら述べていく。

この授業ではかな書道実技も併せて行う。実技用の書道用具（筆墨硯紙等）は一般的なものを授業初日から持参して下さい。

- 奈良・平安時代の書の概要
- 実技。かなの基本練習
- 「三筆」について考察
- 実技。かなの基本練習
- 学外授業（東京国立博物館）
- 学外授業（東京国立博物館）
- 「三筆」について考察
- 実技。「倭漢朗詠集」を書く（臨書学習）
- 「三蹟」について考察
- 実技。「倭漢朗詠集」を書く（臨書学習）
- 「三筆」と「三蹟」の比較研究
- 総括

- ◆テキスト
 - ・高橋正彦『書道』（通信テキスト、1977年）
- ◆実技参考テキスト
 - ・弓場綾子編『御物 倭漢朗詠抄』（松林堂、1940年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 講義内容は日本書道史が中心になりますが、特にテキストの奈良・平安時代を一読しておくことが望ましい。実技は空海の風信帖を学習しますが、初心者でも十分学べる水準で行います。
 - 授業の進め方は、およそ3時限を講義、4時限を実技という形式で行います。
 - 期間中に学外授業として都内の博物館で書蹟の見学を実施します。
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験による評価と実技作品の評価。

科目 中国文学	2単位
担当 講師 宮下聖俊	

中国古典文学の中心は詩（中国古典詩）であり、中国古典詩は唐代にひとつの隆盛期を迎える。その唐詩を、我々日本人は古来のいわゆる漢文訓読法で読み親しんできた。それは簡便な方法である反面、実は中国古典詩の持つ本来の味わいを見落とさせる原因でもあったのではないか。そのような意識のもと、唐詩を中核に据え、中国古典詩を講読していきたい。当然、中国古典詩に関する種々の知識も、あわせて概説していく。

- 〔第1回〕 はじめに 詩を頭から読む
- 〔第2回〕 漢語の特徴と詩の歴史
- 〔第3回〕 詩を作ってみる（1）概説
- 〔第4回〕 詩を作ってみる（2）実作

〔第5回〕 李白の詩を読む
〔第6回〕 李白と杜甫の優劣論
〔第7回〕 杜甫の詩を読む
〔第8回〕 辺塞詩と閨怨詩を読む
〔第9回〕 中唐の詩を読む（白居易を中心に）
〔第10回〕 中唐の詩を読む（韓愈を中心に）
〔第11回〕 晩唐の詩を読む（李商隠を中心に）
〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 漢文や現代中国語の学習歴の有無は問わない。
- ◆成績評価方法
 - 1) 全12回の内、三分の二以上の出席を成績評価の前提条件とする。
 - 2) 最終日の試験による。

科目	英語学	2単位
担当	文学部教授 井上逸兵	

社会言語学の新展開
〔第1回〕 オリエンテーション
〔第2回〕 社会言語学と英語学
現代言語学史（20世紀中盤まで）
〔第3回〕 社会言語学と英語学
現代言語学史（20世紀中盤以降）
〔第4回〕 変異理論
〔第5回〕 法と言語学
〔第6回〕 メディア翻訳の社会言語学
〔第7回〕 報道の社会言語学
〔第8回〕 字幕・吹替翻訳ディスコースの社会言語学
〔第9回〕 マルティモーダル分析
〔第10回〕 社会語用論
〔第11回〕 社会統語論
〔第12回〕 総括・試験

- ◆テキスト
 - ・井上逸兵（編）『朝倉日英対照言語学シリーズ〔発展編〕1 社会言語学』（朝倉書店、2017年）ISBN 978-4-254-51631-9
 - ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - できればテキストを読んでおいてください。
 - ◆成績評価方法
 - 毎日の授業最後の小レポート（50％）
 - 最終日の試験（50％）
- による。

科目	日米比較文化論	2単位
担当	文学部教授 宇沢美子	

アメリカによる日本開国以来、日本とアメリカはいかに相まみえてきたのでしょうか。本講義では有名無名の文学、演劇、漫画（アニメ）表象の作品をとりあげ、日米がどのような参照、転移、敵対、影響といった関係をつくりあげてきたのかを多方向から検討します。
〔第1回〕 イントロダクション ジャポニズムとは何

か？
〔第2回〕 イギリスからアメリカへーオペレッタ『ミカド』『ゲイシャ』解釈
〔第3回〕 フランスからアメリカへーマダム・バタフライの系譜
〔第4回〕 欧米舞台を彩った日本人俳優たちー貞奴、川上音二郎、青木鶴子、早川雪洲他
〔第5回〕 翻訳と翻案の問題から考えるジャポニズム①ーチェンバレン、ハーン、長谷川武次郎のちりめん本
〔第6回〕 1893年シカゴ万国博覧会の意義ー岡倉覚三、鈴木大拙
〔第7回〕 翻訳と翻案の問題から考えるジャポニズム②ー巖谷小波、オノト・ワタンナ
〔第8回〕 笑いと越境ーハシムラ東郷とめりけんじやつぶ
〔第9回〕 翻訳と翻案の問題から考えるジャポニズム③ーヨネ野口、ゾナ・ゲール、谷崎潤一郎
〔第10回〕 黄禍論・白禍論・フーマンチュー
〔第11回〕 戦争と異人ーWW2の容赦なきイメージの人種戦
〔第12回〕 総括、試験

- ◆テキスト
 - ・宇沢美子『ハシムラ東郷ーイエローフェイスのアメリカ異人伝』（東京大学出版会、2008年）ISBN 978-4-13-083050-8
 - ◆参考文献
 - ・クリストファー・ベンフィー『グレート・ウェイヴー日本とアメリカの求めたもの』（小学館、2007年）
 - ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 特になし
 - ◆成績評価方法
 - 平常点50％
 - 最終日の試験50％
- により総合的に評価します。

科目	英語史	2単位
担当	文学部教授 堀田隆一	

現代英語をよりよく理解すべく、英語にまつわる素朴な疑問を取り上げながら、英語の歴史を概説する。英語という言語の特徴を理解するためには、それがたどってきた歴史を学ぶことが不可欠である。英語の起源はどこにあるのか、英語に見られる不規則性は何に由来するのか、英語は将来どうなってゆくのか、などの問題に歴史的・通時的な視点からアプローチすることで、多面的な英語観・言語観を形成することが、本授業の目標である。

本授業で明らかになる現代英語に関する疑問点を数例挙げておく。

- ・英語はラテン語、フランス語、ドイツ語などどのような関係にあるのか
- ・なぜnameは「ナメ」ではなく「ネイム」と発音されるのか
- ・なぜ3単現の-sがつくのか
- ・なぜIf I WERE a birdとなるのか
- ・なぜ英語は世界語となりえたのか

〔第1回〕 イントロダクション
〔第2回〕 英語史概説1（古英語期以前）
〔第3回〕 英語史概説2（古英語期）
〔第4回〕 英語史概説3（中英語期）
〔第5回〕 英語史概説4（初期近代英語期）
〔第6回〕 英語史概説5（後期近代英語期）
〔第7回〕 英語史概説6（アメリカ英語の歴史）
〔第8回〕 英語史概説7（現代英語期）
〔第9回〕 発音・綴字と語形に関する問題
〔第10回〕 統語と語彙・意味に関する問題
〔第11回〕 方言と社会に関する問題
〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・堀田隆一『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』（研究社、2016年）ISBN 978-4-327-40168-9
- ◆参考文献
 - ・堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解ー納得して英語を学ぶために』（中央大学出版部、2011年）
 - ・寺澤盾『英語の歴史ー過去から未来への物語』（中央公論新社、2008年）
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験による。

科目	ドイツ文学研究	2単位
担当	文学部教授 桑川麻里生	

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの文芸と思想を扱う。ゲーテはドイツ文学史上最重要の詩人と見なされる一方で、自然学者、政治家、批評家など、多面的な活動の人であった。その生涯と仕事の要点を多角度から伝えたい。

〔第1回〕 導入：近代とは何か。「市民」としてのゲーテ。
〔第2回〕 「文学」とは何か。「フマニスム」ということ。
〔第3回〕 「学問」とは何か。「科学」と「人文知」。
〔第4回〕 「啓蒙主義」と近代。主権国家と普遍。
〔第5回〕 グローバリズムと疾風怒濤。「俗語」の学問と文学。
〔第6回〕 古典と自然。「規範」を与えるもの。
〔第7回〕 「人間形成」と「教養」。何のために「育つ」のか。
〔第8回〕 感覚と科学。ニュートン対ライプニッツ。
〔第9回〕 色彩論と形態学。「モナド」的学知とは何か。（1）

〔第10回〕 色彩論と形態学。「モナド」的学知とは何か。（2）
〔第11回〕 これからの「ゲーテ」（1）
〔第12回〕 これからの「ゲーテ」（2）

- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
 - ・高橋義人＋前田富士男『自然と象徴』（富山房、1982年）
 - ・大宮勘一郎編著『ポケットマスターピース・ゲーテ』（集英社、2015年）

- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 特になし。
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験による。

科目	フランス文学史	2単位
担当	講師 設楽聡子／講師 鳥居珠江	

本講義では19世紀から20世紀までのフランス文学を概観します。この時代はフランス文学が最も花開いた時代です。個々の作品と作家の分析にとどまらず、文学がフランス社会とどのように関わってきたのかを歴史の展開の中でたどっていきます。

〔第1回〕 19世紀フランス文学の展望
〔第2回〕 ロマン主義
〔第3回〕 スタンダールとバルザック
〔第4回〕 写実主義／フロベール
〔第5回〕 自然主義の作家たち
〔第6回〕 ボードレールと近代詩／象徴派
〔第7回〕 ベル・エポックの文学
〔第8回〕 20世紀前半の詩の流れ
〔第9回〕 ダダとシュルレアリスム
〔第10回〕 1930年代の文学
〔第11回〕 サルトルとカミュ
〔第12回〕 試験および総括

- ◆テキスト
 - ・渡辺一夫・鈴木力衛著『フランス文学案内〔増補〕』（岩波書店、1990年）ISBN 978-4-00-350001-9
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 第1回目の講義からテキストを使用しますので、必ず事前に購入して持参して下さい。
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験による。

科目	イタリア文学	2単位
担当	講師 古田耕史	

この講義のテーマは、「イタリア文学（詩）と音楽」です（イタリア文学通史の授業ではありません）。詩と音楽の国イタリアでは、オペラが誕生し、数々の美しい歌曲が開花しました。イタリア文学の黎明期である中世からルネサンス期、近代にかけて、背景となる歴史を概観しながら、代表的な作品を味読・鑑賞することにより、イタリア文学と文化についての理解を深めることを目標とします。映像や音声資料も多く使用する予定です。

〔第1回〕 アッシジの聖フランチェスコと『太陽の讃歌』／ゼッフィレッリの映画『ブラザーサン・シスタームーン』
〔第2回〕 中世の宗教詩と音楽：《スターバト・マーテル》を中心に
〔第3回〕 ダンテの叙事詩『神曲』について
〔第4回〕 『神曲』と近代オペラ：プッチーニ《ジャンニ・スキッキ》とザンドナーイ《フランチェスカ・ダ・リミニ》

〔第5回〕	ペトラルカと抒情詩集『カンツォニエーレ』について
〔第6回〕	ペトラルキズモとルネサンス歌曲（マドリガーレ）／ペトラルカと近代歌曲
〔第7回〕	ルネサンスについて／騎士物語詩と牧歌劇（アリオストとタッソ）／オペラの誕生
〔第8回〕	バロックについて／ヴィヴァルディ《四季》とソネット
〔第9回〕	近代最大の抒情詩人レオバルディの作品および関連する音楽
〔第10回〕	外国文学とイタリア・オペラ：デュマ・フィス『椿姫』とヴェルディ《ラ・トラヴィアータ》を読む
〔第11回〕	ヴェリズモの文学とオペラ：ヴェルガ原作によるマスカーニ《カヴァッレリーア・ルスティカーナ》
〔第12回〕	総括
◆テキスト	
・プリントを適宜配布する。	
◆参考文献	
・ダンテ『神曲』（平川祐弘訳、河出文庫、2008年／原基晶訳、講談社学術文庫、2014年）	
・ペトラルカ『カンツォニエーレ 俗語詩片』（池田廉訳、名古屋大学出版会、1992年）	
・タッソ『愛神の戯れ 牧歌劇アミンタ』（鷲平京子訳、岩波文庫、1987年）	
・レオバルディ『レオバルディ カンティ』（協功／柱本元彦訳、名古屋大学出版会、2006年）	
・ヴェルガ『カヴァレリーア・ルスティカーナ 他十一篇』（河島英昭訳、岩波文庫、1981年）	
その他、教室で随時紹介します。	
◆受講上の要望または受講上の前提条件	
「授業内容」はあくまでも予定です。受講者の興味や理解度に応じて、進度や内容が多少異なる場合があります。文学だけでなく音楽にも関心のある受講者を歓迎します。	
◆成績評価方法	
出席および最終日の試験による。	

科目	英会話	2単位
担当	講師 ヤング, ジェローム	

講義要綱は「教職課程専門教育科目」を参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

★ 以下の科目の講義要綱は、経済学部専門教育科目を参照してください。

【第1類に属する科目】			
哲学特殊	2単位	経済学部教授 穂刈 享	社会学特殊 2単位 講師 永井攻治
「ゲーム理論」と同じ。			「社会福祉論」と同じ。
社会学特殊	2単位	講師 齋藤香里	法学概論 2単位 講師 児玉圭司
「社会政策」と同じ。			
【第2類に属する科目】			
日本史特殊	2単位	講師 諸田博昭	日本史特殊 2単位 講師 青木 健
「経済史」と同じ。		講師 ドルネッティ, フイリッポ	「日本経済史」と同じ。

★ 以下の科目の講義要綱は、法学部専門教育科目を参照してください。

【第1類に属する科目】			
社会学特殊	2単位	法学部教授 塩原良和	社会学特殊 2単位 法学部教授 添谷芳秀
マス・コミュニケーション論		2単位	「国際政治論」と同じ。 講師 池上萬奈
		法学部教授 大石 裕	
		法学部准教授 鳥谷昌幸	
哲学特殊	2単位	講師 原田健二郎	社会学特殊 2単位 講師 小田義幸
「政治思想論」と同じ。			「日本政治論」と同じ。
【第2類に属する科目】			
日本史特殊	2単位	講師 原 禎嗣	日本史特殊 2単位 法学部教授 玉井 清
「法制史」と同じ。			「日本政治史」と同じ。
日本史特殊	2単位	講師 神野 潔	西洋史特殊 2単位 講師 利根川佳子
「法制史特殊」と同じ。			「地域研究 (アフリカの開発と国家)」と同じ。

G経済学部専門教育科目

科目	経済原論	2単位
担当	講師 西 孝	

ミクロ経済学およびマクロ経済学の入門講義である。ミクロ経済学では、家計や企業といった個別経済主体の行動に関する理論から、市場における需要と供給のメカニズムについて学ぶ。あわせて、経済学的なものの考え方にも親しんでもらいたいと思っている。

マクロ経済学では、経済の全体的な動きに関する諸関係から、好・不況のメカニズムについて学ぶ。これに加えて、政府による財政・金融政策の効果についても言及するつもりである。

- 〔第1回〕 予算制約
- 〔第2回〕 選好と効用関数
- 〔第3回〕 所得効果と代替効果
- 〔第4回〕 費用関数
- 〔第5回〕 供給曲線
- 〔第6回〕 市場均衡とパレート最適
- 〔第7回〕 国民経済計算
- 〔第8回〕 財・サービスの市場の均衡とIS曲線
- 〔第9回〕 貨幣供給
- 〔第10回〕 貨幣需要とLM曲線
- 〔第11回〕 財政・金融政策の効果
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・西孝『イントロダクション マクロ経済学講義〔第2版〕』（日本評論社、2009年）ISBN 978-4-535-55611-9
 - ・および講義プリント。
- ◆参考文献
 - ・テキスト、および講義プリントに記されている。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件

特定の予備知識を特に必要としないが、講義内容はいわば積み立て方式であり、毎回の講義内容は、それ以前の回の講義内容を前提とする。したがって何らかの理由によって途中が抜けてしまった場合、各自相應のリカヴァーをしないと、それ以降の話が全く分からなくなる可能性があるので注意されたい。

- ◆成績評価方法
 - 最終日に行われる筆記試験のみによって評価する。40点以上を合格とする。
 - 出欠は評価の対象としない。

科目	ゲーム理論	2単位
担当	経済学部教授 穂刈 享	

この授業では簡単な講義と問題演習を行うことによってゲーム理論（非協力ゲーム）の基本的な考え方を学びます

- 〔第1回〕 赤いぼうしのパズルとpossible worlds

- model
- 〔第2回〕 守られる口約束としてのナッシュ均衡
- 〔第3回〕 ゲームの木における「戦略」
- 〔第4回〕 情報集合
- 〔第5回〕 逆向き帰納法
- 〔第6回〕 シグナリング・ゲーム
- 〔第7回〕 繰り返しゲーム
- 〔第8回〕 問題演習（1）
- 〔第9回〕 問題演習（2）
- 〔第10回〕 問題演習（3）
- 〔第11回〕 問題演習（4）
- 〔第12回〕 まとめ

- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
 - ・トーマス・シェリング『ミクロ動機とマクロ行動』（勁草書房、2016年）
 - ・梶井厚志『戦略的思考の技術ーゲーム理論を実践する』（中公新書、2002年）
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験による。

科目	経済史	2単位
担当	講師 諸田博昭 / 講師 ドルネッティ、フィリッポ	

本講義の目的は、（1）学生が日本経済史を論理的に理解して自らの生きた知識とすること、（2）学生が現代日本経済の成り立ちを歴史的視点から理解し、その問題点を考察する能力を養うこと、である。その到達目標は、学生が、近代日本経済の成長について、概括的な流れを説明できるようにするだけでなく、ある程度各時代の具体的なマクロ的経済事象を把握して記憶するとともに、全体の流れを経済理論なども踏まえて理解する、というレベルに達することである。

具体的な講義内容は、日本経済の成長をマクロ的視点から捉えたものとしている。19世紀後半の開港以来の日本は、外国からの圧力や国際収支上の制約、外国為替相場の安定化といった対外的な問題にどのように対処していくなかで、国内の財政経済の問題に対峙し、経済成長を成し遂げてきたのかを、具体的な統計データを適宜参照しつつ説明する。

- 〔第1回〕 明治政府の成立と初期の財政経済政策
- 〔第2回〕 大久保政権から「明治十四年政変」へ
- 〔第3回〕 松方財政の展開と企業勃興
- 〔第4回〕 日清戦後経営と金本位制の確立
- 〔第5回〕 日露戦争とその後の財政経済
- 〔第6回〕 第一次世界大戦と日本経済、日本帝国の拡大
- 〔第7回〕 「金解禁」関連事項
- 〔第8回〕 「井上財政」から「高橋財政」へ
- 〔第9回〕 戦時経済下の日本

- 〔第10回〕 戦後改革から高度経済成長期へ
- 〔第11回〕 変動為替相場制下の日本経済
- 〔第12回〕 総括と試験

- ◆テキスト
 - ・プリントを適宜配布。
- ◆参考文献
 - ・杉山伸也『日本経済史 近世一現代』（岩波書店、2012年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 講義では、経済学、日本史の専門用語を利用することがある。学生の理解に応じて適宜説明するが、事前に入門書等を読んで、ある程度知識を身につけておくことが望ましい。
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験による。

科目	日本経済史	2単位
担当	講師 青木 健	

本講義では、近世から近現代にかけての日本経済史について、発展の基盤をなす土地利用型産業の農林業を中心に講じる。農業に関しては、労働集約的で、小農経営が重きをなす日本の農業発展について、水田稲作をめぐる日本特有の展開を丁寧に説明する。また林業に関しては、世界史的にも早くから人工的な育成林業に乗りだした日本林業の発展過程を説明し、その担い手としての地域社会の重要性について考える。以上の通時的考察を通じて、ローカルな社会経済構造に根差して発展してきた日本社会のあり方を明らかにしていきたい。

- 〔第1回〕 講義の問題関心と時期区分
- 〔第2回〕 近世日本の幕開け：「経済社会」化・大開墾
- 〔第3回〕 近世日本における労働集約型農業発展の展開
- 〔第4回〕 日本における育成林業のはじまり
- 〔第5回〕 近世日本の人口動態：「マルサスの罠」の回避
- 〔第6回〕 明治初頭の資本集約型大農経営の試み・挫折と労働集約型農業発展への回帰
- 〔第7回〕 近代日本林政のはじまりとその特質
- 〔第8回〕 国家主導の土地改良事業の開始と地主小作問題の展開：大正時代～アジア太平洋戦争期
- 〔第9回〕 民有林政策の着手とアジア太平洋戦争期の濫伐
- 〔第10回〕 高度経済成長と日本農業
- 〔第11回〕 現代日本における林業問題の根本：戦後の「拡大造林」政策の展開
- 〔第12回〕 現状分析を含めた総括と試験

- ◆テキスト
 - ・プリント資料を適宜配布する。
- ◆参考文献
 - ・Conrad Totman. *Japan: an environmental history*. London: I.B. Tauris, 2014.
 - ・暉峻衆三編『日本の農業150年：1850-2000年』（有斐閣、2003年）

- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 高等学校卒業程度の日本史の知識があることを前提に講義をすすめるが、補足説明は質問に応じて随時受け付ける。
- ◆成績評価方法
 - 最終日に実施する筆記試験（70％）と6日間の出席状況の集計結果（30％）による。

科目	工業経済論	2単位
担当	講師 渋井康弘	

- 工業が国民経済・世界経済の中でもつ意味を確認し、今日のグローバリゼーションの下で生じている諸変化の本質を解明します。各回の内容は下記のとおり。
- 〔第1回〕 「産業革命と工業部門の台頭」：資本主義を本格的に確立させた産業革命
- 〔第2回〕 「機械・装置と大量生産」：道具の機械への転化と大量生産の普及。
- 〔第3回〕 「資本制生産における労働編成①」：単純協業とマニユファクチュアの分業。
- 〔第4回〕 「資本制生産における労働編成②」：機械制大工業における分業の展開。
- 〔第5回〕 「資本の集積・集中と中小資本の残存・新生」：資本主義的蓄積の一般的傾向。
- 〔第6回〕 「産業部門構成の歴史的変化」：農工間の不均等発展と重化学工業化。
- 〔第7回〕 「独占的市場構造の成立」：独占成立の必然性と独占的市場構造の特徴。
- 〔第8回〕 「フォード・システムの技術史的意義」：マニユ的要素に依存する大量生産方式。
- 〔第9回〕 「資本蓄積の停滞基調と技術革新①」：資本蓄積の停滞と経済軍事化の蓋然性。
- 〔第10回〕 「資本蓄積の停滞基調と技術革新②」：世界大戦が生み出した原子力と情報技術。
- 〔第11回〕 「ME・情報技術と新しい労働編成」：工程別分業の機能別分業への転化。
- 〔第12回〕 「グローバルな独占と21世紀の資本蓄積」：全体の総括および試験。

- ◆テキスト
 - ・講義資料集を配布します。
- ◆参考文献
 - ・北原勇他編著『資本論体系 10 現代資本主義』（有斐閣、2001年）
 - ・今井・岸川・宮崎編著『経営から見る現代社会〔新版〕』（文真堂、2014年）
 - ・植田・糸野・駒形編著『日本中小企業研究の到達点』（同友館、2010年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 一方的に話すだけの講義にはせず、できるだけ多くの人にこちらから質問します。質問された時は、分からなくてもとにかく考えて、答をひねり出してみてください。それを繰り返すうちに、自分の見解を持てるようになるはずです。
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験の結果がそのまま成績となります（100％試験で判定）。

科目	社会政策	2 単位
担当	講師 齋藤香里	

現代の社会政策は労働問題と社会保障によって構成されるが、本講義では日本の社会保障のあり方について「格差」に着目し、検討する。経済学の視点から、特に、医療保障、子どもの貧困、高齢者の介護問題を取り上げる。

〔第 1 回〕 イントロダクションー社会政策とは何か
〔第 2 回〕 社会政策の理論と歴史的展開
〔第 3 回〕 日本の社会保障制度の変遷と概要
〔第 4 回〕 医療① 日本の医療保障の概要と課題
〔第 5 回〕 医療② 医療における格差
〔第 6 回〕 子どもの貧困① 相対的貧困と絶対的貧困
〔第 7 回〕 子どもの貧困② 幼児教育の経済学
〔第 8 回〕 子どもの貧困③ 子どもの貧困への対策
〔第 9 回〕 高齢者の介護問題① 日本の介護保険制度
〔第10回〕 高齢者の介護問題② 日本の介護保険制度の課題
〔第11回〕 高齢者の介護問題③ ドイツの介護施策
〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
- ・駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂『社会政策－福祉と労働の経済学』（有斐閣アルマ、2015年）
 - ・阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』（岩波書店、2014年）
 - ・ジェームス・J・ヘックマン『幼児教育の経済学』（東洋経済新報社、2015年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 特になし。
- ◆成績評価方法
- 最終日の試験による。

科目	社会福祉論	2 単位
担当	講師 永井攻治	

社会保障・福祉制度は成立と改革を相互に繰り返して現在の姿となった。その流れは、経済成長及び財政と深く関わっている。例えば、高度経済成長・財政拡充期に骨子が成立し、その後の安定成長・緊縮財政期に制度改革が多くなされている。この法則から考察すると、現在の低成長期は後者（改革期）と言える。それでは、これからの社会保障制度は、改革の名の下にどのような方向転換が迫られているのか。それは、これまでとは異なる状況、特に超高齢化社会においても破綻することのない福祉施策を講じる制度改革である。

従来型の制度改革は、負担と給付の議論が先行していた。しかし、財政面のみから考えると、人口の高齢化、家族機能の変化、財政赤字等への対応策が問題である。現在の財政状況では、これからの福祉ニーズに充分な対応を施す事は困難である。また、戦後60年以上が経過し、日本の社会保障や福祉を取り巻く理念も「弱者救済から全国民への安心の保障」へと変化している。

そこで本講義では、社会保障・福祉制度の歴史的展開と少子高齢化社会の社会保障・福祉制度の役割・各社会保険（医療・年金・福祉）と労働保険（労災・雇用保険）の制度を中心に学ぶ。そして、持続可能性のある社会保障・福祉制度の必要性と、超高齢化社会に対応した福祉施策のあり方とは何かを共に考える。

〔第 1 回〕 イントロダクション及び成熟化社会と社会保障
〔第 2 回〕 少子・高齢化社会の現状と動向
〔第 3 回〕 高齢化と日本経済
〔第 4 回〕 社会保障制度の機能
〔第 5 回〕 日本の年金制度の歴史的変遷①
〔第 6 回〕 日本の年金制度の歴史的変遷②
〔第 7 回〕 年金制度の概要①
〔第 8 回〕 年金制度の概要②
〔第 9 回〕 健康保険制度の概要
〔第10回〕 労働者災害補償保険制度の概要
〔第11回〕 働くルールと社会保障
〔第12回〕 総括「現在の社会保障制度の問題点について」

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する予定である。
- ◆参考文献
- ・駒村康平『福祉の総合政策〔新訂 5 版〕』（創成社、2011年）（市販書採用科目「社会政策（E）（J）」テキスト）
 - ・ISBN 978- 4-7944-3121- 9
 - ・その他、授業中に適宜指示する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 日本の社会保障・福祉制度について関心を持つ塾生を歓迎する。担当教員の指導に非協力的な塾生の受講は歓迎しない。なお、講義終了後に毎回テーマを与え、自分なりの意見を提出してもらう予定である。また、最終日にグループディスカッションを行うかどうか検討中である。
- ◆成績評価方法
- 「テスト」、「出席と課題提出」、「授業態度（増減点）」で評価する予定である（受講者数により臨機応変に判断するので、詳細は授業開始時に説明する）。

科目	経済政策	2 単位
担当	経済学部教授 藤田康範 / 講師 鄭 雨宗	

この講義では、日本経済や世界経済の現状について概観すると同時に、どのような経済政策が現在求められているのか等について考えます。

経済指標や経済記事に親しむことも目標の 1 つとします。この講義を機縁として、日本の経済政策やそのあり方について考えたり話し合ったりする機会をつくって欲しいと思います。

前半は藤田康範が担当し、マクロ経済政策について説明します。バブルの生成および崩壊の経緯、資産価格と貸し渋りの関係、金融再生の方策、伝統的景気対策の理論、構造改革の意義などを中心的テーマとします。『21世紀の資本』についても取り上げる予定です。

後半は鄭雨宗が担当し、国際政治経済学アプローチによる国際環境政策論について説明します。気候変動

問題のような経済・エネルギー・環境をめぐる複雑系問題に対する政策評価・政策提言などを中心的テーマとします。

〔第 1 回〕 はじめに：日本経済の現状と課題を把握する
〔第 2 回〕 経済変数の決定に関する理論を学ぶ（1）GDP、財政赤字
〔第 3 回〕 経済変数の決定に関する理論を学ぶ（2）資産価格、為替レート
〔第 4 回〕 これまでの経済危機と経済政策を振り返る（1）：バブルの生成崩壊～不良債権問題
〔第 5 回〕 これまでの経済危機と経済政策を振り返る（2）：アジア通貨危機～欧州債務危機
〔第 6 回〕 これからの経済政策のあり方を考える
〔第 7 回〕 京都議定書の評価とポスト京都議論
〔第 8 回〕 京都メカニズムとしての排出権取引スキームの実態とその課題
〔第 9 回〕 EUのエネルギー需要構造と特徴
〔第10回〕 途上国の環境・エネルギー問題と持続可能な発展シナリオ
〔第11回〕 EU提案型戦略的貿易措置と京都議定書の補完性
〔第12回〕 環境と貿易の相互関係：日韓ケースと日中ケースの経済・環境への影響分析

- ◆テキスト
- ・テキストは使用しません。初日に講義プリントを配布します。
- ◆参考文献
- ・藤田康範『図解 世界一わかりやすい経済学の授業』（中経出版、2013年）（第 1 回～第 6 回）
 - ・鄭雨宗『地球温暖化とエネルギー問題 ポスト京都に向けた国際協調システム』（慶應義塾大学出版会、2008年）（第 7 回～第12回）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- できるだけ丁寧な説明を心掛けますので、特別な予備知識は必要ありませんが、経済学的考え方の習得を目指す方々、新しいことがらを驚きと喜びを持って受け入れる準備のある方々の履修を希望いたします。
- ◆成績評価方法
- 出席およびレポートに基づいて総合的に評価します。

科目	財政論	2 単位
担当	講師 倉地真太郎	

財政学の基本的な考えを、理論と実際の両面から学習する。現在、日本は未曾有の財政赤字を抱えており、将来の社会保障や公共サービスの提供や財政破たんに対して多くの国民が不安を抱えている状況にある。他方で、北欧諸国のように高福祉高負担を維持し、重い租税負担に対して人びとの支持を得ている国々も存在している。なぜこのような財政問題が日本では発生しているのか。どのようにすれば解決可能なのか。財政学の学習を糸口として、現代社会の課題について理解を深めることが本講義の目標である。

〔第 1 回〕 日本の財政問題

現在日本が抱えている財政的な問題についてその概要を理解する。

〔第 2 回〕 財政とはなにか？（1）

現代的財政の成立に関する歴史と理論的解釈について理解する。

〔第 3 回〕 財政とはなにか？（2）

必要（ニーズ）を充足するための財政のあり方について、機能面と理論面から解説する。

〔第 4 回〕 公共サービス

日本の社会保障制度の課題を財政学の観点から理解する。

〔第 5 回〕 公共投資

日本における公共投資の歴史的展開と今日的課題について解説する。

〔第 6 回〕 財政赤字（1）

日本における財政赤字の現状を国際比較の観点から解説する。

〔第 7 回〕 財政赤字（2）

財政赤字の持続可能性について、金融政策も含めて理論的展開と現状を理解する。

〔第 8 回〕 租税論（1）

古典から現代まで様々な租税理論を紹介する。

〔第 9 回〕 租税論（2）

日本と世界の租税体系と税制改革の潮流について学ぶ。

〔第10回〕 地方財政論（1）

地方財政の基本的な考え方について、理論と実際の両面から学習する。

〔第11回〕 地方財政論（2）

日本における地域間格差の問題について、財源保障と財政調整に焦点を当てて解説する。

〔第12回〕 総括

全体の講義を振り返るとともにその理解を試験する。

- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
- ・池上岳彦編『現代財政を学ぶ』（有斐閣、2015年）ISBN 978-4-641-18424-4
 - ・神野直彦『財政学〔改訂版〕』（有斐閣、2007年）ISBN 978-4-641-16298-3
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 受講上の要望または受講上の条件は特にない。財政学や日本の財政の行方に興味のある方に受講して欲しい。配布資料は印刷したものを毎授業時に配布するが、同様のものを前日までに担当者のWebサイト（<http://shintarokurachi.org/lecture/publicfinance/>）に掲載する予定である。受講を検討している方で昨年度の資料を参照したい方は担当者（mail@shintarokurachi.org）に問い合わせること。
- ◆成績評価方法
- 最終日の試験による。

科目	金融論	2 単位
担当	講師 山上秀文	

グローバル化が進む現在の日本経済を理解し、その将来を展望するためには、金融の実際と理論を理解することが不可欠である。

この講義では、第1回から第7回まで資金の循環を中心に様々な角度より金融の実際を説明する。その上で第8回から第11回まではその実際の動きの背後にある金融の理論を学ぶ。その中で変化の激しい金融の働きを実際と理論の両面から理解してほしい。

- 〔第1回〕 資金循環と資金の過不足
- 〔第2回〕 企業の資金調達と投資
- 〔第3回〕 金融商品のリスク制御と価格計算
- 〔第4回〕 金融機関の仲介機能と証券市場
- 〔第5回〕 金融行政と金融政策
- 〔第6回〕 財政と財政投融资
- 〔第7回〕 貿易・資本移動と外国為替
- 〔第8回〕 金融のミクロ理論（家計の金融行動）
- 〔第9回〕 金融のミクロ理論（企業と銀行の金融行動）
- 〔第10回〕 金融のマクロ理論（IS-LMモデル、IS-LM-BPモデル）
- 〔第11回〕 金融のマクロ理論（総需要－総供給モデル、期待形成）
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・吉野直行・山上秀文著『金融論』（通信テキスト、2017年）
- ◆参考文献
 - ・山上秀文著『東アジアの新しい金融・資本市場の構築』（日本評論社、第1版第2刷、2016年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件

金融の理論的側面理解のためには、経済学を履修済であることが望ましいが、必須の前提ではない。講義ではまず金融の実際を、必要に応じて経済学の基礎に立ち戻りながら説明し、その理解に基づいて金融の理論を学ぶ。なお、テキストに加えて担当者自作の補助プリント教材も、あわせて使用する。

- ◆成績評価方法
- 最終日の試験による。ただし一定のスクーリング出席を前提とする。

科目	公共経済学	2 単位
担当	講師 金子 光	

公共経済学は、国や地方公共団体などの公共部門が行う活動を、ミクロ経済学・マクロ経済学および財政学の理論的枠組みを用いて分析する学問である。

この講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学および財政学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。これらの学習を通して、公共経済学に関する理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野

と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。

- 具体的には、以下の内容を重点的に取り上げる。
- 〔第1回〕 「財政の3機能」の今日的課題
- 〔第2回〕 「市場の失敗」と政府の役割：公共財、外部性、費用逓減産業
- 〔第3回〕 公共部門による所得再分配政策
- 〔第4回〕 日本経済のマクロ経済分析、ケインズ経済学を中心としたマクロ経済学の理論
- 〔第5回〕 政策分析・政策評価に必要な費用便益分析などミクロ経済学の分析ツール
- 〔第6回〕 租税原則、国と地方の税制、課税理論のミクロ経済分析
- 〔第7回〕 国と地方の財政関係、公共投資と地方財政、地方圏における地域経済政策
- 〔第8回〕 財政民主主義と憲法規定：予算編成・執行・決算など日本の予算制度
- 〔第9回〕 予算編成過程における政策決定プロセスと一般会計歳出構造に関する分析
- 〔第10回〕 財政の持続可能性分析、ドーマーの定理
- 〔第11回〕 NPM（New Public Management）、欧米先進諸国の財政再建への取り組み
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
 - ・講義の際、適宜紹介する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 特になし。ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学の理論については、初学者も理解できるように解説する。
- ◆成績評価方法
 - 出席状況とレポートの結果を基に総合的に評価する。

科目	国際経済学	2 単位
担当	講師 久野 新	

国と国とが貿易を行うのは何故なのか。ある国の主要貿易品目はどのように決定されるのか。貿易自由化や自由貿易参加の是非をめぐり国内でも意見が衝突するのは何故なのか？ 外国人労働者の受け入れが一国の経済に与える影響はどのようなものなのか？

本講義では、広義の国際経済学のなかでも国際貿易論と呼ばれる領域の理論の基礎を学び、こうした諸問題について受講者が自ら考察できるようになるための訓練を行う。

- ・学習の到達目標
- 本講義で登場する基礎的な用語や理論について、第三者に対して説明できるようになること。
- 講義内容は以下を予定している。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 部分均衡分析の方法論（復習）
- 〔第3回〕 貿易政策の基礎
- 〔第4回〕 貿易政策の応用
- 〔第5回〕 比較優位と分業の利益（1）
- 〔第6回〕 比較優位と分業の利益（2）
- 〔第7回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（1）
- 〔第8回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（2）

- 〔第9回〕 地域貿易協定（1）
- 〔第10回〕 地域貿易協定（2）
- 〔第11回〕 国際要素移動（資本や労働の国際移動）
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ〔第2版〕』（有斐閣、2013年）ISBN 978-4-641-17719-2
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 経済原論を履修済みであることが望ましい。
 - 授業内のディスカッションに積極的に参加すること。
- ◆成績評価方法
 - 最終日の試験（持ち込み不可）のみで評価する。

科目	国際金融論	2 単位
担当	講師 田中 巖	

この授業の目的は、国際金融の理論を学習して現実の国際経済の舞台で取り上げられる問題を批判的に検討できるようになることです。

近年の世界的な金融不信の問題を理解するためには、グローバルなお金（マネー）の動きについて知る必要があります。各国の利子率と為替レートとの関係、実需や予想（期待）が与える為替レートへの影響、短期的視点と長期的視点の違いなどについて学び、また、国際収支表や実質為替レートの理論を知ることにより、金融部門と実物部門との関連性を理解します。さらに、通貨危機の発生メカニズム、固定相場制と変動相場制のメリット・デメリットについて考察します。

国際経済問題を考えるためには筋道を立てて見ていく必要がありますが、理論は大変重要な役割を担っています。授業では、理論、制度、政策という経済分析に欠くことのできない視点を重視して講義し、国際収支表と為替レートについての理解を深めていきたいと思います。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 国際資本移動の経済学、経常収支問題
- 〔第3回〕 国民所得勘定と国際収支表①（国際収支表とは、国際収支表の読み取り）
- 〔第4回〕 国民所得勘定と国際収支表②（開放経済におけるマクロの国民所得恒等式）
- 〔第5回〕 為替レートと外国為替市場、国際通貨制度の歴史的変遷
- 〔第6回〕 変動相場制と固定相場制、政府による外国為替市場への介入
- 〔第7回〕 為替レートの決定因①（需要・供給曲線によるモデル）
- 〔第8回〕 為替レートの決定因②（利子平価説（短期のモデル））
- 〔第9回〕 為替レートの決定因③（為替レートのオーバーシュートイング）
- 〔第10回〕 為替レートの決定因④（購買力平価説（長期のモデル））
- 〔第11回〕 実質為替レート、短期における為替レートと生産水準の決定
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
 - ・伊藤元重『ゼミナール国際経済入門〔改訂3版〕』（日本経済新聞出版社、2005年）ISBN 978-4-532-13288-0

- ◆参考文献
 - ・Krugman, Paul R., Maurice Obstfeld, and Marc J. Melitz, 『International Economics: Theory and Policy, Tenth Edition (Global Edition)』（Pearson Education Limited、2014年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
 - 経済原論のマクロ分野の知識を必要とし、抽象的なグラフと簡単な数式を用います。統計データを読むことに意欲的で、現実の国際経済問題を理解することに情熱を持っている履修者を歓迎します。
- ◆成績評価方法
 - 100点満点で評価します。出席20点、宿題（1回）20点、最終日の試験（持込み不可）が60点です。80点以上がA、60点以上がB、40点以上がC（合格）となります。

科目	国際貿易論	2 単位
担当	講師 田中 巖	

この授業の目的は、国際貿易の理論を学習して現実の国際経済の舞台で取り上げられる問題を批判的に検討できるようになることです。

近年の世界的な金融不信に端を発する世界同時不況と日本経済への影響について理解するためには、国際貿易と海外投資、移民の拡大を通じて統合が進んでいる世界経済の特徴を知る必要があります。こうした経済のグローバル化は自由貿易の利益を求めて展開し、地域統合の締結を促進しています。

しかし、最近年の世界の動きは、自由貿易を主張したリカードの国であるイギリスがEU離脱を表明し、トランプ米国新大統領はTPP離脱とNAFTAの再交渉を要請するなど、自由貿易が最も望ましいとする価値観は必ずしも共有されなくなっていることを示唆しています。貿易により賃金や雇用が痛手を受ける産業があるという考え方は、実は貿易理論から導き出されることでもあります。それではなぜ自由貿易を推進するのでしょうか。また、所得格差の拡大とグローバル化の間にどのような関係があるのでしょうか。このような貿易論の応用分野にも触れることが出来たらと考えています。

授業では、統計データを見て世界貿易のパターンを読み取り、貿易理論を習得、その検証方法を学び、比較優位と貿易利益について理解を深めて、自由貿易のメリットを再確認していきたいと思います。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 世界貿易の概観（成長率と開放度指数）

〔第3回〕 貿易理論とその検証①（ミクロ経済学の復習、貿易の基本モデル）

〔第4回〕 貿易理論とその検証②（リカードの比較優位理論）

〔第5回〕 貿易理論とその検証③（リカードの比較優位理論（続き））

- 〔第6回〕 貿易理論とその検証④（ヘクシャー＝オーリンの要素比率モデル）
- 〔第7回〕 貿易理論とその検証⑤（マクドゥーガルの実験、レオンティエフ・パラドック）
- 〔第8回〕 通商政策①（関税・非関税障壁）
- 〔第9回〕 通商政策②（厚生効果）
- 〔第10回〕 経済のグローバル化とその推進主体①（貿易と日本の経済成長、国際貿易体制）
- 〔第11回〕 経済のグローバル化とその推進主体②（多国籍企業と海外直接投資、経済格差）
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
- ・伊藤元重『ゼミナール国際経済入門〔改訂3版〕』（日本経済新聞出版社、2005年）ISBN 978-4-532-13288-0
- ◆参考文献
- ・Husted, Steven, and Michael Melvin『International Economics, Eighth Edition (International Edition)』（Pearson Education, Inc., 2009年）
 - ・Krugman, Paul R., Maurice Obstfeld, and Marc J. Melitz『International Economics: Theory and Policy, Tenth Edition (Global Edition)』（Pearson Education Limited, 2014年）
 - ・野林健・長尾悟編著『国際政治経済を学ぶ－多極化と新しい国際秩序』（ミネルヴァ書房、2011年）（特に、第5章「グローバリゼーションの過去と現在」・第6章「グローバル化と経済格差」（田中巖執筆））
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 経済原論のミクロ分野の知識を必要とし、抽象的なグラフと簡単な数式を用います。統計データを読むことに意欲的で、現実の国際経済問題を理解することに情熱を持っている履修者を歓迎します。
- ◆成績評価方法
- 100点満点で評価します。出席20点、宿題（1回）20点、最終日の試験（持込み不可）が60点です。80点以上がA、60点以上がB、40点以上がC（合格）となります。

科目	世界経済論	2単位
担当	講師 久野 新	

- 従来、東アジア各国は経済的な相互依存関係を緊密化させながら経済成長を遂げてきましたが、各国の発展の経緯、成長の成功要因、政治体制、直面している政策課題は必ずしも一様ではない。本講義では、いま世界の中で最もダイナミックに変化を遂げている東アジアの経済に焦点をあて、同地域における貿易・投資構造の変遷、および各国の経済発展の経緯や特性などについて学ぶ。
- ・学習の到達目標
- 地域として捉えた場合の東アジアの経済的特性、および個別東アジア各国における経済発展の経緯と特性、現在の政策課題に関する理解を深める。
- 講義内容は以下を予定している。
- 〔第1回〕 イントロダクション

- 〔第2回〕 地域としての東アジアの特性（1）
- 〔第3回〕 地域としての東アジアの特性（2）
- 〔第4回〕 シンガポール
- 〔第5回〕 マレーシア
- 〔第6回〕 インドネシア
- 〔第7回〕 フィリピン
- 〔第8回〕 タイ
- 〔第9回〕 ベトナム
- 〔第10回〕 中国
- 〔第11回〕 総括

- ◆テキスト
- ・授業中にプリントを配布する
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 授業内のディスカッションに積極的に参加すること。
- ◆成績評価方法
- 最終日の試験（手書きA4片面メモ1枚のみ持ち込み可）のみで評価する。

科目	人口論	2単位
担当	講師 佐藤龍三郎	

- 現在約75億の世界人口は、なおも増加が続いている。一方、日本をはじめ多くの先進国は少子高齢化・人口減少に直面しており、経済・財政の面でも長期的な低迷に陥っている。21世紀に生きるわたしたちは、このように対照的な「膨張する世界」と「縮減する日本」がどのように向き合い、どのように交流していくのか、という大きな課題をつきつけられているといえよう。
- この課題について考える上で「人口学」の知識が不可欠である。「人口転換」と呼ばれる人口システムの長期的な変動（それは人口の総数だけでなく、年齢構造、人々のライフコースの変化でもあり、都市化や家族・ジェンダーのあり方とも連動している）が理解されれば、経済・社会システムの長期的な変化を理解する上で大いに助けになるに違いない。本科目では、下記の項目について講義する。
- なお講義では、世界の人口だけでなく、日本の人口についても同じくらいの比重で取り上げる。日本の人口については、参考文献のうち『ポスト人口転換期の日本』が大変有用である。
- また、毎回プリントを配布する。人口学の基本的な用語（定義・概念）、指標の見方、統計資料の入手・参照方法については、授業の中で逐次解説する。
- 〔第1回〕 はじめに
- 〔第2回〕 世界と日本の人口の動向
- 〔第3回〕 人口転換と人口推計
- 〔第4回〕 死亡率転換と長寿化のゆくえ
- 〔第5回〕 出生力転換とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ
- 〔第6回〕 人口の年齢構造変化と社会経済開発
- 〔第7回〕 都市化と国内人口移動
- 〔第8回〕 国際人口移動
- 〔第9回〕 人口と食料・資源・環境問題
- 〔第10回〕 世界の人口開発問題と政策課題
- 〔第11回〕 日本の人口問題と政策課題
- 〔第12回〕 総括

- ◆テキスト
- ・河野稠果『世界の人口〔第2版〕』（東京大学出版会、2000年（オンデマンド版2016年））（市販書採用科目「人口論」テキスト））ISBN 978-4-13-052016-4
- ◆参考文献
- ・佐藤龍三郎・金子隆一『ポスト人口転換期の日本』（原書房、2016年）
 - ・阿藤誠・佐藤龍三郎『世界の人口開発問題』（原書房、2012年（オンデマンド版2015年））
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 特になし
- ◆成績評価方法
- 毎回出席をとる。テストは最終日に行う。

科目	会計学	2単位
担当	講師 高瀬 央	

- 本講義は、ひろく「会計（学）」のなかでも、企業ないし株式会社の会計、とりわけ「財務会計」とよばれる領域をその対象とする。本講義の対象となる「財務会計」とは、文字どおり、財務のため（いま少し簡単にいえば、事業の元手を集めるため）の会計である。したがって、事業の企て（の組織）である企業にとっては、欠かすことのできない重要な行為であるといえる。
- 本講義では、このように今日の経済社会の中核をなす企業にとって重要な行為である「財務会計」が、どのような考え方（理論）のもとに成り立ち、また、どのように実践されているのかについて知識と理解を深めることを目的とする。
- 〔第1回〕 会計の意義、会計の前提
- 〔第2回〕 会計の基礎概念
- 〔第3回〕 会計の一般原則
- 〔第4回〕 認識・測定原則（1）
- 〔第5回〕 認識・測定原則（2）
- 〔第6回〕 認識・測定原則（3）
- 〔第7回〕 伝達の原則
- 〔第8回〕 財務諸表分析の基礎
- 〔第9回〕 収益性分析
- 〔第10回〕 安全性分析
- 〔第11回〕 成長性分析、生産性分析
- 〔第12回〕 総括
- ◆テキスト
- ・友岡賛『会計学』（通信テキスト、2009年）
- ◆参考文献
- ・友岡賛『会計学はこう考える』（ちくま新書、2009年）
 - ・友岡賛『会計学原理』（税務経理協会、2012年）
- ◆成績評価方法
- 最終日におこなう試験による。

科目	保険学	2単位
担当	講師 神田恵未*	

- 保険制度は、社会に存在する多種多様なリスクに備えて経済的保障を提供する経済制度として、既に私た

- ちの生活に深く浸透している。本講義では、保険制度が、現実社会の中でいかなる仕組みや原理に基づいて、社会的あるいは経済的機能を果たしているのかを理解することを目的とする。主な講義内容および順序は、以下の通りである。
- 〔第1回〕 保険の歴史
- 〔第2回〕 保険の基本理論
- 〔第3回〕 保険の基本原則
- 〔第4回〕 保険の構造
- 〔第5回〕 保険の機能
- 〔第6回〕 保険とリスク
- 〔第7回〕 保険と金融
- 〔第8回〕 保険と経営
- 〔第9回〕 保険と政策
- 〔第10回〕 保険と社会
- 〔第11回〕 特別講義（中国保険市場の成長と課題）
- 〔第12回〕 総括
- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆参考文献
- ・堀田一吉『保険理論と保険政策－原理と機能』（東洋経済新報社、2003年）
 - ・堀田一吉他編著『保険進化と保険事業』（慶應義塾大学出版会、2006年）
 - ・田畑康人・岡村国和編著『人口減少時代の保険業』（慶應義塾大学出版会、2011年）
 - ・下和田功編『はじめて学ぶリスクと保険〔第4版〕』（有斐閣、2014年）
 - ・近見正彦他『新・保険学』（有斐閣アルマ、2006年）
 - ・近見正彦他編『保険学』（有斐閣、2011年）
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 特にありません。試験は、講義で話した内容を中心に出題する予定であるので、できる限り授業には出席するよう心がけてください。
- ◆成績評価方法
- 課題レポートおよび講義最終日試験の成績による。
- ※2014年度まで担当の塔林図雅講師と同一人物です。

科目	法学概論	2単位
担当	講師 兒玉圭司	

- 本講義は法学の初学者を対象として、社会生活を営む上で必要な法的知識を得ること、すなわち一般教養としての法学を学ぶことを目標とします。
- 講義の最初から4日間で、私たちの周りにある法の成り立ちや、法学を学ぶ上で欠かせない語句や制度、基本的な作法（解釈等）について扱います。
- 残りの2日間では、日本国憲法をはじめとする主要な法典に記された重要な原則を取り上げるとともに、各法領域を学ぶ際にその入り口となるごく初歩的な内容を、身近な事例を用いてお話ししてみたいと考えています。
- 本講義を通じて、法学に関する基本的な事柄を理解してもらうとともに、講義で扱ったいずれかの分野に興味を持ち、より深く学び続けるきっかけを掴んでいただければ幸いです。
- 講義では以下の内容を扱う予定です。

〔第1回〕	ガイダンス——法学をまなぶ意義
〔第2回〕	法とは何か
〔第3回〕	法の発展
〔第4回〕	日本における近代法の導入
〔第5回〕	法源①（日本における成文法）
〔第6回〕	法源②（日本における不文法）
〔第7回〕	法の種類と効力
〔第8回〕	法の解釈と適用
〔第9回〕	日本国憲法の成立とその基本原理
〔第10回〕	日本国憲法に記される基本的人権
〔第11回〕	総括
〔第12回〕	犯罪と法　もしくは　家族と法
なお、講義は配布するレジュメや資料プリントに沿って進めます。板書する内容はレジュメに書き込んでいただくことが可能です。テキストは、事前・事後の予復習にご利用ください。	
◆テキスト	
・霞信彦編『法学概論』（通信テキスト、2015年）	
◆参考文献	
・伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣、2005年）	
このほか、講義の中で随時、参考文献をご紹介します。	
◆受講上の要望または受講上の前提条件	
講義では「六法」の利用を予定しています。『ポケット六法』（有斐閣）、『法学六法』（信山社）など、比較的安価な「六法」（1,000円台）を一冊ご用意ください。	
◆成績評価方法	
第11回に実施する筆記試験によって評価します。	

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、経済学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

★以下の科目の講義要綱は、文学部専門教育科目を参照してください。

哲学（専門）	2単位	講師	石田知子	社会心理学特殊	2単位	講師	呉　正培
		講師	北村直彰				
哲学史	2単位	講師	西川耕平	心理学特殊	2単位	文学部准教授	川端秀明
		講師	小山田圭一				
社会学（専門）	2単位	文学部教授	岡原正幸	図書館・情報学	2単位	文学部教授	池谷のぞみ
		講師	澤田唯人				
				日本史概説	2単位	講師	木村直也
				西洋史概説	2単位	文学部教授	神崎忠昭

★以下の科目の講義要綱は、法学部専門教育科目を参照してください。

憲法	2単位	講師	岡田順太	マス・コミュニケーション論	2単位	法学部教授	大石　裕
						法学部准教授	鳥谷昌幸
会社法	2単位	講師	来住野究	政治思想論	2単位	講師	原田健二郎
民法	2単位	法学部教授	水津太郎	政治理論	2単位	講師	慶　済姫
		講師	大塚哲也				
刑法	2単位	法学部教授	佐藤拓磨	国際政治論	2単位	法学部教授	添谷芳秀
破産法	2単位	大学院法務研究科教授	中島弘雅			講師	池上萬奈
経済法	2単位	講師	隅田浩司	政治過程論	2単位	講師	金　宗郁
行政法	2単位	法学部准教授	青木淳一	日本政治史	2単位	法学部教授	玉井　清
法制史	2単位	講師	原　禎嗣	日本政治論	2単位	講師	小田義幸
法制史特殊	2単位	講師	神野　潔	地域研究（アフリカの開発と国家）	2単位	講師	利根川佳子
社会学特殊	2単位	法学部教授	塩原良和				

法学部専門教育科目

科目	憲法	2単位
担当	講師 岡田順太	

日本国憲法の諸論点を明確にし、典型的な解釈論から立法論（改憲論）まで、最先端の憲法論を展開したい。具体的には、次の論点を予定している。

- 〔第1回〕 憲法の基本原理・基本構造
- 〔第2回〕 人権享受の主体適格
- 〔第3回〕 消極的権利（1）
- 〔第4回〕 消極的権利（2）
- 〔第5回〕 積極的権利（受益権、社会権）
- 〔第6回〕 複合的権利／能動的権利
- 〔第7回〕 天 皇
- 〔第8回〕 国会／内閣
- 〔第9回〕 裁判所
- 〔第10回〕 財政／地方自治
- 〔第11回〕 安全保障
- 〔第12回〕 総 括

◆テキスト
・駒村圭吾編『プレステップ憲法』（弘文堂、2014年）（市販書採用科目「新・憲法（E）（J）」テキスト） ISBN 978-4-3350-0091-1

◆参考文献
・必要に応じて授業中に指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
特別な予習は必要ないが、毎回出席して、克明にノートを取り、思考を廻らせてほしい。また、『六法』（判例要旨付のものが望ましい）を毎回携行してほしい。具体例を挙げ平明に講義するつもりである。

◆成績評価方法
8割以上の出席を試験受験資格とし、採点は寛大に行う。

科目	会社法	2単位
担当	講師 来住野 究	

平成17年の大改正により、会社法は商法から抽出され、商法特例法等の特別法と統合されて独立した法律となった。条文が平仮名口語体に改められるとともに、内容も抜本的・全面的に改められた。新会社法は、会社の種類の再編・資本制度の変容など、理念・体系の大幅な転換を図った部分もあるが、改められた法規制の中には、法制審議会会社法部会の意向とは無関係に法務省の立案担当者が独断専行したところが少なくないため、問題点も多い。そこで、必要に応じて旧商法と対比させながら、会社法の全体像と基本理念を概観するとともに、重要な法制度や話題性のある論点をいくつか取り上げて検討することにより、諸制度の体系的な理解と考え方の養成を目指す。

- 〔第1回〕 I 会社法概説①

- 1. 会社法の利害関係人と会社法
- 2. 会社法制定の経緯と特色

- 〔第2回〕 I 会社法概説②
- 3. 会社の意義
- 4. 会社の法人性
- 5. 会社の商人性
- 6. 会社の種類

- 〔第3回〕 I 会社法概説③
- 7. 株式会社の特色①

- 〔第4回〕 I 会社法概説④
- 7. 株式会社の特色②

- 〔第5回〕 I 会社法概説⑤
- 7. 株式会社の特色③

- 〔第6回〕 I 会社法概説⑥
- 8. 持分会社の特色

- 〔第7回〕 II 会社法の論点①
- 〔第8回〕 II 会社法の論点②
- 〔第9回〕 II 会社法の論点③
- 〔第10回〕 II 会社法の論点④
- 〔第11回〕 II 会社法の論点⑤

〔第12回〕 総括
◆テキスト
・プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・宮島司『新会社法エッセンス〔第4版補正版〕』（弘文堂、2015年）（市販書採用科目「会社法（E）（J）」テキスト）
概説書は平成26年改正法に対応しているものが望ましい。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
民法の基礎知識があることを前提として講義を進める。

時間の関係上授業中に逐一条文を確認することはできないが、各自六法（最新版）を持参し、必要に応じて条文を確認すること。

◆成績評価方法
試験の成績により評価する。

科目	民法	2単位
担当	法学部教授 水津太郎 / 講師 大塚哲也	

本講義では、民法財産法に関する基礎的な知識を習得するとともに、法的問題の発見とその解決の仕方を学ぶことを目的とします。

民法財産法は大きく分けると、契約・所有・不法行為の3つの領域に区別されます。民法典のなかでこれらを定めているのは、第1編から第3編まで、すなわち総則・物権・債権です。

本講義では、民法財産法の全体をカバーしますが、時間の制約もありますので、とりわけ重要な概念・制度・準則を選び出して解説をします。また、教育効果

を高めるために、民法典の編別には従わずに、問題領域ごとに講義をすすめます。具体的には次のとおりです。

- 〔第1回〕 民法の基礎
- 〔第2回〕 契約①：契約法総論
- 〔第3回〕 契約②：契約の成立
- 〔第4回〕 契約③：契約違反に対する救済
- 〔第5回〕 契約④：契約の終了
- 〔第6回〕 不法行為
- 〔第7回〕 所有①：物権法総論
- 〔第8回〕 所有②：物権変動Ⅰ
- 〔第9回〕 所有③：物権変動Ⅱ
- 〔第10回〕 担保①：担保とはなにか
- 〔第11回〕 担保②：担保物権各論
- 〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト
・プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・池田真朗『スタートライン民法総論〔第2版〕』（日本評論社、2011年）
・山野目章夫『初歩からはじめる物権法〔第5版〕』（日本評論社、2007年）
・角紀代恵『はじめての担保物権法』（有斐閣、2013年）
・笠井修他『はじめての契約法〔第2版〕』（有斐閣、2006年）
・池田真朗『スタートライン債権法〔第5版〕』（日本評論社、2010年）
・滝沢昌彦『民法がわかる民法総則〔第3版〕』（弘文堂、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件
六法（小型のものでよい）を毎回かならず持参してきてください。
本講義を受講するための前提条件はとくにありませんが、参考文献について簡単に目を通しておくと、講義の理解がすすむと思います。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目	刑法	2単位
担当	法学部教授 佐藤拓磨	

刑法の中で最も重要な分野である財産犯と、独学の際に困難を感じるであろうと思われる文書偽造罪について、判例を中心に講義します。受講者の反応によって授業の進度は変わってきますので、以下のプランはあくまで目安としてお考えください。

- 〔授業の概要〕
- 〔第1回〕 イントロダクション／窃盗罪（財物の意義～既遂時期まで）
- 〔第2回〕 窃盗罪（保護法益～親族相盗例まで）／不動産侵奪罪
- 〔第3回〕 強盗罪
- 〔第4回〕 事後強盗罪／強盗致死傷罪／恐喝罪
- 〔第5回〕 詐欺罪（欺罔行為〔含、財産的損害〕）
- 〔第6回〕 詐欺罪（処分行為）
- 〔第7回〕 詐欺罪（クレジットカードの不正使用、キセル乗車）／電子計算機使用詐欺罪

- 〔第8回〕 横領罪
- 〔第9回〕 背任罪（事務処理者の意義～財産的損害）
- 〔第10回〕 背任罪（背任罪と共犯、横領と背任の区別）
- 〔第11回〕 文書偽造罪（名義人の特定）
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト
・西田典之＝山口厚＝佐伯仁志『判例刑法各論〔第6版〕』（有斐閣、2013年） ISBN 978-4-641-04292-6

◆参考文献
・なし。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
本講義では、判例の事案をかなり詳細にみた上で、判例の考え方を探ります。そのため、講義の際には、指定教科書を必ず持参してください。

◆成績評価方法
最終日の試験により評価します。

科目	医事法	2単位
担当	講師 神馬幸一	

この講義は、医療に関する法的・倫理的・社会的問題を解説するものです。具体的には、次のような内容を予定しています。

- 〔第1回〕 医事法とは何か？
- 〔第2回〕 医療事故を巡る法的問題
- 〔第3回〕 医療安全対策に関する最近の動向
- 〔第4回〕 インフォームド・コンセントの法理
- 〔第5回〕 医療情報の保護
- 〔第6回〕 人工妊娠中絶
- 〔第7回〕 生殖補助技術
- 〔第8回〕 臓器移植医療（1）
- 〔第9回〕 臓器移植医療（2）
- 〔第10回〕 終末期医療（1）
- 〔第11回〕 終末期医療（2）
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト
・プリントを適宜配布する。
◆参考文献
・甲斐克則・手嶋豊（編）『医事法判例百選〔第2版〕』（有斐閣、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件
医事法は、公法、民事法、刑事法の幅広い知識を前提とする学際的領域です。従って、本講義を受講するに際しても、公法、民事法、刑事法に関する基礎的知識を有していることが望ましいものと思われます（但し、講義中においては、可能な限り、関連する必要最低限の基礎的知識を解説する予定です）。

◆成績評価方法
講義期間中に実施予定の「総括（論述テスト）」により、成績評価を行います。詳細は、第1日目における講義の冒頭で説明します。

科目	刑事政策学	2単位
担当	法学部教授 太田達也／講師 尾崎万帆子 講師 吳 柏蒼	

本講義では、刑事政策の目的と諸原則について解説した後、刑罰論、犯罪者処遇論、被害者学に関する諸問題を取り上げる。また、各論的問題として、近年、大きな社会問題ともなっている論点についても取り上げていく予定である。

具体的な日程は、以下の通りである。

〔第1回〕 刑事政策の目的と原則／死刑（太田達也）
〔第2回〕 自由刑・矯正処遇・仮釈放（太田達也）
〔第3回〕 刑の一部執行猶予・保護観察（太田達也）
〔第4回〕 財産刑（吳柏蒼）
〔第5回〕 ダイバージョン（起訴猶予・執行猶予）（吳柏蒼）
〔第6回〕 少年非行（尾崎万帆子）
〔第7回〕 司法と福祉の連携（特に少年司法と児童福祉について）（尾崎万帆子）
〔第8回〕 犯罪被害者支援（吳柏蒼）
〔第9回〕 犯罪被害者の法的地位（吳柏蒼）
〔第10回〕 性犯罪（尾崎万帆子）
〔第11回〕 ドメスティック・バイオレンス（尾崎万帆子）
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・守山正・安部哲夫（編著）『ビギナーズ刑事政策〔第3版〕』（成文堂、2017年近刊）

◆参考文献

・井田良＝太田達也編著『いま死刑制度を考える』（慶應義塾大学出版会、2014年）
・太田達也『刑の一部執行猶予－犯罪者の改善更生と再犯防止』（慶應義塾大学出版会、2014年）
・女性犯罪研究会『性犯罪・被害一性犯罪規定の見直しに向けて』（尚学社、2014年）
・法務総合研究所『平成28年版犯罪白書』（法務省、2016年）
・国家公安委員会・警察庁『平成29年度版犯罪被害者白書』（2017年近刊）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

単に政策や制度の概要を覚えるだけでなく、犯罪の状況やその背景を考慮に入れながら、制度の問題やあり方について、幾つもの考察軸に沿って検討できるようになることが重要である。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	刑事訴訟法	2単位
担当	講師 丸橋昌太郎	

本講義は、下記のスケジュールで、刑事訴訟法のうち、犯罪捜査、公判審理を規律する法を中心に扱う。受講生の多くは、捜査と言えば、刑事ドラマか、テレビ報道で見られるような不当な捜査を思い浮かべるであろう。しかし、現実の捜査は、刑事ドラマのように派手で単純ではなく、また、テレビ報道で取り上

げられるような不当な捜査ばかりではない。

受講生には、本講義を通じて、刑事訴訟法の基礎を身につけるとともに、刑事司法が果たすべき役割を多角的に考えられるようになってもらいたい。

〔第1回〕 刑事手続の基礎

〔第2回〕 任意捜査と強制捜査（1）

〔第3回〕 任意捜査と強制捜査（2）

〔第4回〕 強制処分（1）－ 逮捕・勾留

〔第5回〕 強制処分（2）－ 搜索・押収

〔第6回〕 被疑者の防禦活動

〔第7回〕 公判の構造と基本原則

〔第8回〕 公訴の基本原則

〔第9回〕 訴因と公訴事実

〔第10回〕 証拠法（1）－ 総説、自白法則

〔第11回〕 証拠法（2）－ 伝聞法則

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

担当講師は、何事も興味を持って取り組むことが大事だと考えている。担当講師も、できるかぎり刑事訴訟法と現実社会との関わりや刑事訴訟法の面白さを伝えるべく努力をするが、受講生も、多くの社会現象に興味を向けてほしい。そして、社会現象で興味を持ったことや疑問に思ったことは、いつでも担当講師にぶつけてほしい。

◆成績評価方法

成績評価は、基本的に最終試験によって行う。

その他、必要な事項については、適宜、授業内で指示をする。

科目	民事訴訟法	2単位
担当	大学院法務研究科教授 三木浩一／講師 川嶋隆憲	

民事訴訟法のうち、主として第一審手続を中心に扱う。講義内容は以下を予定しているが、進度に応じて変更する場合がある。

〔第1回～第2回〕 民事紛争処理の全体像

〔第3回～第4回〕 判決の効力

〔第5回～第6回〕 口頭弁論、弁論主義

〔第7回～第8回〕 証明、証拠

〔第9回～第10回〕 訴訟要件

〔第11回〕 判決によらない訴訟の終了

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・三木浩一・笠井正俊・垣内秀介・菱田雄郷『民事訴訟法〔第2版〕』（有斐閣、2015年）
ISBN 978-4-641-17925-7

◆受講上の要望または受講上の前提条件

最新版の六法を持参すること。なお、講義は、民法に関する基礎的な知識を有することを前提に進める。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	破産法	2単位
担当	大学院法務研究科教授 中島弘雅	

債務者が従来の経済活動や経済生活を維持しながら、弁済期にある債務の大部分を返済することが困難な状態に陥っていることをもって、「倒産」と呼ぶ。そうした場合に、当該債務者の財産関係を清算したり、またもし可能な場合には健全な形での再出発を促すことによって、当該債務者の経済破綻による関係者への損害を最小限に食い止めるとともに、総債権者に対して公平かつ最大限の満足を与えるための制度として、倒産手続がある。本講義は、この倒産手続の概要をわかりやすく説明することを目的としている。

〔第1回〕 倒産の背景と倒産処理の必要性

〔第2回〕 倒産処理の仕組み

〔第3回〕 破産手続の開始段階

〔第4回〕 破産手続の機関と進行

〔第5回〕 破産財団・破産債権・財団債権

〔第6回〕 破産財団の増減

〔第7回〕 破産手続における担保権の処遇

〔第8回〕 破産手続における契約関係の処理

〔第9回〕 消費者の破産と免責

〔第10回〕 民事再生手続

〔第11回〕 裁判外の事業再生

〔第12回〕 まとめと試験

◆テキスト

・中島弘雅・佐藤鉄男『現代倒産手続法』（有斐閣、2013年）
ISBN 978-4-641-12482-0

◆受講上の要望または受講上の前提条件

民法、民事訴訟法の知識がある程度あることを望ましい。

◆成績評価方法

最終日の試験の成績による。

科目	経済法	2単位
担当	講師 隅田浩司	

本講義は、独占禁止法を中心とする経済法（競争法）の重要論点を、具体的な事件（判決、及び公正取引委員会の審決など）を素材とし、ケーススタディ形式で解説する。本講義の目的は、独占禁止法、下請法、そしてエネルギー、情報通信といった経済法関連領域における競争政策関連の法律について、その現在の議論の状況を理解するとともに、経済法の基本的な考え方、理論的な枠組みについての知識を提供することにある。講義で中心的に取り扱うことになるのは、独占禁止法となる。不当な取引制限、私的独占、不公正な取引方法、そして企業結合規制について、最新事例も紹介しつつ、重要論点を中心に解説を行う。また、公正取引委員会を中心とする独占禁止法違反行為の調査及び不服審査（審決取消訴訟）、及び民事訴訟や刑事罰などについても併せて検討する。また、経済法は、その科目の性質上、米国反トラスト法や欧州競争法など諸外国の法規制との比較や、国際的な執行協力が盛んであり、この講義でも、講義に関連する限りにおいて、諸

外国の法規制についても言及する場合がある。その他、関連する法令として、下請法、入札談合防止法そして、各種事業法についてもあわせて検討する。

〔第1回〕 経済法への招待（経済法の基礎概念及び、競争政策の基本的な考え方について解説）

〔第2回〕 不当な取引制限（談合、カルテルといった不当な取引制限の主要事例について解説）

〔第3回〕 不当な取引制限と課徴金、刑事罰（不当な取引制限に違反した事業者に対する課徴金納付命令、刑事罰などについて解説）

〔第4回〕 排除型私的独占（競争者などの排除を中心とする排除型私的独占について解説）

〔第5回〕 排除型私的独占、支配型私的独占（排除型私的独占の事例研究とともに、支配型私的独占について解説）

〔第6回〕 不公正な取引方法の基本構造（不公正な取引方法の基本構造の理解と過去の事例分析）

〔第7回〕 不公正な取引方法の事例研究（主として一般指定を中心として、過去の事例分析）

〔第8回〕 不公正な取引方法と課徴金（課徴金納付命令の対象となる不公正な取引方法について解説）

〔第9回〕 企業結合規制（企業結合審査の基本的なフレームワークについて解説）

〔第10回〕 企業結合審査の事例分析（過去の企業結合規制について解説）

〔第11回〕 知的財産権と独占禁止法および、独占禁止法のエンフォースメント（公正取引委員会の手続き及び不服審査）

〔第12回〕 独占禁止法のエンフォースメント（差し止め請求訴訟、民事訴訟および刑事事件に関する論点の整理）および期末試験と総括講義

◆テキスト

・土田和博、栗田誠、東條吉純、武田邦宣『条文から学ぶ独占禁止法』（有斐閣、2014年）（市販書採用科目「経済法」テキスト）
ISBN 978-4-641-14470-5

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特段、受講上の前提条件なし。なお参考文献は、適宜、講義中に指示する。

◆成績評価方法

原則として、最終日に行う試験の成績によって評価する。ただし、講義への積極的な参加（講師からの質問に対する積極的な発言など）があれば、プラス加点する。

科目	行政法	2単位
担当	法学部准教授 青木淳一	

行政法は、国や地方公共団体という行政活動の主体が当事者として登場する法律問題を考察対象とする。私たちの日常生活を見渡せば、実に多種多様な行政活動が関わっていることが容易にわかるだろう。各種の公的手続に必要な住民票は市町村が管理している。自動車を運転するには都道府県の公安委員会が発行する

免許が必要である。普段利用する鉄道の運賃は国（国土交通大臣）の認可を受けたものである。行政法は、このように国や地方公共団体が広く、深く関わる社会システムの存在理由、構造と機能を法的な視点から議論し、行政と国民の関係を考えるのである。

授業では、主に次の3つの観点から、行政法のエッセンスを講義する。第一に、行政活動には具体的にどのようなものがあり、その法的な仕組み、特徴はなにか。第二に、それらの行政活動は、いかなる場合に違法となるか。第三に、行政活動によって権利が侵害されたり、財産上の損害をこうむった国民は、どのような手続を通じて自分の権利や利益を回復することができるか。

なお、この授業は、行政法の体系を構成する三本柱である行政組織法、行政作用法、行政救済法のうち、とりわけ行政作用法、行政救済法を扱う。この2つの領域は車の両輪にたとえられるように、多岐にわたる論点が相互に連関する。行政作用法は、行政が国民に働きかける場面に焦点をあて、行政活動が適法か、違法かという法令適合性の判断が中心的課題であり、多数の行政法規に見られる一般抽象理論を組み上げたものを講学上「行政法総論」と呼ぶ。他方、行政救済法は、行政活動によって国民の権利が侵害され、財産的損害が生じたとき、国民が自己の権利・利益を回復するために採りうる手続、手段を考察の対象とする。行政法総論で学ぶ一般抽象理論を実用するための1つの舞台が行政救済法である。

〔第1回〕 行政法へのアプローチ

〔第2回〕 行政活動の法的仕組み（1）

〔第3回〕 行政活動の法的仕組み（2）

〔第4回〕 行政活動の法的仕組み（3）

〔第5回〕 行政法の基本原理

〔第6回〕 行政裁量

〔第7回〕 行政手続

〔第8回〕 行政上の不服申立て

〔第9回〕 行政訴訟（1）

〔第10回〕 行政訴訟（2）

〔第11回〕 国家賠償・損失補償

〔第12回〕 試験及び総括

◆テキスト

・橋本博之『行政判例ノート〔第3版〕』（弘文堂、2013年）

ISBN 978-4-335-35568-4

このほかにプリントを配付する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

憲法（人権、統治）及び民法（総則、物権、債権）をすでに履修しているか、現在学習中であることが望ましい。

この講義では、判例学習に重点を置く。したがって、指定されたテキスト（『行政判例ノート』）は必携である。また、最新版版の『六法』（出版社は問わない）を持参すること。

◆成績評価方法

中間テスト（2回程度）及び最終テストの結果に基づき評価する。

科目	法制史
担当	講師 原 禎嗣

日本近代法制史に関する概論的講義を行う。

我が国は、過去に何回か大規模な外国法継受を経験した。そこには、他国の法制度を受け入れることで、自国の法や社会を進歩に導くという内政上の要求を満たすことは勿論だが、母法国と共通する文化的基盤を有する「先進国」として振る舞い、その国との外交関係の維持発展に繋げたいとの思惑も確かに存在した。

本講義では、近世末期に我が国が経験した西洋法との接触から、既存の東洋的法文化との相剋、西洋的近代法体制の樹立までを概観する。具体的には、江戸時代後期の法制度を概説した後、明治初年から新政府によってなされた制度の改変や立法例を読み解き、我が国の歴史上最大規模の法継受の跡を辿りたい。

明治の立法事業は、治安維持と治外法権撤廃というふたつの目的のため、刑事法分野が最も先行した。その後、基本法たる憲法、関税自主権との関連で整備が急がれたものの、曲折を経て最後に完成した民事法という順番で進んだ。そこで本講義においてもこの順番で論を進め、それぞれ立法における継受のかたち、何を受け入れ、何を受け入れなかったのかについても考察を加えたい。

思うに、明治維新という政変を境に、我が国の社会は大きな変化を遂げたように見える。法制度についても同様であり、少なくとも維新後、江戸期の法は悉く廃され西洋風の法体系に取って代わられた。しかしながら、社会を統べるルールは一朝にして改変しうるものではない。新たな法の背景に見え隠れする前時代的なもの、言い換えるならば「法感覚」「法意識」といった日本の特性が、制度の大規模な変革を乗り越えて繋がっている、と考えるほうがより自然であることが多い。そしてそれら特性の検討からは、法制史学のみならず、現行法の解釈、運用にあたっても重要な示唆を得ることができる。

〔第1回〕 受講上の諸注意

〔第2回〕 江戸期幕府法制の概観（基本法）

〔第3回〕 江戸期幕府法制の概観（刑事・民事法）

〔第4回〕 明治の国家体制の変遷

〔第5回〕 刑法の編纂（仮刑律・新律綱領）

〔第6回〕 刑法の編纂（改定律例・旧刑法）

〔第7回〕 刑事訴訟法の編纂

〔第8回〕 憲法の編纂（憲法思想）

〔第9回〕 憲法の編纂（編纂過程）

〔第10回〕 民法の編纂

〔第11回〕 復習

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・霞信彦・原禎嗣他『日本法制史Ⅱ―中世・近世・近代―』（通信テキスト、2012年）

・霞信彦・原禎嗣他『日本法制史講義ノート〔第2版〕』（慶應義塾大学出版会、2012年）

ISBN 978-4-7664-1986-3

◆参考文献

・霞信彦他『日本法制史 史料集』（慶應義塾大学出版会、2003年）

・霞信彦『矩を踰えて 明治法制史断章』（慶應義塾大学出版会、2007年）

その他、参考となる文献は講義中適宜紹介する。

◆成績評価方法

最終日に筆記試験を実施する。

科目	法制史特殊
担当	講師 神野 潔

日本法の変遷を歴史的に把握することは、現行法を本質的に理解した相対化するために、極めて有効な手段のひとつである。現行法は近代の西洋法継受がその原点となっているが、日本の前近代法的要素が完全に排除されたわけではなく、また一方で、制定された法とは乖離した前近代的法意識が社会に存在し続けたことも指摘されている。日本法のこのような特異な歴史に注目して、本講義では、古代から近世までの日本法の変遷過程を、「法のかたち」・「裁判」・「罪と罰」・「婚姻と家族」というテーマに分けて、通史的に把握することを目指す（ただし網羅的にそれを行うことは時間的に困難なので、本講義で行う「通史的把握」とは、いわば飛び石を並べるような試みである）。例えば、第8・9回の「罪と罰」では、古代・中世・近世の各時期における刑事法制・罪の概念・刑罰のかたち等を、時代的・社会的コンテクストの中に位置付けて理解し、それらの共通性と非共通性、連続性と非連続性を考察する。

〔第1回〕 法史学の形成と展開（学問史を整理する）

〔第2回〕 法のかたち①（古代）

〔第3回〕 法のかたち②（中世）

〔第4回〕 法のかたち③（近世）

〔第5回〕 裁判①（古代）

〔第6回〕 裁判②（中世）

〔第7回〕 裁判③（近世）

〔第8回〕 罪と罰①（古代）

〔第9回〕 罪と罰②（中世・近世）

〔第10回〕 婚姻と家族①（古代）

〔第11回〕 婚姻と家族②（中世・近世）

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』（青林書院、2010年）

ISBN 978-4-417-01517-8

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

講義最終日に行う筆記試験（100点）で評価する。

科目	社会学特殊
担当	法学部教授 塩原良和

テーマ：移民・難民問題と「共生」への展望

国境を越えて移動する移民・難民の増加は、国民社会の構造や制度をますます変容させています。その一

方で、そのような人の移動を「国益」の観点から統制しようとする国家の政策は、特定の移住者を歓迎し、別の移住者たちを無視・排除する選別性を強めています。さらに、グローバル化のなかで不安を募らせるマジョリティ国民による、移民・難民への排外主義やレイシズムが多く先進諸国で顕在化しています。

本講義では、日本を含めた先進諸国におけるこうした移民・難民をめぐる状況に受講学生が関心をもち、より深く考えていくうえでの導きとなる、さまざまな社会学的視点を提供します。そのうえで、ますます大きな民族・文化的差異を含まざるを得ない現在社会において、人々が「共生」していくことを目指すいくつかの構想について学んでいきます。

本講義は

・短い配布文献を読んでの事前準備課題

・事前準備課題の内容を踏まえての、学生によるグループディスカッション

・グループディスカッションで提起された論点に対する、担当教員のレクチャー

・それらすべてを踏まえての、教員と学生との討議（ダイアログ・セッション）

・最終日の授業のまとめと総括レポート

の諸要素によって構成されています。履修学生は、そのすべてに積極的に参画することが求められています。

なお、授業計画は履修学生の人数などに応じて変更される場合があります。その場合は、初回の授業にて告知します。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 国民国家の多文化化と社会統合政策

〔第3回〕 日本の難民受入の現状と課題

〔第4回〕 日本の高度人材外国人受入政策の方向性

〔第5回〕 ダイアログ・セッション1

〔第6回〕 グローバリゼーションとアイデンティティ

〔第7回〕 現代世界のナショナリズムと排外主義

〔第8回〕 レイシズムと差別

〔第9回〕 ダイアログ・セッション2

〔第10回〕 多文化主義の限界をこえて

〔第11回〕 コスモポリタニズムと対話

〔第12回〕 授業のまとめ

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・塩原良和／稲津秀樹編著『社会的分断を越境する――他者と出会いなおす想像力』（青弓社、2017年）

・大澤真幸・塩原良和・橋本努・和田伸一郎『ナショナリズムとグローバリズム――越境と愛国のパラドックス』（新曜社、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎日、短いエッセイや解説文等の文献をプリントとして配布し、翌日のグループディスカッションのための準備をしていただきます。翌日までには無理なく準備できる程度の分量としたいと思います。

◆成績評価方法

・グループディスカッションのための事前準備課題（8％×5回）＝40％

・グループディスカッションへの積極的参加（5％×8回）＝40％

- ・ダイアログ・セッションへの積極的参加（5％×2回）＝10％
 - ・最終日提出の総括レポート＝10％
- 計：100％

科目	マス・コミュニケーション論	2単位
担当	法学部教授 大石 裕／法学部准教授 烏谷昌幸	

マス・コミュニケーションとジャーナリズムの政治的・社会的影響に関して講義する。

〔第1回〕 コミュニケーション、マス・コミュニケーション、ジャーナリズムのとらえ方

〔第2回〕 ジャーナリズムと権力（1）

〔第3回〕 ジャーナリズムと権力（2）

〔第4回〕 ジャーナリズムと権力（3）

〔第5回〕 ニュースの物語（1）

〔第6回〕 ニュースの物語（2）

〔第7回〕 メディア・フレームと社会運動

〔第8回〕 メディアの中の政治（1）：水俣病

〔第9回〕 メディアの中の政治（2）：沖縄基地問題

〔第10回〕 メディアの中の政治（3）：世論調査

〔第11回〕 まとめ、質疑応答

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・大石裕『メディアの中の政治』（勁草書房、2014年）ISBN 978-4-326-30227-7

◆参考文献

- ・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房、2005年）
- ・大石裕編著『戦後日本のメディアと市民意識』（ミネルヴァ書房、2012年）
- ・大石裕『批判する／批判されるジャーナリズム』（慶應義塾大学出版会、2017年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義内容は一見すると難解に見えますが、マス・コミュニケーションやジャーナリズムの実態を踏まえながら、できるだけわかりやすく講義を行うつもりです。受講者は、ニュースにできるだけ問題意識をもって接するようにしてください。逐次、時事問題解説も行う予定です。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	政治思想論	2単位
担当	講師 原田健二郎	

今日の政治における基本的かつ重要なトピックについて、主に西洋における代表的な思想を紹介しつつ、現代における議論状況を概観していきます。

各講義では、国家や自由、正義といった概念について、どのような考え方や論争状況があるのかを広く説明し、世界や日本の政治を深く理解するための手掛かりを得ていきたいと思います。講義全体を通じて、今日の政治を思想的かつ歴史的に理解する基盤を身につけることを目指します。

〔第1回〕 イントロダクションー政治思想史の概観

〔第2回〕 政治とは何か

〔第3回〕 国家と権力

〔第4回〕 政体と法

〔第5回〕 デモクラシー

〔第6回〕 自由とリベラリズム

〔第7回〕 共同体と市民社会

〔第8回〕 正義と平等

〔第9回〕 ネーションとエスニシティ

〔第10回〕 宗教と政治

〔第11回〕 戦争と平和ー国際関係の思想

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・川崎修・杉田敦編『現代政治理論〔新版〕』（有斐閣、2012年）
- ・小川仁志『はじめての政治哲学ー「正しさ」をめぐる23の問い』（講談社現代新書、2010年）
- ・川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史ー視座と論点』（岩波書店、2012年）
- ・宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。

◆成績評価方法

出席状況と最終日の試験により評価します。

科目	国際政治論	2単位
担当	法学部教授 添谷芳秀／講師 池上萬奈	

国際政治や外交理解のための基本的な概念について適宜説明しながら、戦後の国際政治（世界およびアジア）と日本外交の展開を概観する。授業の概要は以下のとおりである（〔S〕は添谷、〔I〕は池上が担当する）。

〔第1回〕 導入〔S〕

〔第2回〕 国際政治とは何か（主権国家体系と国際連合／国際連盟、パワーの概念）〔I〕

〔第3回〕 冷戦の発生から核の時代へ（ポツダム宣言から冷戦へ、日ソ国交回復、日本の国際連合加盟、キューバ危機、日韓基本条約）〔I〕

〔第4回〕 「九条・安保体制」とは（戦後憲法の誕生、サンフランシスコ講和と日米安保条約、自衛隊の誕生、日米安保条約の改定）〔S〕

〔第5回〕 南北問題と石油（途上国問題、石油危機と日本外交）〔I〕

〔第6回〕 アジアの冷戦（中国と台湾、朝鮮半島、ベトナム戦争）〔S〕

〔第7回〕 デタントの時代（二つのニクソンショック、日中国交正常化、福田ドクトリン）〔I〕

〔第8回〕 デタントの崩壊、新冷戦、冷戦の終焉（米中国交正常化、インドシナ紛争からカンボジア和平へ、冷戦の終焉と天安門事件）〔S〕

〔第9回〕 21世紀の諸問題（核拡散防止、テロとの戦い、サイバー安全保障、難民移民問題、宇宙空間）〔I〕

〔第10回〕 冷戦後の世界と日本外交（湾岸戦争、中国の台頭と台湾問題の新展開、北朝鮮問題、日本の国際平和協力と日米安保の進展、安

倍政権下の安保法制）〔S〕

〔第11回〕 トランプ政権下の世界、東アジア、日本〔S〕

〔第12回〕 総括〔I〕

◆テキスト

- ・テキストは指定せず、講義のレジメを配布する。

◆参考文献

- ・ジョセフ・ナイ、デイヴィッド・ウェルチ（田中明彦、村田晃嗣訳）『国際紛争ー理論と歴史』（有斐閣、2013年）
- ・添谷芳秀『安全保障を問いなおすー「九条ー安保体制」を越えて』（NHKブックス、2016年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

試験は講義内容を基に出題するが、可能な限り参考文献で講義内容を確認、補充することが望ましい。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	政治理論	2単位
担当	講師 慶 済姬	

政治学は基本的に権力に関する学問ともいえます。本講義の目的は、権力を中心にする政治学を理解するために、基礎的な政治理論とその政治理論を活用した実例を概観することにあります。講義では、現在民主主義の権力の元である市民の意思決定をコントロールする政治意識に関する理論、有権者や政治家の政治的決定に関する理論およびその実例などを考察します。具体的には、以下のような計画に沿って進めます。なお、以下の講義計画は、事情によって若干の変更がある場合もあります。

〔第1回〕 イントロダクション

- ・政治と権力
- ・政治学の主要分野
- ・本講義の構成

〔第2回〕 権力とイデオロギー 1

- ・イデオロギーの概念
- ・日本、アメリカ、韓国におけるイデオロギーの区分
- ・自由主義の展開 1

〔第3回〕 権力とイデオロギー 2

- ・自由主義の展開 2
- ・福祉国家論
- ・新自由主義

〔第4回〕 権力とイデオロギー 3

- ・民主主義論
- ・エリート主義
- ・多元主義

〔第5回〕 政治過程論 1

- ・政治過程の構成要因
- ・組織的アクター（政党、利益団体）と政治理論
- ・個人的アクター（政治家、有権者）と政治理論

〔第6回〕 政治過程論 2

- ・政治家と政治（理論と実証）：テキスト

〔第7回〕 公共選択論 1

- ・公共選択論の概念

- ・合理的選択理論
- ・選挙制度論：テキスト

〔第8回〕 公共選択論 2

- ・選挙制度の実証分析：テキスト

〔第9回〕 公共選択論 3

- ・投票行動の理論：テキスト

〔第10回〕 公共選択論 4

- ・投票行動の実証分析：テキスト

〔第11回〕 地方自治 1

- ・大都市制度の例：テキスト

〔第12回〕 地方自治 2・総括

- ・財政調整・道州制：テキスト
- ・総括
- ・試験

◆テキスト

- ・小林良彰編著『代議制民主主義の計量分析』（木鐸社、2016年）ISBN 978-4-8332-2499-4

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	政治過程論	2単位
担当	講師 金 宗郁	

政治過程論では、政治的装置や制度が「行うと考えられている」ことでなく、主に「現実に行っている」ことを研究対象にして議論される。つまり、現実の社会を分析し、どのようにすれば、望ましい社会へ先進できるかということに主眼が置かれる。そこで、本授業では国レベル（前半）と地方レベル（後半）に分けて各政治制度に関する概観とともに、それをめぐる政治過程の現状と課題について検討する。それに加えて政治過程の一つのアクターである市民に関して市民参加と協働を取り上げて最近の動向と議論を踏まえながらそれらの可能性を探る。

〔第1回〕 ガイダンス及び現代国家への発展過程

〔第2回〕 議院内閣制

〔第3回〕 公務員制度と改革

〔第4回〕 官僚制

〔第5回〕 官僚行動論

〔第6回〕 地方自治制度

〔第7回〕 地方分権改革の現状と課題

〔第8回〕 自治体の統治構造：二元代表制の現状と課題

〔第9回〕 自治体の行政改革：NPM（New Public Management）

〔第10回〕 市民参加と熟議民主主義への挑戦

〔第11回〕 協働と社会関係資本

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・伊藤光利・真淵勝・田中愛治『行政学』（有斐閣アルマ、2000年）
- ・真淵勝『行政学』（有斐閣、2009年）
- ・金宗郁『地方分権時代の自治体官僚』（木鐸社、2009年）

- ・佐々木信夫他『現代地方自治の課題』（学陽書房、2011年）
- ・篠原一編『討議デモクラシーの挑戦』（岩波書店、2012年）
- ◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
特になし
- ◆**成績評価方法**
最終日の試験による。

科目	日本政治史	2 単位
担当	法学部教授 玉井 清	

本授業は、日本政治史研究の現状と課題について、戦後のGHQによる占領統治下、我が国の中で醸成された歴史観に注目しながら考察を加え、現代の日本人が抱く歴史観、さらには政治社会観の淵源を探り、その特徴を浮き彫りにすることを目指している。

最初に、考察の前提として、歴史研究の意義と注意点を明らかにしたいと考えている。その上で、上記の問題意識に基づき近代の日本政治の実態を解き明かしていく。本授業は、明治から昭和戦前までの政治、軍事、社会、文化を対象とするが、とりわけ日中戦争から日米開戦を経て敗戦に至るまでの戦時下の政治あるいは社会現象に注目し、その内実の解説に重点を置く予定であり、それらの事象が戦後どのように封印、あるいは変容され語られるようになったかを検証する。

〔第 1 回〕 授業方針及び歴史研究の意義についての解説

〔第 2 回〕 歴史研究の基礎（1）現代から過去を照射する時の注意点

〔第 3 回〕 歴史研究の基礎（2）過去を内在的に理解することの重要性

〔第 4 回〕 資料（選挙ポスター）から読み解く日本政治史研究実践編（1）

〔第 5 回〕 資料（選挙ポスター）から読み解く日本政治史研究実践編（2）

〔第 6 回〕 近代日本と戦争

〔第 7 回〕 戦後日本の戦争観とその問題点

〔第 8 回〕 近代日本人の国家観と国際秩序観

〔第 9 回〕 占領統治下の言論空間

〔第10回〕 占領下封印された言論の内実について（1）一歌で読み解く日本精神史―

〔第11回〕 占領下封印された言論の内実について（2）一歌で読み解く日本精神史―

〔第12回〕 総括

◆**テキスト**

- ・指定しない。関連資料のプリントを適宜配布。

◆**参考文献**

- ・玉井清『第一回普選と選挙ポスター』（慶應義塾大学出版会、2013年）
- ・江藤淳『閉された言語空間―占領軍の検閲と戦後日本』（文藝春秋、1994年）
- ・平野共余子『天皇と接吻』（草思社、1998年）

◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
授業中の飲食私語厳禁

◆**成績評価方法**
最終日の試験による

科目	日本政治論	2 単位
担当	講師 小田義幸	

日本の政治をめぐる様々な言動は日々、メディアやインターネットを通じて国民に伝えられますが、断片的な政治現象を目の当たりにし、それを批評するだけでは日本の政治を理解したことにはなりません。日本政治を体系的に学び、歴史的視点や理論的視点から日本政治を見つめ直すことが欠かせません。本講義では、立法・行政・選挙・地方・マスメディアに焦点を当て、かつ、政治学的要素や政治史的要素を織り交ぜながら現在に至る日本政治について学んでもらい、そのダイナミズムの一端を知った上で真の理解へと受講者を導いていきたい。

〔第 1 回〕 オリエンテーション・日本政治をめぐる見方について考える

〔第 2 回〕 日本国憲法の誕生

〔第 3 回〕 日本の立法過程

〔第 4 回〕 日本の政党

〔第 5 回〕 後援会活動とその実態

〔第 6 回〕 日本の選挙制度

〔第 7 回〕 投票行動と日本の選挙

〔第 8 回〕 日本の内閣制度とその機能強化

〔第 9 回〕 日本の官僚制・中央省庁再編とその成果

〔第10回〕 日本の地方政治

〔第11回〕 マスメディアと日本政治

〔第12回〕 総括

◆**テキスト**

- ・レジュメは配布せず、板書で授業を進めていきます。また、テキストは特に指定しません。

◆**参考文献**

- ・久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学〔補訂版〕』（有斐閣、2011年）
- ・川出良枝・谷口将紀編『政治学』（東京大学出版会、2012年）
- ・真淵勝『行政学』（有斐閣、2009年）
- ・北岡伸一『自民党 政権党の38年』（中央公論新社、2008年）
- ・竹中治堅『首相支配 日本政治の変貌』（中央公論新社、2006年）
- ・竹中治堅『参議院とは何か 1947～2010』（中央公論新社、2010年）
- ・飯尾潤『日本の統治構造 官僚内閣制から議院内閣制へ』（中央公論新社、2007年）

※その他の文献については授業中に適宜紹介します。

◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
初学者でも受講可能です。

◆**成績評価方法**
最終日の試験（70％）＋小テスト（30％）

※授業終了30分前、授業に関する設問に対して論述形式で解答してもらい、授業終了後に提出していただきます〔最終日を除く毎回の授業で実施予定〕。

科目	地域研究（アフリカの開発と国家）	2 単位
担当	講師 利根川佳子	

本講義は、サハラ以南アフリカ諸国における開発とその政治的要因、そして同諸国が独立以降直面してきた主な課題を理解することを目的としています。基礎的な開発学の理論や概念を紹介するとともに、アフリカに対する開発援助の状況や日本との関係なども取り上げます。

基本的に講義形式で授業を進めますが、ディスカッションの時間を設け、現代のアフリカについて一緒に考えていきたいと思います。

〔第 1 回〕 アフリカ概観

〔第 2 回〕 植民地主義と脱植民地化

〔第 3 回〕 近代化論

〔第 4 回〕 従属論と世界システム論

〔第 5 回〕 新自由主義と構造調整

〔第 6 回〕 国家と開発

〔第 7 回〕 民主化と民主主義の定着

〔第 8 回〕 「市民社会」と NGO

〔第 9 回〕 教育と人材育成

〔第10回〕 アフリカと日本

〔第11回〕 質疑応答

〔第12回〕 総括

◆**テキスト**

- ・プリントを適宜配布する。

◆**参考文献**

- ・授業の中で紹介する。

◆**受講上の要望または受講上の前提条件**
特になし。

◆**成績評価方法**
最終日の試験による。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

★以下の科目の講義要綱は、文学部専門教育科目を参照してください。

哲学（専門）	2単位	講師	石田知子 北村直彰	社会学（専門）	文学部教授 講師	岡原正幸 澤田唯人
倫理学（専門）	2単位	講師	村上暁子	図書館・情報学	2単位	文学部教授 池谷のぞみ

★以下の科目の講義要綱は、経済学部専門教育科目を参照してください。

経済原論	2単位	講師	西 孝	金融論	2単位	講師	山上秀文
ゲーム理論	2単位	経済学部教授	穂刈 享	公共経済学	2単位	講師	金子 光
経済史	2単位	講師	諸田博昭 ドルネッティ、フィリップ	国際経済学	2単位	講師	久野 新
日本経済史	2単位	講師	青木 健	国際金融論	2単位	講師	田中 巖
社会政策	2単位	講師	齋藤香里	国際貿易論	2単位	講師	田中 巖
社会福祉論	2単位	講師	永井攻治	世界経済論	2単位	講師	久野 新
経済政策	2単位	経済学部教授	藤田康範 鄭 雨宗	人口論	2単位	講師	佐藤龍三郎
財政論	2単位	講師	倉地真太郎	会計学	2単位	講師	高瀬 央

I教養研究センター設置講座

科目	身体知—創造的コミュニケーションと言語—	2単位
担当	法学部教授 横山千晶	

本講座は、参加型・体験型の授業を通して、知力と身体感覚を相互的に磨き、言語力と非言語的コミュニケーション力の双方を育む、新しいタイプの授業です。通学生と通信教育過程の学生がともに学ぶことも大きな特徴です。今年は「現実と非現実」というテーマに着目して、文学作品と他者とのコミュニケーションから得た着想を、自らの創作につなげ、さまざまな表現媒体を使ったグループ創作を行います。最終的な作品は公開の形で発表します。

最近では声に出して読むこと自体が少なくなってきましたが、このクラスではまず朗読を通して自らの声、そして自分の身体表現を発見し、続いて「聞く」ことを経て、さまざまなメディアや発表形態を使った創作へとつなげていきます。クラスでは以下のプロセスを踏んでいきます。

- 自分の言葉と解釈を見つける
現実と非現実をテーマにした二つの作品を読みます。グループワークを通して議論することで、異なる意見に出会います。
- 声に出す
続いて朗読することで、自らの声をみつける作業を行います。うまく読む必要はありません。むしろ、自分らしい「声」を見出してください。どの文章を読んでいるときに一番声が出やすいか。読むことで解釈は変わってくるか。同じ文章でも他人が読むとどうなるのか、を意識してみます。
- さまざまな「身体感覚」と「表現法」を使ってみる
声の次は自分の体と表現法に注目します。違う場所で朗読すると言葉がどう異なって解釈できるか。言葉を絵にしてみるとどうか、体を使って表現してみるとどうか。パロディにしてみるとどうか。さまざまな表現の可能性を身体を通じて模索してみます。
- 聞く、そして創作する
その次は「聞く」作業に入ります。他者の話を聞くことから、その話の新たな解釈へとつなげ、そこからグループで創作活動を行います。1～3で踏んできたプロセスを活かしてください。
- 発表する
最終作品は創作発表会として一般に公開します。発表のあとで聴衆との意見交換を行います。発表の形態については授業の中で皆で話し合っていきます。

本授業は、参加・体験型授業で最大限の効果を挙げるために、夏期集中講座として実施します。通学生との共同学習のために時間割が少々普段の夏期スクーリングの時間割と異なりますので気をつけてください。
1日に2コマ分の授業（90分×2）を4日行った後、

3コマ分の授業（90分×3）を2日行い、最終日の3コマ中、最後の2コマを成果発表会にあてます。
授業は8月14日（月）～19日（土）の6日間（第Ⅱ期）に行いますが、開始時間は13時とし、3限（13時～14時30分）、4限（14時45分～16時15分）を用い、それに加えて、18日と19日は5限（16時30分～18時）も用います。

授業計画は以下の通りです。
8月14日
〔第1回〕 イントロダクション
〔第2回〕 藤枝静男の「一家団欒」を声に出して読んでみる

8月15日
〔第3回〕 「一家団欒」についてディスカッション
〔第4回〕 Joe Menoの“People Are Becoming Clouds”（翻訳）を読んでみる

8月16日
〔第5回〕 Joe Menoの“People Are Becoming Clouds”についてディスカッション
〔第6回〕 身体ワークショップ「現実と非現実」を意識してみる

8月17日
〔第7回〕 他者の話を聞いてみる
〔第8回〕 他者の話から物語を創造する（宿題：創作を行う）

8月18日
〔第9回〕 個々の創作のテーマの紹介
〔第10回〕 創作発表のグループ作り
〔第11回〕 創作発表会の準備

8月19日
〔第12回〕 創作発表会の準備
〔第13回〕 創作発表会①
〔第14回〕 創作発表会②と聴衆との意見交換、振り返り

- ◆テキスト
・プリントを適宜配布します。
- ◆参考文献
・随時紹介します。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
演劇などの身体表現の経験のあるなしや朗読の得意・不得意はまったく問いません。むしろ、人前で何かを表現したことのない人、そのような勇気が今までなかった人を歓迎します。授業では日本語を使って作品を読みます。
グループ・ワークが多いので、遅刻をしないようにしてください。また創作発表会の前の日と当日は準備と後片付けで5時間目以降も少し残っていただく可能性があります。
- ◆成績評価方法
平常点（授業への積極的な参加、課題）：50％
最終成果発表会：50％

- ◆開設科目の分類
総合教育科目 3分野科目（人文科学分野）となります。
- ◆募集人員
募集人数は通信教育課程生 10名（受講者総数は20名で通学課程生10名との合同授業となります。）
- ◆履修手続について
この科目を履修する場合は、スクーリング出席申込時に、別途申込理由（任意の用紙・A4）の提出が必要です。
詳細は『2017年度夏期・体育・実験・教職課程スクーリング案内』を参照してください。
- ◆履修者の選抜について
応募者の申込理由などで審査し、教養研究センターが10名選抜します。
受講を許可された学生には6月のはじめに通知します。
- ◆質問・相談
chacky@keio.jpまでどうぞ

J

教職課程専門教育科目

教職に関する専門教育科目

科目	現代教師論	2単位
担当	教職課程センター准教授 小林大祐	

現代における公教育の意義と、公教育に従事する教師が果たす役割、また教師の研修と身分保障について概説する。適性判断や進路形成に役立つキャンパス内外の諸機会についても、適宜、情報を提供したい。 〔第1回〕 イントロダクション 〔第2回〕 現代における公教育の意義 〔第3回〕 現代における公教育の意義 〔第4回〕 現代における公教育の意義 〔第5回〕 現代における公教育の意義 〔第6回〕 現代における公教育の意義 〔第7回〕 公教育に従事する教師が果たす役割 〔第8回〕 公教育に従事する教師が果たす役割 〔第9回〕 公教育に従事する教師が果たす役割 〔第10回〕 教師の研修と身分保障 〔第11回〕 教師の研修と身分保障 〔第12回〕 総括 ◆テキスト ・久富善之・佐藤博『新採教師はなぜ追いつめられたのか』（高文研、2010年）ISBN 978-4-87498-437-6 ・『日本国憲法〔新装版〕』（講談社学術文庫、2013年）ISBN 978-4-06-292201-2 ◆参考文献 ・堀尾輝久『新版・教育の自由と権利——国民の学習権と教師の責務』（青木書店、2002年） ・高見勝利編『あたらしい憲法のはなし 他二篇』（岩波現代文庫、2013年） ◆受講上の前提条件 開講に向けて受講者の方で準備すべきことがいくつかある。その内容は、テキストを一読して感想文を書くこと、テキスト以外の資料を独力で集めること、ブックトークの題材を入手することなどである。詳しくは、夏期スクーリング受講票の発送後（7月中旬予定）に、教職ログブック上で告知する。準備を怠る者には受講を認めない。 ◆成績評価方法 筆記された作品を主たる材料として評価することにしたい。		
科目	国語科教育法	3単位
担当	講師 中地譲治	

「こと」と「は」の結びついた「ことば」、その「は」に樹木の「葉」という漢字を宛ててきたことに、日本

語の特質があると思われます。この言葉の不思議を生徒は真剣に考えます。片々とした言葉によっても大きな「こころ」や「いのち」に触れて、自らの言葉を見つめ直します。教科教育法の授業では、履修者が教員になってみて、生徒にもなってみて、実際の教室と同じ体験をすることが求められます。そのためには授業は参画的でなければなりません。履修者それぞれが18回にわたる授業の参画者となって、「国語」の成り立ち、教材研究、指導方法、評価の問題等々を協働して考え、実践しましょう。話題にしたいことを挙げておきます。

（1）「国語」とは？
（2）学習指導要領の動向—アクティブ・ラーニングへの注目
（3）実践に生かせる指導案づくり
（4）言語活動としての「読む・書く・話す／聞く」
（5）「考える」と「見る」こと—PISA型学力とは？

教育実習を前提にした模擬授業を行うこともこの授業に求められています。履修者の人数によって時間配分は変わりますが、計画—実践—反省というサイクルを二回は経験できるようにしたいと思います。模擬授業を行うために考えるべきことを挙げておきます。

（1）「教材選択」と「教材研究」
（2）生徒が主体になるための「言語活動」
（3）「質問」と「発問」—問うことの意味
（4）「形成的評価」のためのテスト問題
（5）学びの継続性と「自己啓発」

授業計画を次に示します。講義～ラベルワーク～模擬授業が一体になって進みます。

〔1日目〕 言語行為の成り立ち—国語教育の基盤を考える

1時間目 「話す・聞く」と「読む・書く」—ラベルとラベルトーク
2時間目 発問の意味と方法—自己形成的な国語力とは
3時間目 知識創造と参画教育—ゲストを招いて

〔2日目〕 国語教育の現在—今を生きるための言葉を求める

4時間目 「生きる力」と「PISA型学力」
5時間目 「見る」ことの学力観—映像テキストに即して
6時間目 私の授業実践①—ゲストを招いて

〔3日目〕 現代文テキストに即して—論理と共感とを取り結ぶ

7時間目 現代文テキストでの模擬授業①
8時間目 現代文テキストでの模擬授業②
9時間目 現代文テキストでの模擬授業③

〔4日目〕 言語活動—“言葉を生きる”ための身体技法

10時間目	言語活動の実践①
11時間目	言語活動の実践②
12時間目	私の授業実践②ーゲストを招いて
〔5日目〕	古典テキストに即してーこの風土に生かされる
13時間目	古典テキストでの模擬授業①
14時間目	古典テキストでの模擬授業②
15時間目	古典テキストでの模擬授業③
〔6日目〕	まとめと課題ー“経験知”を形にする
16時間目	この授業の自己評価項目をつくるー「ラベル図考」の共同作製
17時間目	“私の変容”を形にするー「学びのプロセス図解」の作製
18時間目	図解を論述するー「学びのプロセスレポート」「自己評価レポート」の作製

※以上は昨年度の展開ですが、本年度はゲストの都合などにより若干の変更があります。

◆テキスト

・オリジナルテキストを準備します。また、適宜資料を配付します。

◆参考文献

- ・『学習指導要領・国語科「解説編」』（中学校と高等学校と二冊。文部科学省のホームページからもダウンロードできる。）
- ・林義樹（編）『ラベルワークで進める参画型教育ー学び手の発想を活かすアクティブ・ラーニングの理論・方法・実践』（ナカニシヤ出版、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

教科教育法という科目は、知識の蓄積・整理という側面と、授業実践という側面とがバランスよく配列・展開されなければなりません。したがって個々人ではなく教室全体で学んでいくことになります。教室に居合わせること（スクーリング）を、豊かな協同経験＝言語経験に高めることが大切です。そのためには、授業への主体的な参画意欲がなければなりません。また、週一回の授業であれば宿題は翌週までにこなせばよいのですが、6日連続の授業では、毎晩課題をこなさなくてはなりません。体調を整え、集中して取り組んでください。また、授業参画のために「ラベルワーク」を用います。双方向的、多方向的な授業になるので、活動的に楽しく取り組みます。

◆成績評価方法

平常点（出席状況、毎回の「ラベルワーク」への取り組み）と模擬授業（教案作成も含む）の内容、および課題（「学びのプロセス図解」「学びのプロセスレポート」「自己評価レポート」の作成）を総合して評価します。

科目	国語科教育法特論Ⅲ	2単位
担当	講師 鶴田正寿	

2016年12月、中央教育審議会から文部科学省に次期学習指導要領答申がなされました。このうち、高等学校国語科の科目構成は、共通必修科目については、現行が「国語総合」1科目であるのに対し、「現代の国語」と「言語文化」の2科目になり、選択科目については、現行の「国語表現」「現代文」（A・B）「古典」

（A・B）5科目が、「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」の4科目編成に変わっています。選択科目の前二者における、「論理」や「文学」を「国語」の前に冠したような名称は、これまでの学習指導要領には見られなかったものです。

国語につきものの読解力は、従来の国語教育では、およそ暗黙のうちに、文学的文章を読み解く力と考えられてきました。それが、2000年以降3年ごとに、OECD生徒の学習到達度調査（PISA）が実施され、いわゆる「PISA型」読解力が云々されるにおよび、従来型の読解力では新しい時代の要請に応えられない、という批判が起きました。教科書はこのような変化に対応した工夫がなされてはいるものの、教材の中心はやはり「文学作品」です。

こうした傾向が、次期指導要領のもとでどのように変化していくのかは未だ明らかではありませんが、本講座では、「読解」を中心とする国語のあり方を問い直し、「読む」「書く」「話す」など国語の基本となる行為の意味を、教育改革の動向を見据えながら実践的に考えていきます。以下に各回の計画を提示します。受講者の人数にもよりますが、第3回（2日目）以降は模擬授業の形態とし、具体的な授業展開に応じたトピックを取り上げるため、順序が前後する場合があることを心得ておいて下さい。

- 〔第1回〕「国語」教育の意味
- 〔第2回〕学習指導要領と学習指導案
- 〔第3回〕現代文の扱い方
- 〔第4回〕古典の扱い方
- 〔第5回〕発問と応答
- 〔第6回〕論理的思考の構築
- 〔第7回〕板書の方法
- 〔第8回〕グループ学習
- 〔第9回〕資料の選択と利用法
- 〔第10回〕「PISA型」読解力
- 〔第11回〕国語改革の方向性
- 〔第12回〕教育現場の課題

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

高校または中学用の国語教科書を手元に用意しておいて下さい。また、その中から任意の教材（授業が4～5時間で完結する教材であることを条件とします）を取り上げ、学習指導案を作成し、初日の授業に持参して下さい。なお、次期学習指導要領答申は文部科学省のウェブサイトで公開されています。現行の指導要領とあわせて、受講前に目を通しておくことを勧めます。

◆成績評価方法

模擬授業（学習指導案を含む）、平常点（参加態度、授業評価票の提出等）、レポート課題（または試験）を総合して評価します。

科目	社会科・地理歴史科教育法特論Ⅲ	2単位
担当	講師 中間和洋	

これから皆さんが社会科・地理歴史科の教育実習を行っていく上で、必要な教科指導に関する知識や実践

的な技能を身につけていくことが本講座の狙いです。「社会科・公民科教育法特論Ⅲ」同様、教材研究の方法、授業案の作成、それに基づく模擬授業の実施、学生・担当教員を交えた意見交換と相互評価などを行います。また、受講者の人数によっては、学習指導案の作成事例、体験的な学習活動を生かした授業の在り方を探求する視点から、「社会科・公民科教育法特論Ⅲ」と合同で、大学キャンパス内や、周辺地域の見学なども実施する予定です。

- 〔第1回〕ガイダンスⅠ〔社会科・地理歴史科の授業について〕
- 〔第2回〕ガイダンスⅡ〔模擬授業のテーマについて〕
- 〔第3回〕社会科・地理歴史科の内容構成
- 〔第4回〕年間指導計画と学習指導案の作成指針
- 〔第5回〕学習指導案の作成Ⅰ
- 〔第6回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅰ
- 〔第7回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅱ
- 〔第8回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅲ
- 〔第9回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅳ
- 〔第10回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅴ
- 〔第11回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅵ
- 〔第12回〕大学キャンパス内及び周辺地域のフィールドワーク、振り返り

◆テキスト

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版、2014年）各自PDFをダウンロードすること
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（教育出版、2014年）各自PDFをダウンロードすること
- ・「文部科学省検定済教科書 中学校社会科または高等学校地理歴史科」分野・科目・出版社不問。ただし、模擬授業を実施する科目・分野の教科書を用意してください。新規購入する場合は、教科書販売専門店で購入してください。東京では、「第一教科書」〔新宿区百人町1-22-20、中央線大久保駅南口徒歩1分、03-3363-2764〕で購入してください。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

「社会科・公民科教育法特論Ⅲ」同様、模擬授業等の演習中心の授業となるため、欠席や遅刻はしないでください。開講時の「ガイダンス」を通じて受講生に各自が担当する模擬授業のテーマを決めていただきます。教材研究、学習指導案の作成を進めていくために、実習予定科目、専攻分野等も考慮して、いくつかのテーマをあらかじめ考えておいてください。また、扱う科目・分野の教科書や副教材等は事前に用意してください。

◆成績評価方法

最終レポートと平常点（出席状況を含む）により評価します。平常点は、模擬授業に対する取り組み姿勢、学習指導案の内容、指導案に基づく授業展開、相互評価の観点、毎時間提出する小レポートなどによります。

科目	社会科・公民科教育法特論Ⅲ	2単位
担当	講師 太田正行	

長年公立高等学校で社会科・公民科の授業を担当してきた経験を生かして、これから皆さんが行う教育実習に必要な教科指導等に関する知識や技能を実践的に身に付けることを目的としています。教材研究の方法、授業案の作成、それに基づく模擬授業の実施、受講生同士の相互評価などを行います。また、学外に出て地域巡検や資料館見学なども実施する予定です。

- 〔第1回〕ガイダンス
- 〔第2回〕社会科・公民科の内容構成
- 〔第3回〕年間指導計画と学習指導案の作成
- 〔第4回〕学習指導と評価
- 〔第5～第11回〕模擬授業
- 〔第12回〕まとめ

◆テキスト

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（教育出版、2010年）各自PDFをダウンロードすること
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版、2014年）各自PDFをダウンロードすること
- ・「文部科学省検定済教科書 中学校社会または高等学校公民」分野や科目、出版社不問。ただし、模擬授業実施予定の科目、分野の教科書を用意してください。新規購入する場合には、教科書販売専門店で購入してください。東京では、「第一教科書」(新宿区百人町1-22-20 中央線大久保駅南口徒歩1分 (03) 3363-2764などで購入してください。また、神田の三省堂本店でも一部の教科書は販売しています。また、最新版の「学習指導要領解説」は文部科学省のホームページからダウンロードもできます。

◆参考文献

- ・日本公民教育学会編『公民教育事典』（第一学習社、2009年）
- ・日本公民教育学会編『テキストブック公民教育』（第一学習社、2013年）
- ・佐藤徹編著『新しい社会科教育法』（東海大学出版会、2013年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

模擬授業等の演習中心の授業となるため、欠席や遅刻はしないで下さい。最初の「ガイダンス」において、各自の模擬授業のテーマを決定しますので、専攻分野、得意分野、実習予定科目（分野）なども考慮し、いくつかのテーマを考えておいて下さい。また、扱う予定の科目や分野の教科書や副教材等は事前に準備しておきましょう。また、予定したテーマの資料等も事前に用意しておくとういでしょう。

◆成績評価方法

最終レポート及び平常点（出席状況を含む）により評価します。平常点とは、具体的には模擬授業への取り組み姿勢、授業案の内容、指導内容及び指導方法、受講生同士による相互評価、毎時間提出する小レポートなどです。

科目 英語科教育法	3 単位
担当 講師 渋谷和郎	

- 目的・目標
- 将来、英語教育に携わろうと考えている者を対象に、日本の中学校・高等学校の英語教師として最低限必要と思われる理論・技術/実践について学ぶ。
- 学習項目
- (1) カリキュラム・目的論
- ・カリキュラム ・学習指導要領 ・目的論
- (2) 学習対象言語論
- ・教材 ・教科書
- (3) 学習者論
- ・普遍的要因 ・個人的要因
- (4) 教師論
- ・教授法
- (5) 評価論
- ・評価論（授業評価・学習者評価）
- ・テスト論
- (6) 各論
- ・Speaking ・Listening ・Writing
- ・Reading ・Grammar
- (7) 実践論
- ・指導案 ・模擬授業 ・授業分析
- (8) これからの英語教師・英語教育
- 授業予定（計18コマ）
- ・スクーリングの前半は、講義を通して英語科教育法の理論的側面を、後半は、模擬授業を通じて実践的な側面を学ぶ。
- ・授業では、参加者主体のディスカッション・アクティビティなども行う。
- ・模擬授業は各自1回（20分）を担当する。それぞれの模擬授業の後に、10分のフィードバック・セッションを行い、主観的・客観的に授業を振り返る。模擬授業では、参加者は自ら模擬授業を実践するだけでなく、他の人の授業評価も行う。
- | 授業 | 内容 | 教科書該当箇所 |
|--------|------------------|------------------|
| 〔第1回〕 | Introduction・目的論 | 〔第1・2章〕 |
| 〔第2回〕 | 学習指導要領（1） | 〔第3章〕 |
| 〔第3回〕 | 学習指導要領（2） | 〔第6・9章〕 |
| 〔第4回〕 | 学習者論 | 〔第4・8章〕 |
| 〔第5回〕 | 方法論（1） | 〔第5章〕 |
| 〔第6回〕 | 方法論（2） | 〔第7・14章〕 |
| 〔第7回〕 | 教材論 | 〔第16・17章〕 |
| 〔第8回〕 | 評価論 | 〔第15・20章〕 |
| 〔第9回〕 | 模擬授業準備 | 〔第12・18・20章・教案例〕 |
| 〔第10回〕 | 模擬授業（1）（3名） | |
| 〔第11回〕 | 模擬授業（2）（3名） | |
| 〔第12回〕 | 模擬授業（3）（3名） | |
| 〔第13回〕 | 模擬授業（4）（3名） | |
| 〔第14回〕 | 模擬授業（5）（3名） | |
| 〔第15回〕 | 模擬授業（6）（3名） | |
| 〔第16回〕 | 模擬授業（7）（3名） | |
| 〔第17回〕 | 模擬授業（8）（3名） | |
| 〔第18回〕 | 総括・筆記試験 | |
- ◆テキスト
- ・望月昭彦編、久保田章・盤崎弘貞・卯城祐司著『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店、2010年） ISBN 978-4-469-24558-5

- ◆参考文献
- ・高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』（金星堂、2011年）
- ・バトラー後藤裕子『日本の小学校英語を考える』（三省堂、2005年）
- ・バトラー後藤裕子『英語学習は早いほど良いのか』（岩波新書、2015年）
- ・白井泰弘『英語教師のための第二言語習得論入門』（大修館書店、2012年）
- ＊その他、必要に応じて、授業の中で関連する参考文献を紹介します。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 予定表の講義項目に沿って、教科書該当箇所を事前に読んで授業に出席すること。
- ◆成績評価方法
- （1）出席 15％ （2）授業内活動 10％ （3）模擬授業（教案作成も含む） 25％ （4）筆記試験 50％

科目 英語科教育法特論Ⅲ	2 単位
担当 文学部教授 中村優治	

- 将来、英語教育に携わることを希望する者を対象としており、英語科教育法の理論の更なる理解と共に、言語テストの理論と実践をも生かした授業実践方法を研究します。授業は指導と評価の融合を念頭におきつつ、特に、言語テスト理論の説明とテスト問題作成実践を中心に展開します。受講者はお互いが提供したテスト問題例をテスト理論と実践の両面から分析し、よりよい評価、授業に向けて、アイデア、問題点の共有、問題の解決をめざして活発な討論をしてほしいと考えています。
- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 リスニングテスト理論講義
- 〔第3回〕 リスニングテスト問題作成、討論
- 〔第4回〕 スピーキングテスト理論講義
- 〔第5回〕 スピーキングテスト問題作成、討論
- 〔第6回〕 リーディングテスト理論講義
- 〔第7回〕 リーディングテスト問題作成、討論
- 〔第8回〕 ライティングテスト理論講義
- 〔第9回〕 ライティングテスト問題作成、討論
- 〔第10回〕 統合的テスト理論講義（CLIL、EMIも含む）
- 〔第11回〕 統合的テスト理論講義（CLIL、EMIも含む）
- 〔第12回〕 総括
- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 授業では毎回テスト問題を作成し、提示してもらいますが、あらかじめ4技能のテスト問題を準備しておいてほしいと思います。テスト問題はPCなどで授業時間外に作成、印刷しておいてください。PCが手元がない場合は、塾内ネットワークアカウント（＝ITC

- アカウント、有料）を取得しておいてください。
- ◆成績評価方法
- 最終レポートと平常点（出席状況を含む）により評価します。平常点は授業・討論に対する取り組み、毎回提出するテスト問題およびその内容などが含まれます。

科目 教職実践演習（中・高）	2 単位
担当 教職課程センター専任講師 安藤真聡	

- 教職課程での学習の軌跡を振り返り、教師としての自らの課題を理解するとともに、教職に必要な資質や能力、適性について最終確認するための授業です。生徒指導・学級経営の事例研究や、模擬授業、教職課程での学習の集大成となる研究レポートの執筆等を通じて、教職生活に向けた最終準備を行います。
- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 教職課程での学習の振り返り（1）／研究レポートの検討（1）
- 〔第3回〕 教職課程での学習の振り返り（2）／研究レポートの検討（2）
- 〔第4回〕 教職課程での学習の振り返り（3）／研究レポートの検討（3）
- 〔第5回〕 生徒指導・学級経営の事例研究（1）
- 〔第6回〕 生徒指導・学級経営の事例研究（2）
- 〔第7回〕 生徒指導・学級経営の事例研究（3）

教科に関する専門教育科目

科目 英会話	1 単位
担当 講師 ヤング、ジェローム	

- Introduction to Debate. This is a course in English communication, focusing on communicative skills. In-class discussions will focus on learning debating skills and students will have many opportunities to debate on many controversial topics in English. Group and individual presentations will be a regular feature in this class. There is no textbook required, but preparation before each session will be necessary and a high level of participation is expected.
- 〔第1回〕 Introduction; Practice of Debate Thinking, Debate Procedures
- 〔第2回〕 Practice Debate # 1：Women’s Equality (female politicians in Japan)
- 〔第3回〕 Hat Debate (Quiz # 1)
- 〔第4回〕 Debate # 1：Women’s Equality; Practice Debate # 2（2020 Olympics）
- 〔第5回〕 Mind Maps; Rebuttal Tennis, i.e. The Devil’s Advocate

- 〔第8回〕 生徒指導・学級経営の事例研究（4）
- 〔第9回〕 模擬授業（1）
- 〔第10回〕 模擬授業（2）
- 〔第11回〕 模擬授業（3）
- 〔第12回〕 総括
- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 教職課程での学習の集大成となる研究レポート（8000字以上）を事前に執筆し、スクーリング開講日の前日までに「教職ログブック」上で提出することを履修の前提条件とします。このレポートが期日までに提出されない場合は、履修を認めません。なおレポートの詳細や、スクーリング期間中に行う事例研究や模擬授業の分担については、5月下旬までに「教職ログブック」上で指示を出します。定期的に「教職ログブック」をチェックするとともに、スクーリングに向けて、各自漏れの無いように準備を進めて下さい。
- ◆成績評価方法
- 研究レポート（スクーリング前・スクーリング後の二回提出）、発表、模擬授業、平常点（授業やログブック上での積極的な発言等）で評価します。教職に就くことを想定し、無断欠席はもちろん、遅刻に対しても厳しい評価をせざるを得ません。また、発表の準備を怠ったり、分担をきちんと全うできない場合には、単位を取得することはできません。

教科に関する専門教育科目

- 〔第6回〕 Debate # 2：The Olympics should be abolished.
- 〔第7回〕 Hat Debate (Quiz # 2)
- 〔第8回〕 Debate # 3：The Jury Trial should be abolished. (Debate Topic Selection)
- 〔第9回〕 Life Boat Ethics exercises
- 〔第10回〕 Debate # 4（to be decided）
- 〔第11回〕 Balloon Ethics Debate (Thesis Worksheet)
- 〔第12回〕 Balloon Ethics Debate (Summary)
- ◆テキスト
- ・指定しない。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- Regular on-time attendance, preparation of daily homework assignments, and active participation in class (using English at all times).
- When students have questions, they can ask me before, during, or after class, or via email (hayamajay@yahoo.com).
- ◆成績評価方法
- There will be continuous evaluation of a student’s performance and progress in this class. Final grades will be based on attendance, active class participation, and

timely completion of all homework assignments.